

平成 27 年度第 3 回一関市まち・ひと・しごと創生有識者会議

日 時 平成 27 年 8 月 26 日 (水) 13 時～15 時
場 所 一関保健センター 会議室 3

次 第

1 開 会

2 協 議

- (1) 「一関市人口ビジョン (素案)」について
- (2) 「一関市まち・ひと・しごと創生総合戦略 (骨子案)」について

3 閉 会

平成27年度第3回一関市まち・ひと・しごと創生有識者会議 出席者名簿

【委員】

団体名	職名	氏名	備考
岩手県南広域振興局	経営企画部産業振興課主査	秋山 真紀子	
いわて平泉農業協同組合	代表理事専務	伊藤 龍治	
ニッコー・ファインメック(株)	代表取締役社長	小野寺 真澄	
一関コミュニティFM	放送局長代理	河合 純子	(副座長)
東日本旅客鉄道	一ノ関駅助役	熊谷 由美子	欠席
一関信用金庫	常務理事	佐々木 吉幸	
一関商工会議所	商業部会長	佐藤 馨	
岩手日日新聞社	総務局総務部	佐藤 進	欠席
一関商工会議所	女性会会長	佐藤 善子	
一関工業高等専門学校	校長	柴田 尚志	欠席
一関市男女共同参画プラン策定懇話会	委員	鈴木 里美	欠席
一関市子ども・子育て会議	委員	滝上 亜寿香	
岩手県立大学	地域連携室特任准教授	千葉 実	(座長)
一関公共職業安定所	所長	千葉 幸則	
連合岩手一関地域協議会	事務局長	野村 勉	
岩手銀行	一関支店支店長	藤田 勝敏	
修紅短期大学	講師	渡邊 美紀子	

【市出席者】

市長公室長	佐藤 善仁	
政策企画課長	千葉 敏紀	
政策企画課主幹	藤島 修	
政策企画課長補佐	佐藤 正幸	

一関市人口ビジョン（素案）

一関市人口ビジョン

【目次】

1. 人口の現状分析

(1) 人口動向分析

- ①人口の推移
- ②人口構造・人口動態
- ③地域別の人口推移・人口構造・人口動態
- ④自然増減
- ⑤社会増減
- ⑥世帯
- ⑦一関市の現状・課題について

(2) 将来人口の推計と分析

- ①総人口・年齢区分別人口の推移（国立社会保障・人口問題研究所）
- ②将来人口の推計
- ③地域別将来人口の推計

(3) 人口の変化が地域の将来に与える影響の分析・考察

- ①年齢層・地域ごとの人口増減率
- ②各種影響の整理

2. 人口の将来展望

(1) 将来展望に必要な調査・分析

- ①市民アンケートの実施について
- ②市民意識調査の分析

(2) 一関市が目指すべき将来の方向

- ①基本的方向性
- ②具体的作戦と目標値

(3) 人口の将来展望

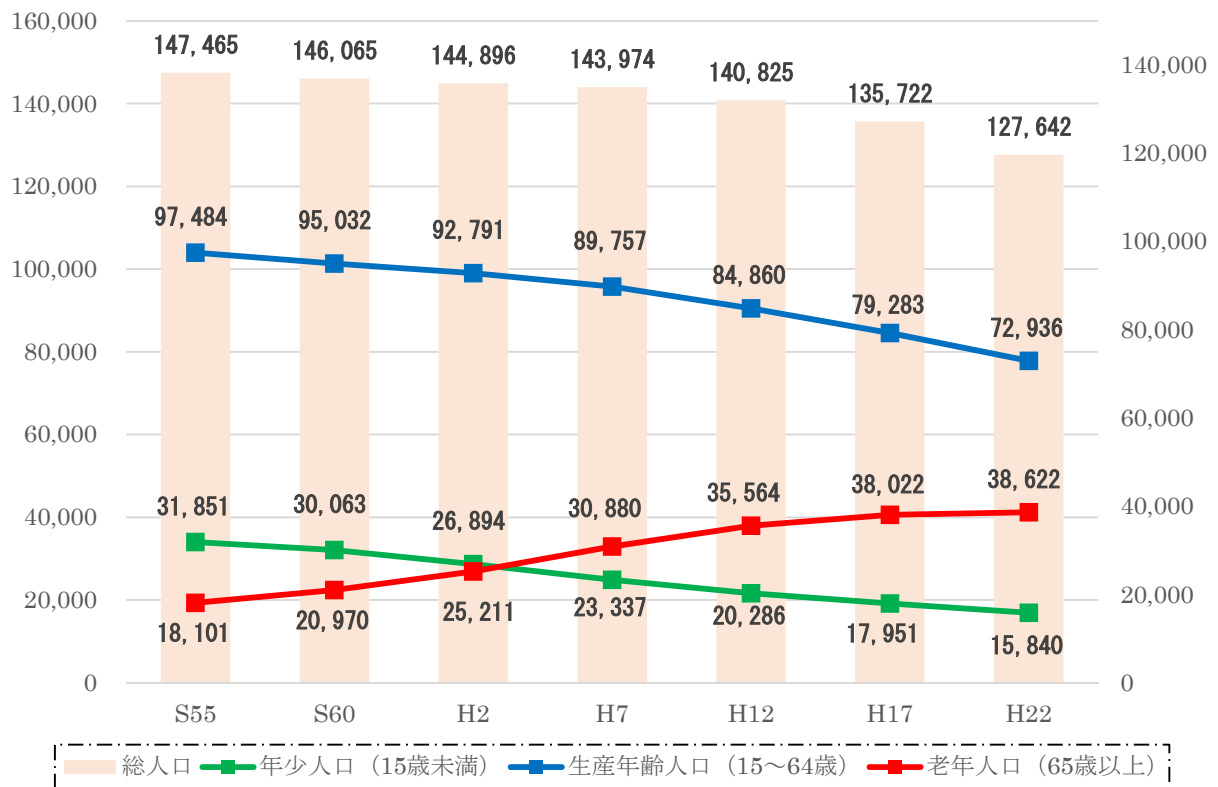
1. 人口の現状分析

(1) 人口動向分析

①人口の推移

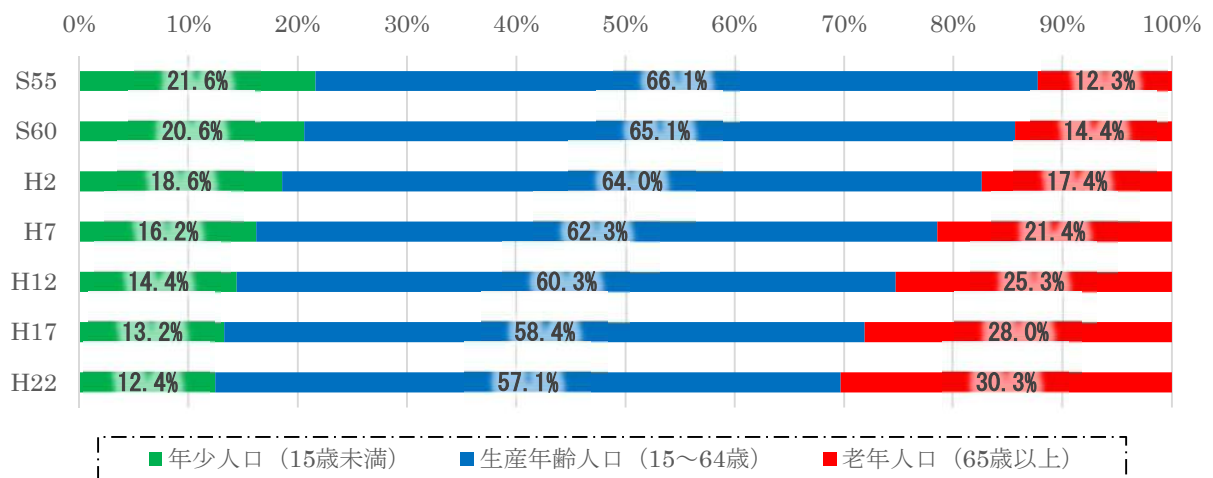
■国勢調査における総人口・年齢3区分別人口の推移

総人口・年齢3区分別人口の推移



国勢調査より

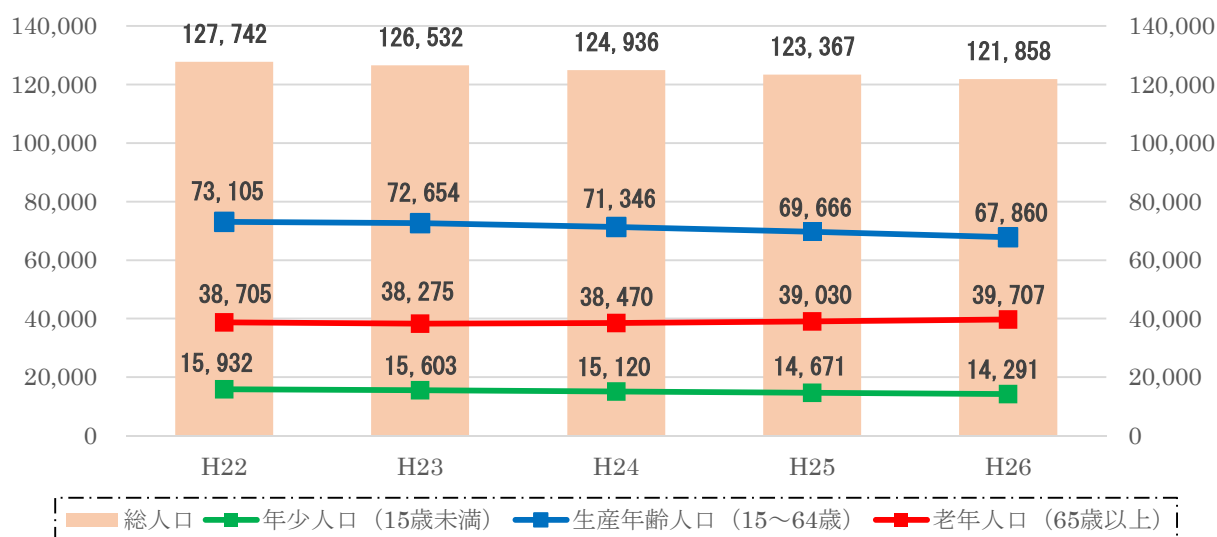
年齢3区分人口の割合の推移



国勢調査より

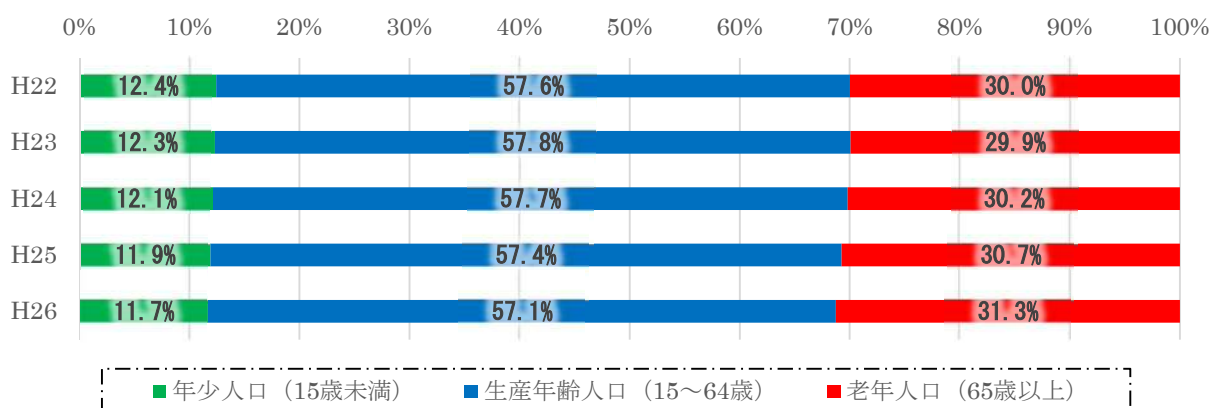
■近年の総人口・年齢3区分別人口の推移

近年の総人口・年齢3区分別人口の推移



岩手県毎月人口移動報告年報より

近年の年齢3区分別人口の割合の推移



岩手県毎月人口移動報告年報より

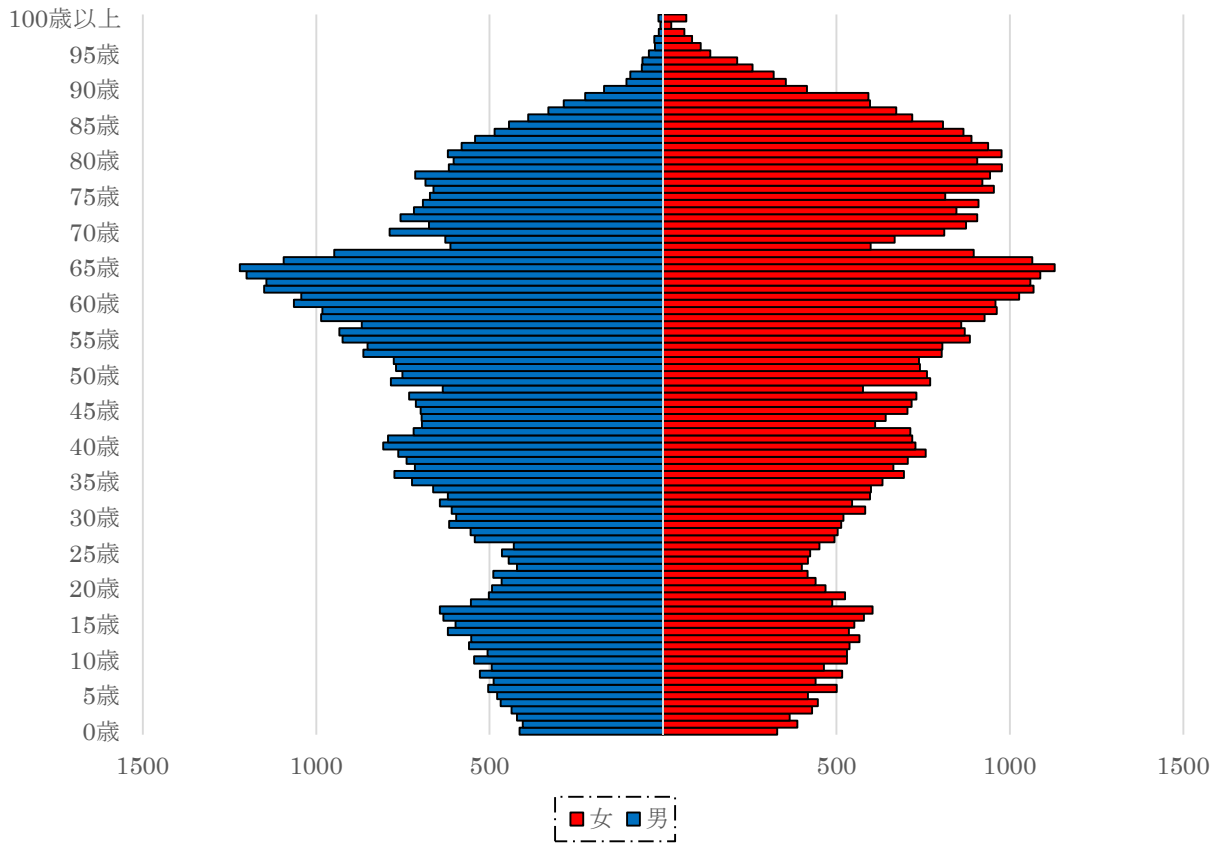
総人口は減少傾向。平成7年には老年人口が年少人口を超えている。

- ・市内総人口について、昭和55年から平成26年までの実績値では、総人口、生産年齢人口、年少人口は一貫して減少傾向であり、老年人口は増加傾向である。
- ・平成7年には、老年人口が年少人口を超え、以降差は拡大している。
- ・昭和55年には老年人口1人を生産年齢人口5.4人で支えていたが、平成26年には老年人口1人を生産年齢人口1.7人で支えている。

②人口構造・人口動態

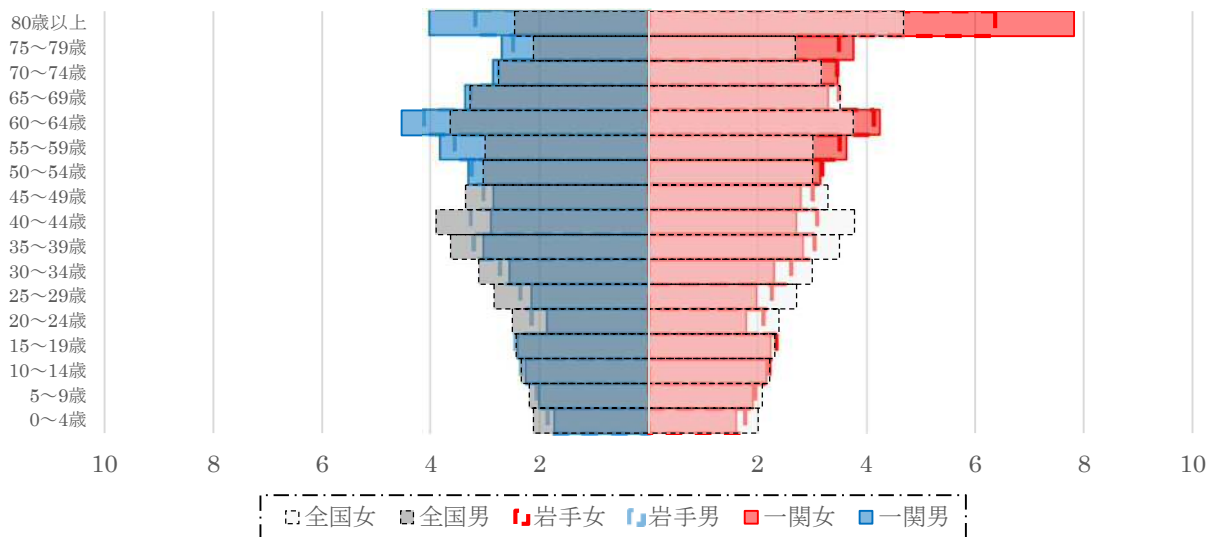
■一関市の人口構造

一関市人口ピラミッド



住民基本台帳より

一関市、岩手県、全国の人口構造の比較



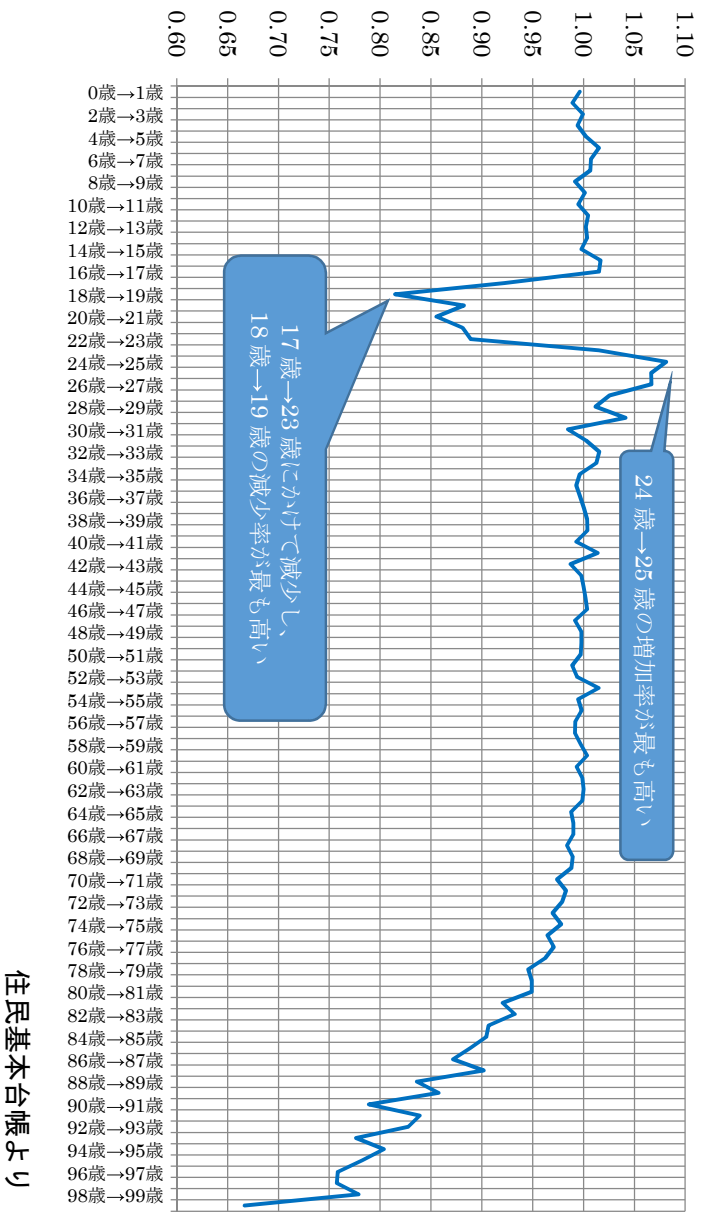
住民基本台帳より

子育て世代の割合が低く、総人口は減少傾向

- ・全国、岩手県の年齢構造と比較すると、20代から40代の子育て世代の割合が低くなっている。
- ・男女共に生産年齢人口の中で20歳から24歳の若者の人口が最も少ない。
- ・高齢者の割合は多く、80歳以上の高齢の女性の割合が全国と比べ特に多い。

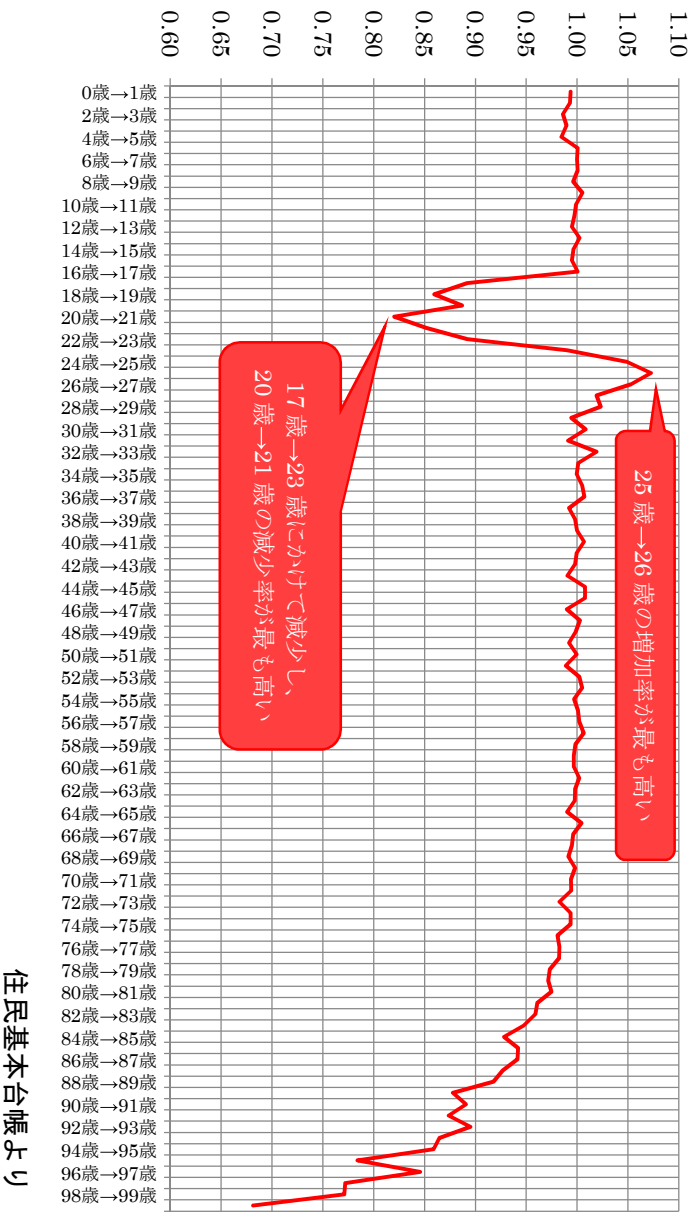
■近年の人口動態 (男女別・1歳区分)

人口変化率平均 (男・平成22～26年)



住民基本台帳より

人口変化率平均 (女・平成22～26年)



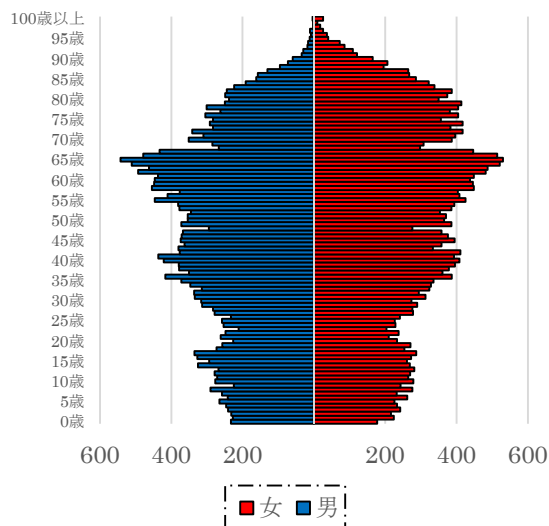
住民基本台帳より

③地域別の人口構造・人口動態

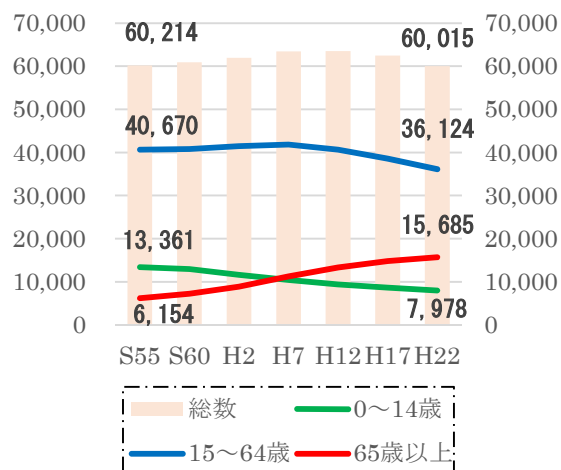
一関地域

■一関地域の人口構造・人口動態

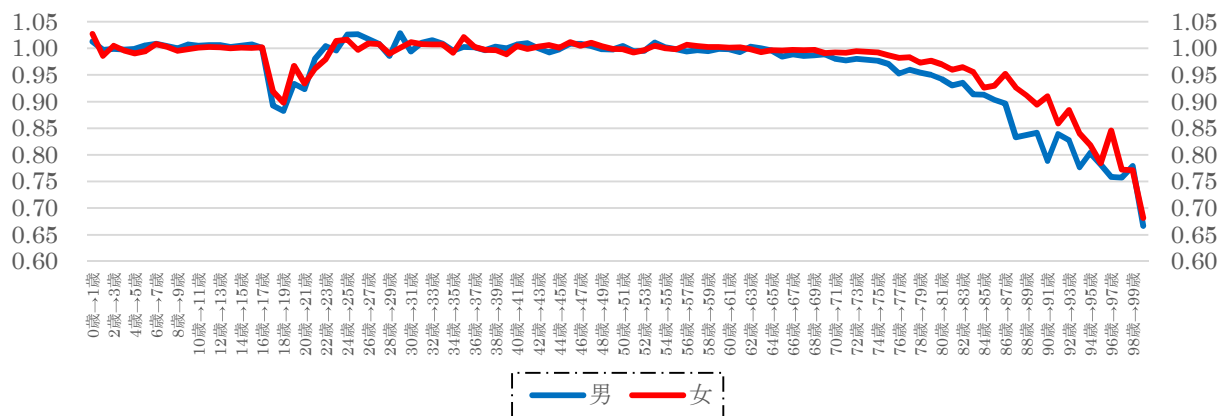
一関地域人口ピラミッド



一関地域
年齢3区分別人口の推移



一関地域
H22-26平均変化率



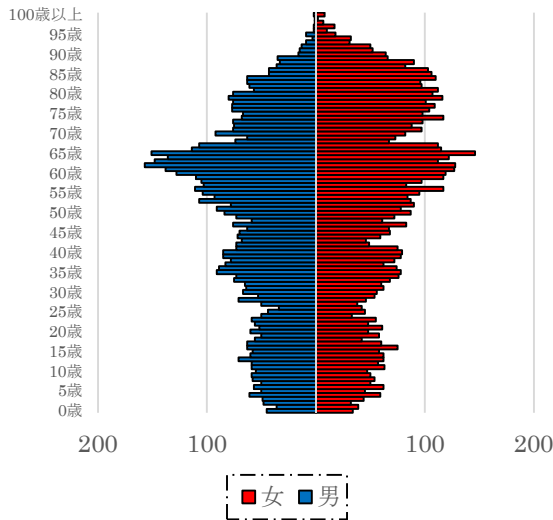
男女共に20歳前後で減少傾向

- ・ 10代後半から20代中頃まで減少傾向にある。
- ・ 女性の19歳→20歳の減少率が低い
- ・ 生産年齢人口の中で、男女ともに23歳が最も少ない。

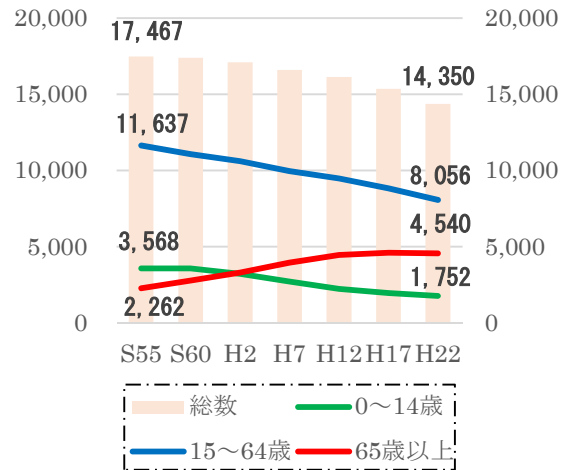
花泉地域

■花泉地域の人口構造・人口動態

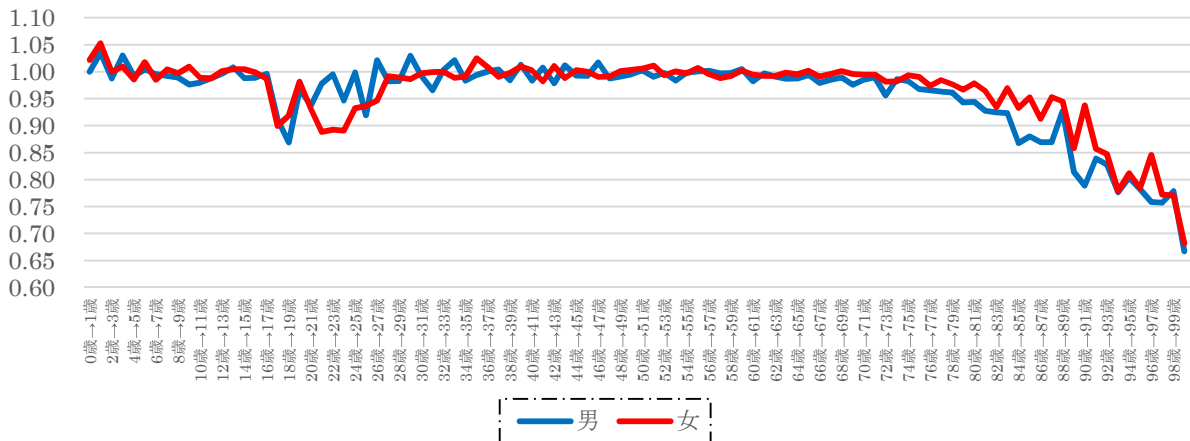
花泉地域人口ピラミッド



花泉地域
年齢3区分別人口の推移



花泉地域
H22-26年平均変化率



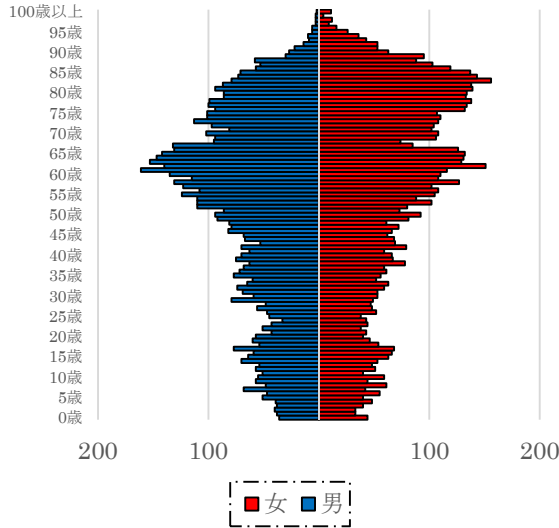
女性は 20 代後半まで減少傾向

- ・ 10 代後半から 20 代後半まで減少傾向にある。
- ・ 男女とも 19 歳→20 歳の減少率が低い。
- ・ 女性は 30 歳頃まで減少傾向。
- ・ 生産年齢の中で、男性 26 歳、女性 24 歳が最も少ない。

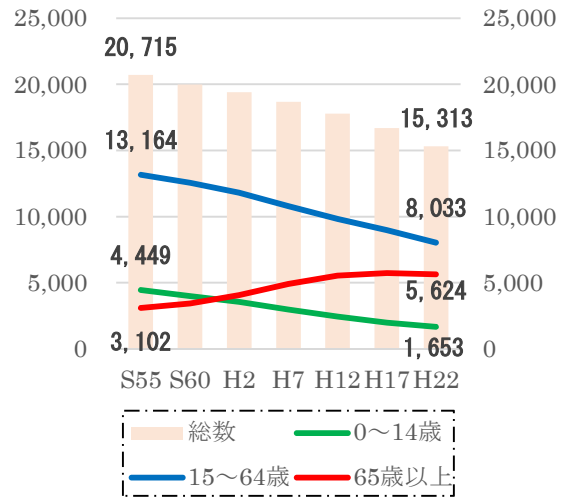
大東地域

■大東地域の人口構造・人口動態

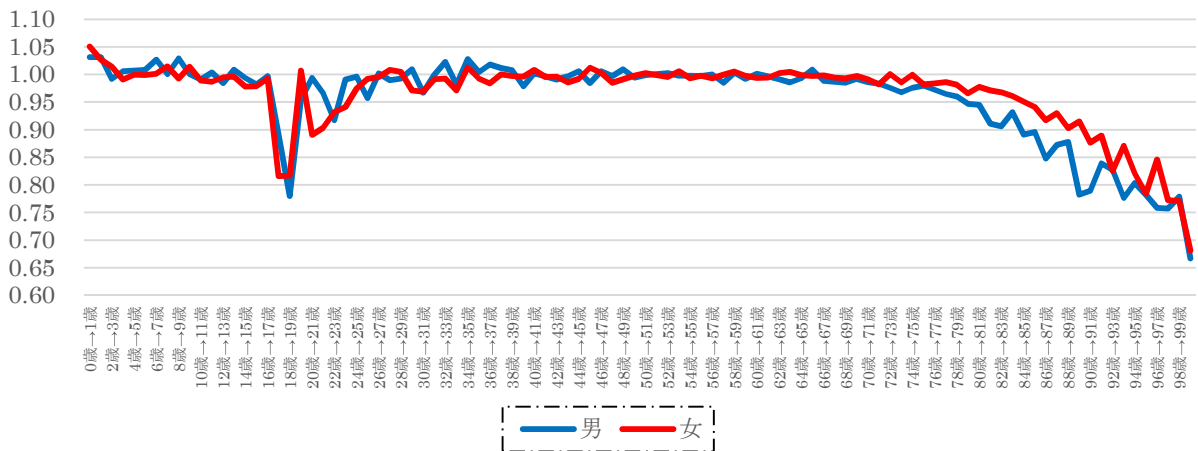
大東地域人口ピラミッド



大東地域
年齢3区分別人口の推移



大東地域
H22-26年平均変化率



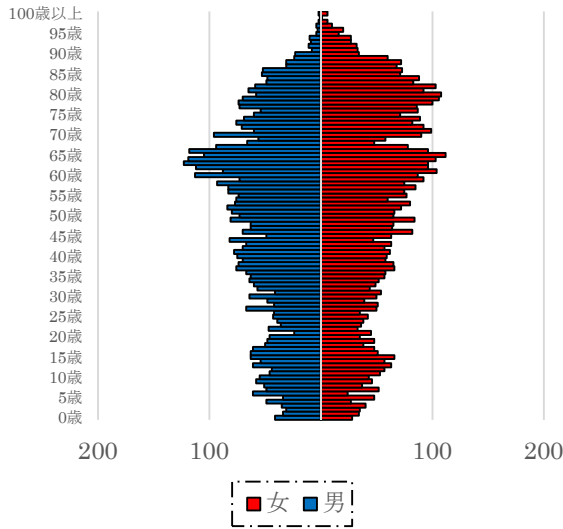
男女共に 18 歳→19 歳で大幅な減少

- ・他地域に比べて、18歳→19歳の減少率が高い。
- ・女性は19歳→20歳で増加している。
- ・生産年齢人口のうち男性24歳、女性22歳と25歳が最も少ない。

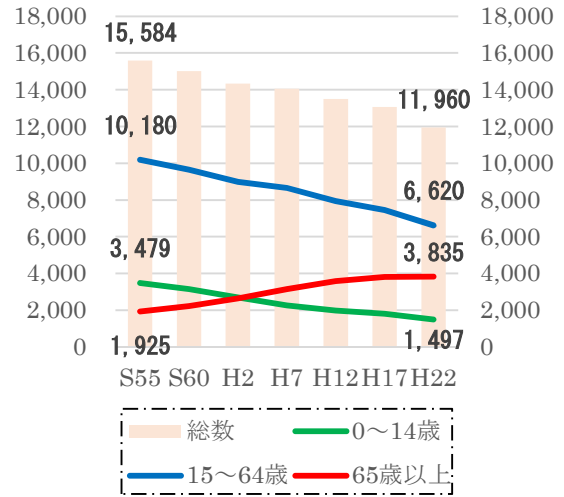
千厩地域

■千厩地域の人口構造・人口動態

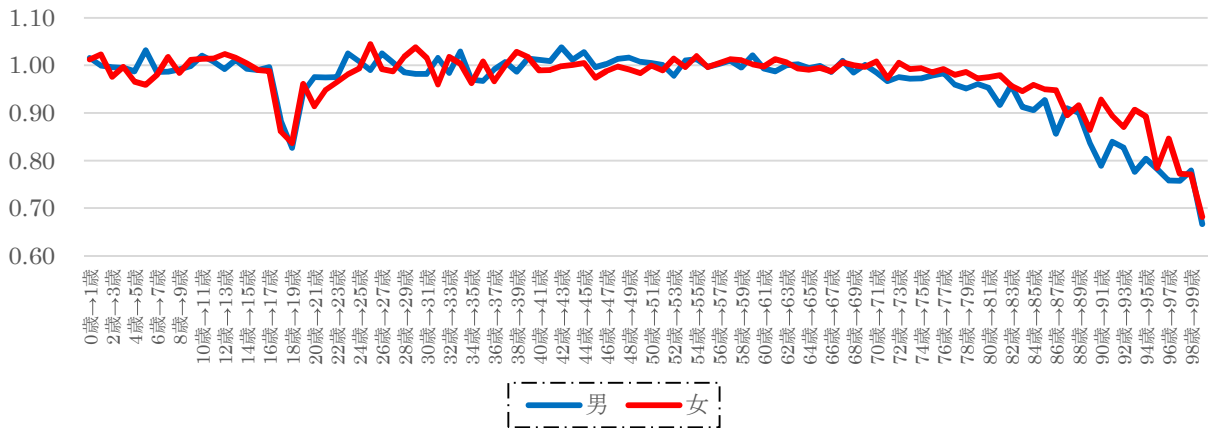
千厩地域人口ピラミッド



千厩地域
年齢3区分別人口の推移



千厩地域
H22-26年平均変化率



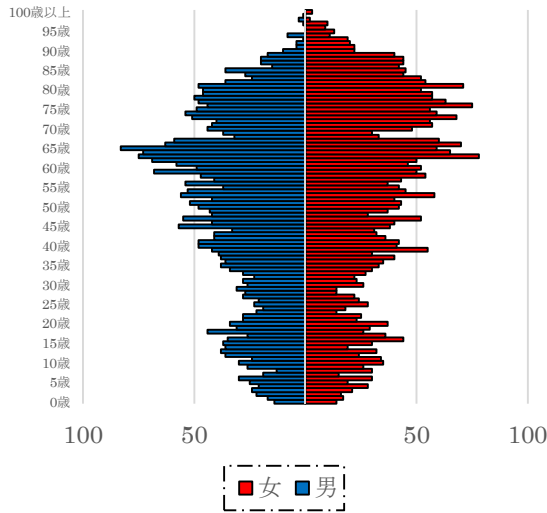
男女共に20歳前後で減少傾向

- ・10代後半から20代中盤まで減少傾向にある。
- ・他地域に比べて、20代中盤の女性の減少率が低い。
- ・生産年齢人口のうち男性21歳、女性22歳が最も少ない

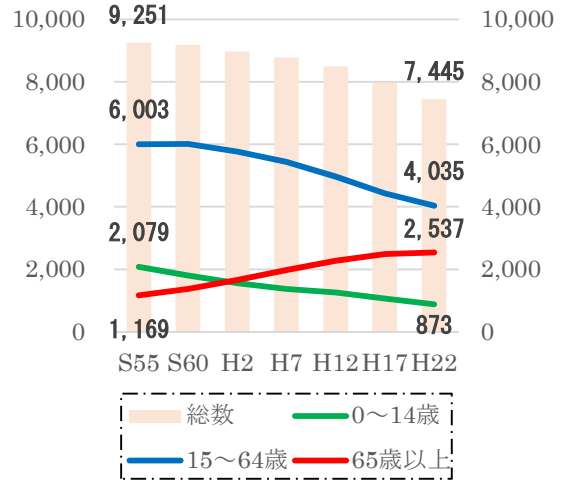
東山地域

■東山地域の人口構造・人口動態

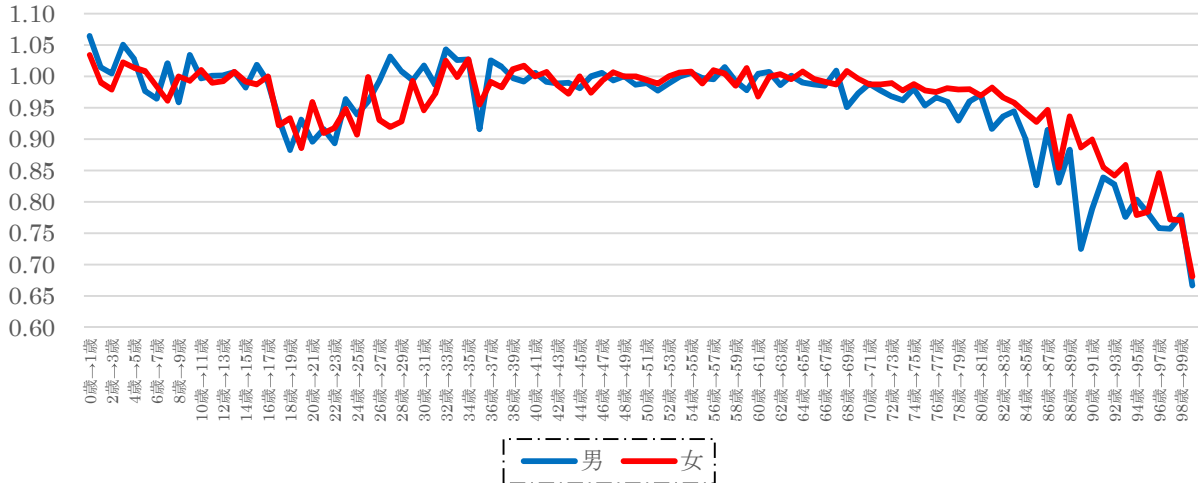
東山地域人口ピラミッド



東山地域
年齢3区分別人口の推移



東山地域
H22-26平均変化率



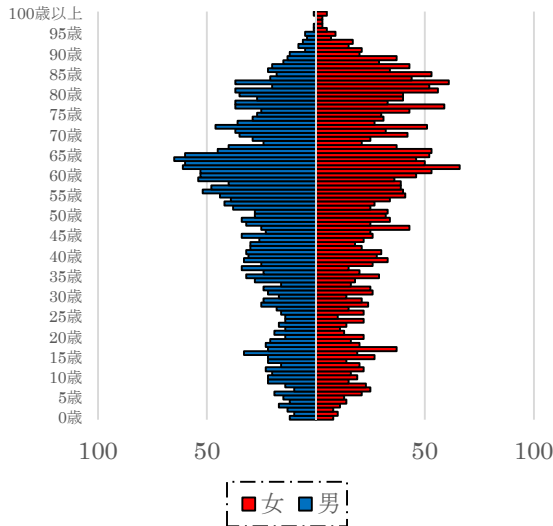
女性は30代前半まで減少傾向

- ・10代後半から20代後半まで減少傾向にある。
- ・女性は30歳頃まで減少傾向。
- ・生産年齢人口のうち男性24歳、女性28歳、29歳が最も少ない。

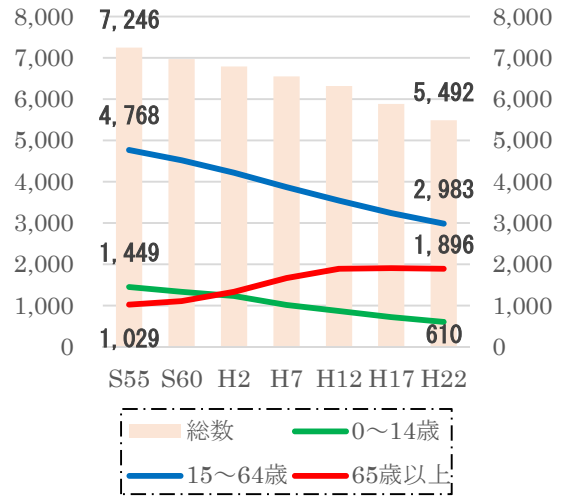
室根地域

■室根地域の人口構造・人口動態

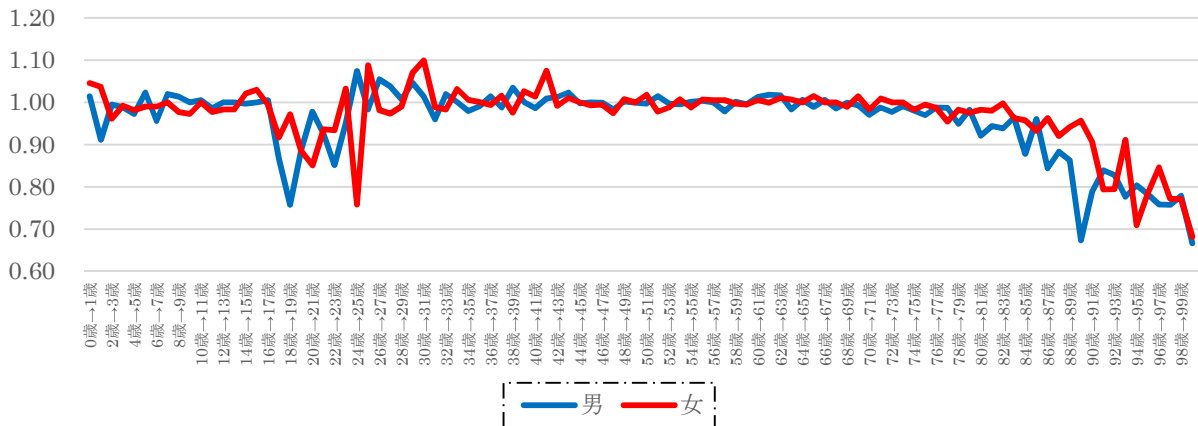
室根地域人口ピラミッド



室根地域
年齢3区分別人口の推移



室根地域
H22-26年平均変化率



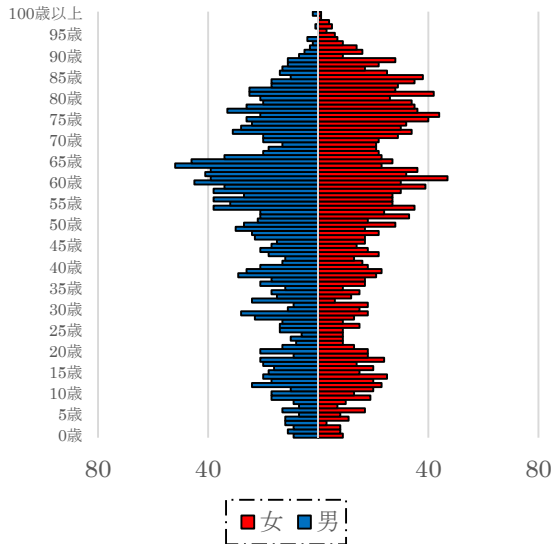
女性の18歳→19歳の減少率が低い

- ・男女共に、10代後半から20代中頃までの変化率にバラつき。
- ・女性の18歳→19歳の減少率が低い。
- ・生産年齢人口のうち、男性20歳、22歳、24歳及び25歳、女性25歳が最も少ない。

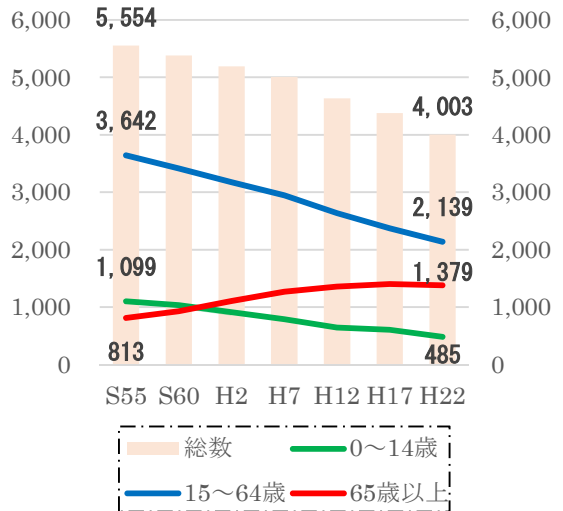
川崎地域

■川崎地域の人口構造・人口動態

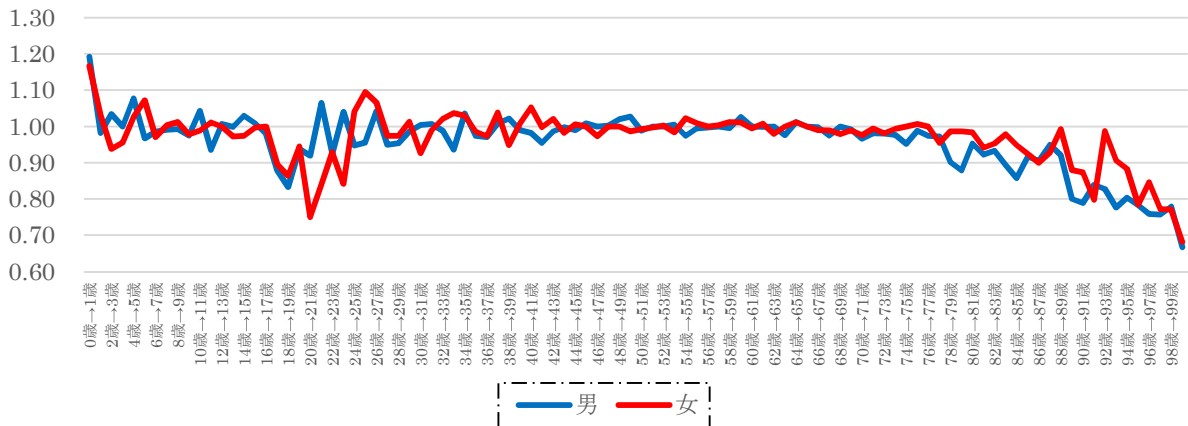
川崎地域人口ピラミッド



川崎地域 年齢3区分別人口の推移



川崎地域 H22-26平均変化率



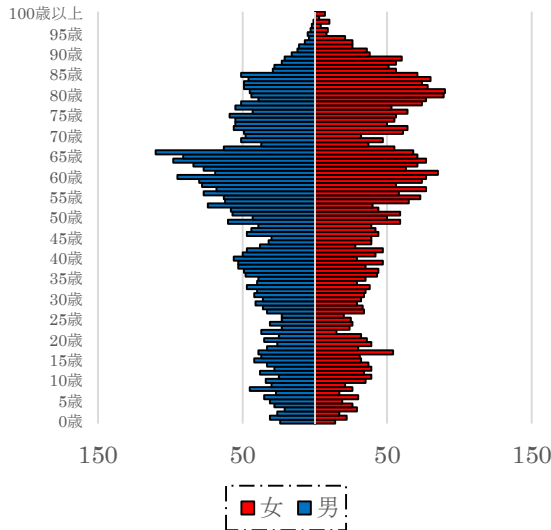
20代前半で男女の変化率に差

- ・ 10代後半から20代中頃まで減少傾向にある。
- ・ 20代前半では男性に比べて、女性の減少率が高い。
- ・ 生産年齢人口で最も少ないのは男性24歳、女性32歳。

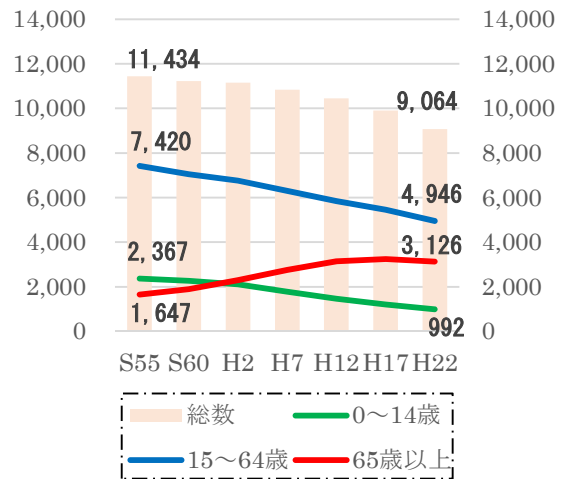
藤沢地域

■ 藤沢地域の人口構造・人口動態

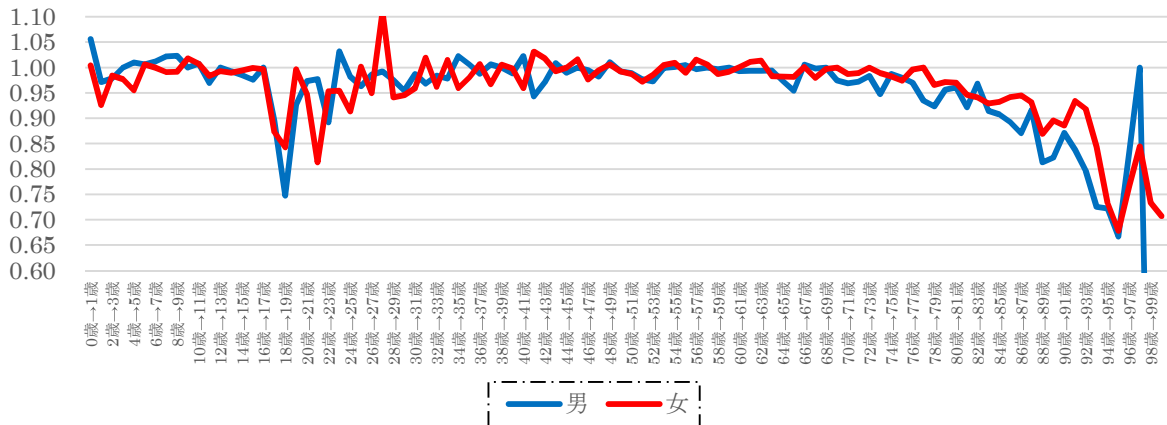
藤沢地域人口ピラミッド



藤沢地域 年齢3区分別人口の推移



藤沢地域 H23-26平均変化率



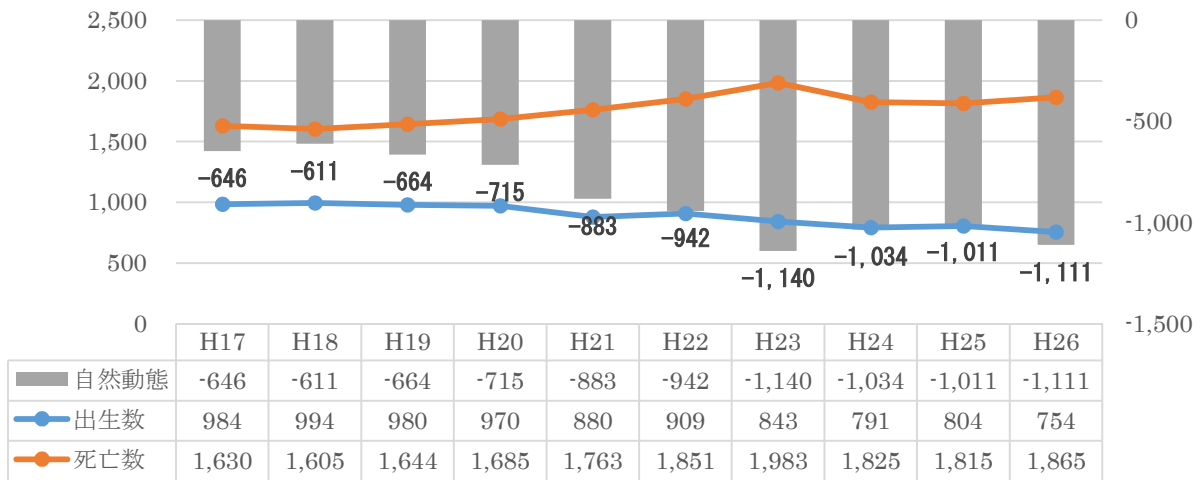
男性の18歳→19歳で大幅な減少

- ・ 10代後半から20代中盤まで減少傾向にある。
- ・ 男性の18歳→19歳の減少率が高い。
- ・ 生産年齢人口のうち男性23歳、25歳及び26歳、女性21歳が最も少ない

④自然増減

■出生数と死亡数の推移

出生数と死亡数の推移（自然動態）



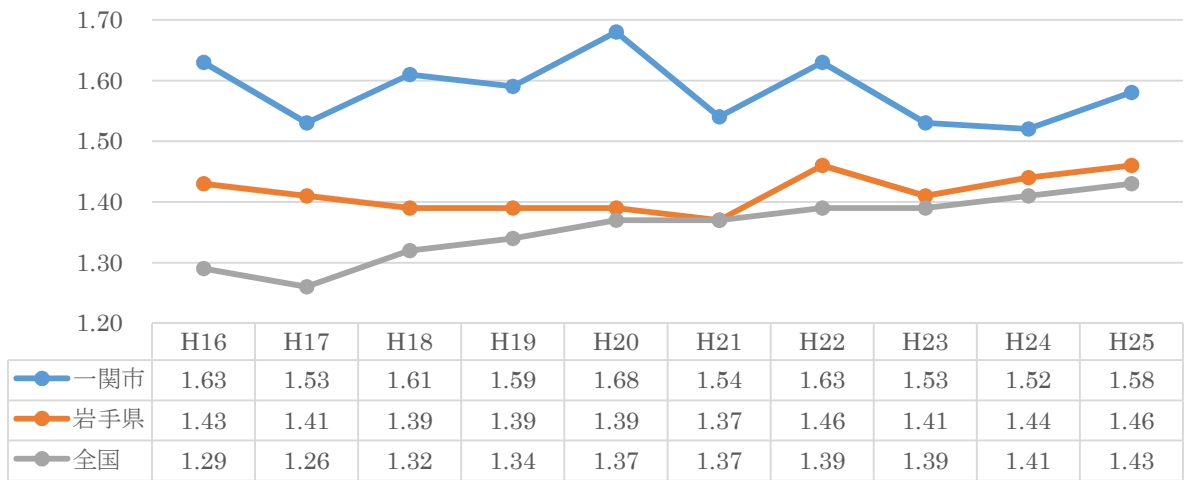
住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査より

死亡数が出生数を上回る自然減少

- ・出生数は全体的には減少傾向。
- ・死亡数は増加傾向にあったが、平成 23 年をピークとして以降は横這いとなっている。

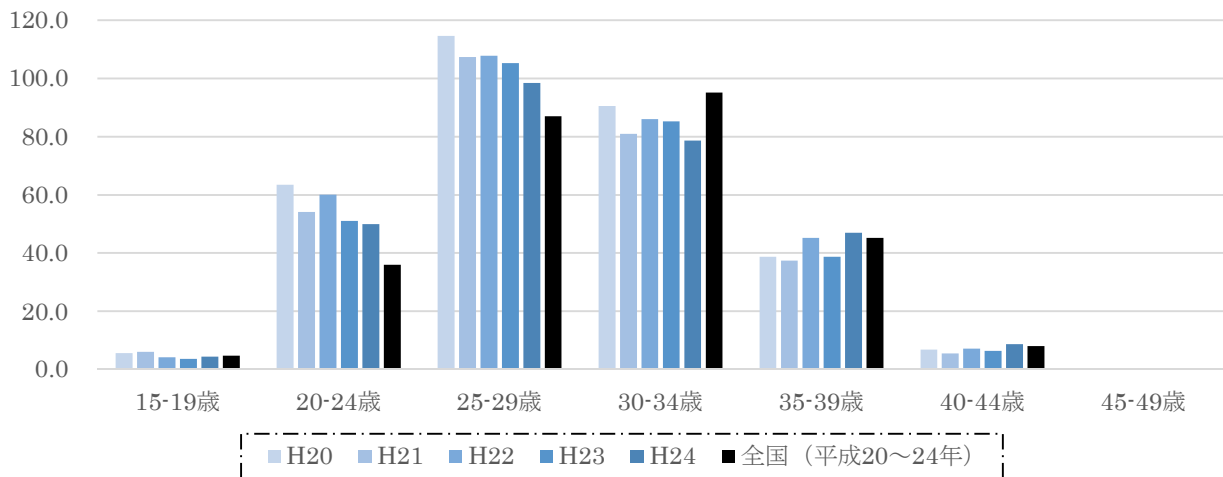
■出生率

合計特殊出生率の推移



人口動態統計より

年代別女性千人当たりの出生率の推移



岩手県保健福祉年報（全国値は人口動態統計）より

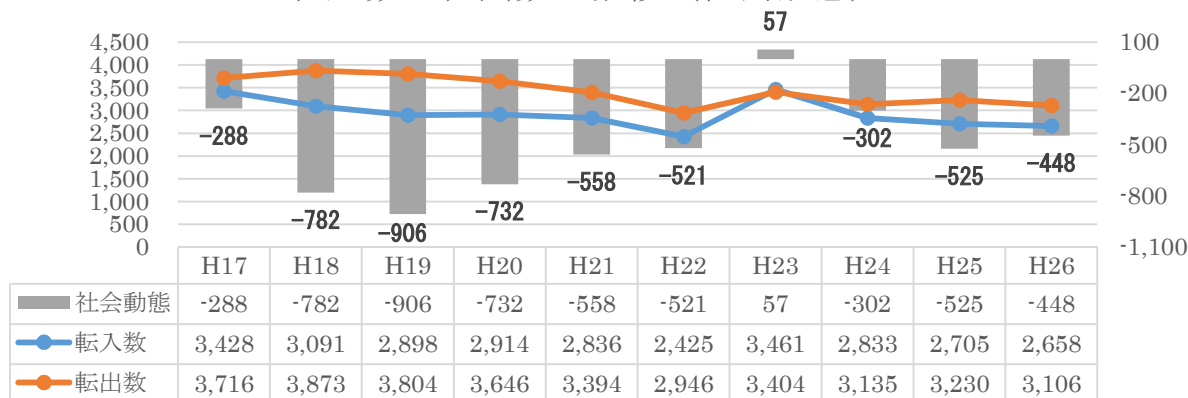
出生率は全国平均をほとんどの年度・年齢層で上回る

- ・合計特殊出生率は全国平均より高い水準を保っているが、その差は小さくなってきている。
- ・年代別の出生率をみると、25歳～29歳の出生率が最も高くなっている。
- ・20代の出生率は減少傾向にあり、35歳～39歳の出生率は上昇傾向にある。
- ・30歳～34歳出生率は全国の値を下回っている。

⑤社会増減

■転入者数・転出者数の推移

転入数と転出数の推移（社会動態）



住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査より

■転入・転出の状況（H26：都道府県別）

	転入前都道府県	転出先都道府県	差
宮城県	575	778	▲ 203
東京圏	535	682	▲ 147
埼玉県	110	130	▲ 20
千葉県	87	94	▲ 7
東京都	217	287	▲ 70
神奈川県	121	171	▲ 50
岩手県	925	1,008	▲ 83

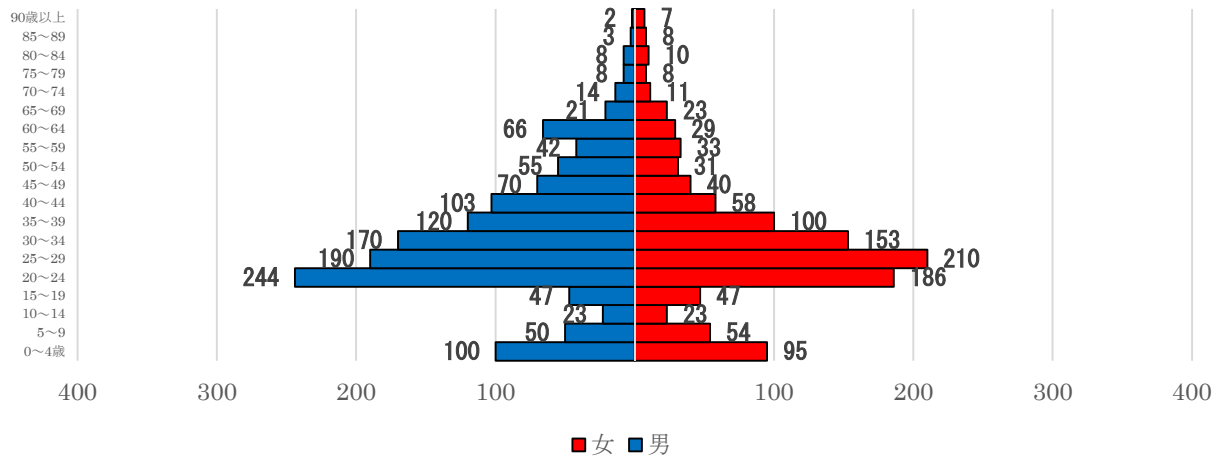
■転入・転出の状況（H26：市町村別）

	転入前市区町村	転出先市区町村	差
仙台市	225	372	▲ 147
青葉区	86	118	▲ 32
宮城野区	50	60	▲ 10
若林区	33	36	▲ 3
太白区	22	90	▲ 68
泉区	34	68	▲ 34
東京 23 区	152	220	▲ 68
奥州市	159	203	▲ 44
盛岡市	242	280	▲ 38
北上市	74	111	▲ 37
横浜市	51	73	▲ 22
平泉町	55	72	▲ 17
気仙沼市	112	104	8
花巻市	54	43	11
栗原市	80	63	17

住民基本台帳より

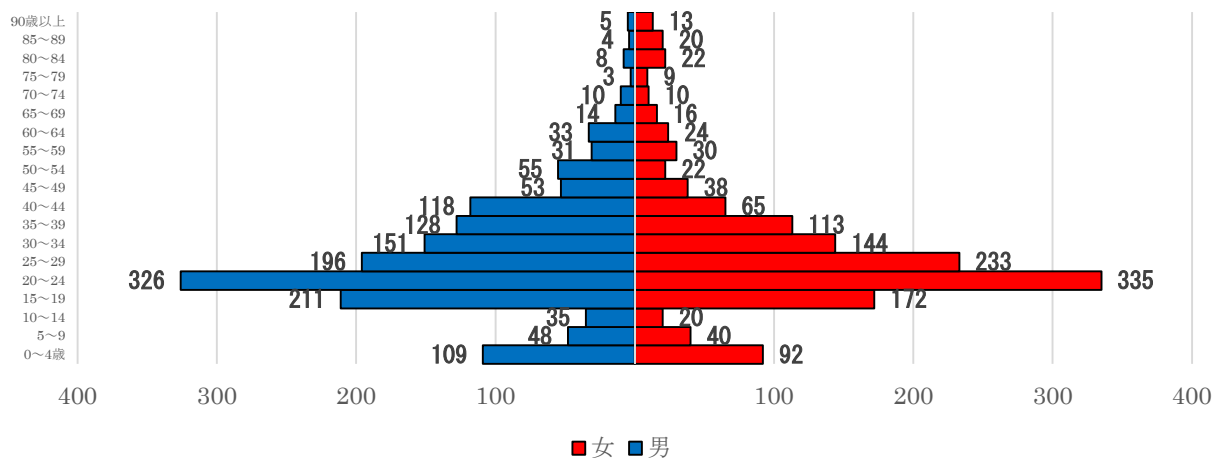
■転入者・転出者の年齢構造

年齢別転入者数（平成26年）



住民基本台帳より

年齢別転出者数（平成26年）



住民基本台帳より

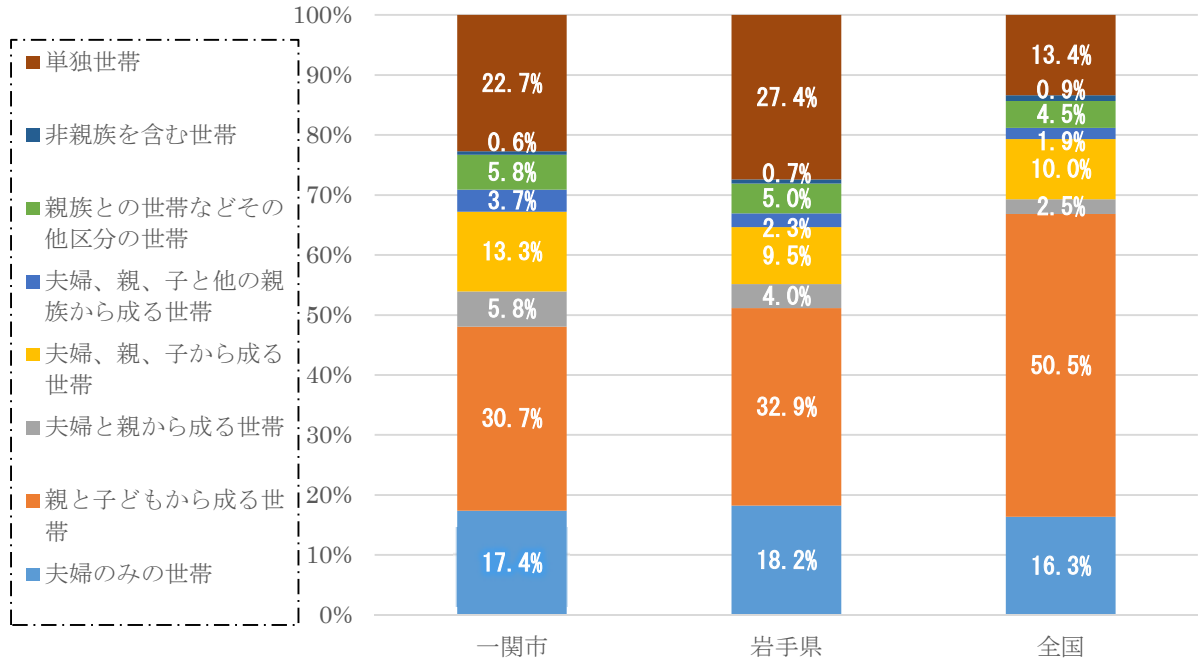
転入・転出とも 20歳～24歳が最も多い

- ・転入者・転出者の年齢構造を見ると男女共に20歳～24歳が最も多くなっている。
- ・15歳～19歳は転入に対して転出が多くなっている。
- ・男性60歳～64歳で転入者が多くなっている。

⑥世帯

■世帯構成

世帯構成の比較

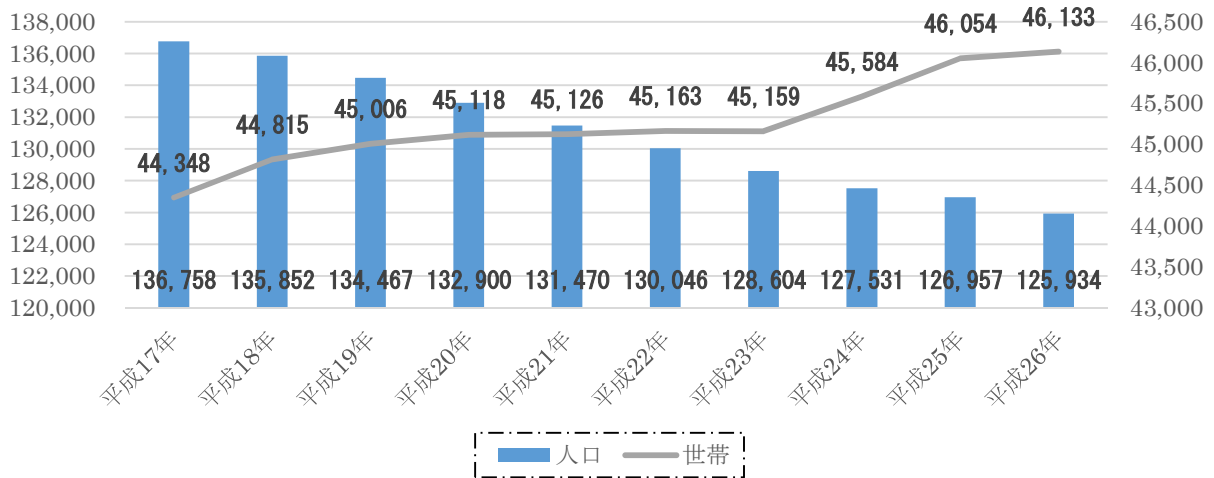


国勢調査より

全国、県と比べ、夫婦・親・子からなる3世帯の構成が多くなっている

■世帯数の推移

人口総数と世帯数の推移

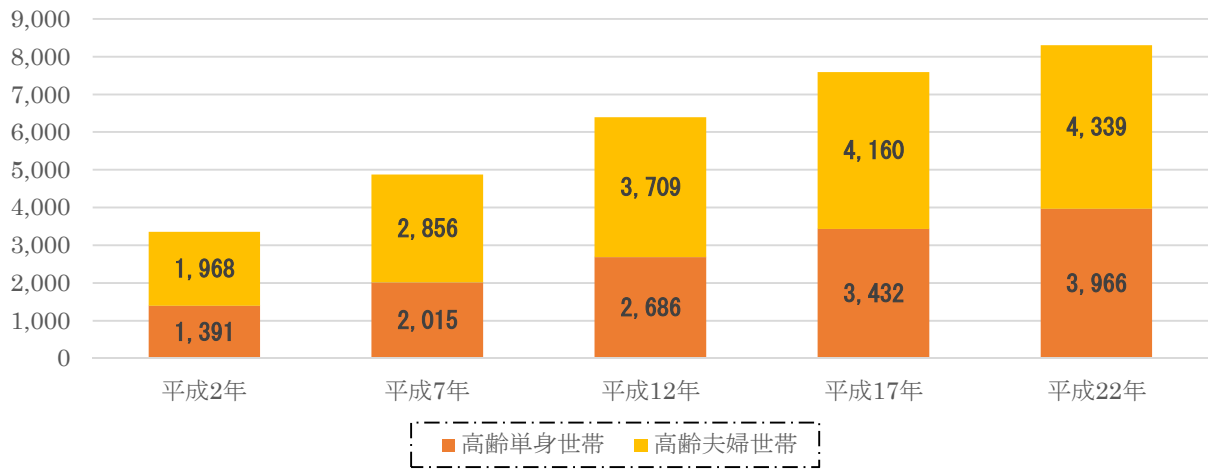


総人口を世帯数で割った1世帯当たりの人員は減少傾向
平成26年には2.73となっている

住民基本台帳より

■高齡単身世帯数と夫婦世帯数の推移

高齡単身世帯数と夫婦世帯数の推移



国勢調査より

20年間で高齡単身世帯は約3倍、高齡夫婦世帯は約2倍に増加

⑦一関市の現状・課題について

●総人口の減少と高齢化の進行

総人口は減少を続けており、平成7年には65歳以上の人口（老年人口）が15歳未満の人口（年少人口）を上回り、老年人口の割合はその後も増加し続けている。昭和55年には老年人口1人を生産年齢人口5.4人で支えていたが、平成26年には老年人口1人を生産年齢人口1.7人で支えている。

●20歳前後の年齢層の流出

近年の年齢別人口変化率をみると、17歳→18歳から22歳→23歳で減少傾向にある。23歳→24歳以降増加に転じるが、減少増加はみられない。

●合計特殊出生率は全国平均を上回っているが、低下傾向

合計特殊出生率は全国や岩手県を上回って推移しているが、低下傾向にある。
なお、年代別の出生率をみると、20代は減少傾向、30代後半は若干増加傾向にある。

●宮城県、東京圏及び県内への転出超過

年によって変動はあるが、ほぼ転出超過となっており、地区別には宮城県、東京圏、県内の順に多くなっている

●高齢夫婦世帯、高齢単身者世帯が増加

世帯構成は、全国や岩手県の世帯構成と比べ、3世代世帯の割合が高くなっている。
一方、世帯当たり人員は減少しており、高齢夫婦世帯、高齢単身世帯が大きく増加している。

(2) 将来人口の推計と分析

①総人口・年齢区分別人口の推移（国立社会保障・人口問題研究所）

■人口推計について

◆推計期間

- ・平成 27 年（2015 年）までの 5 年ごと

◆推計方法

- ・5 歳以上の年齢階級の推計においては、コーホート要因法を使用。
- ・コーホート要因法は、ある年の男女・年齢別人口を基準として、ここに人口動態率や移動率などの仮定値を当てはめて将来人口を計算する方法。
- ・本推計においては、①基準人口、②将来の生残率、③将来の純移動率、④将来の子ども女性比、⑤将来の 0-4 歳性比、が必要となる。

◆ 基準人口

- ・平成 22 年国勢調査人口

◆将来の生存率

- ・「日本の将来推計人口（平成 24 年 1 月推計）」（出生中位・死亡中位仮定）から得られる全国の男女・年齢別生残率を利用。

◆ 将来の純移動率

- ・原則として、平成 17（2005）～22（2010）年に観察された岩手県の男女年齢別純移動率を平成 27（2015）～32（2020）年にかけて定率で縮小させ、平成 27（2015）～32（2020）年以降の期間については縮小させた値を一定とする仮定を置いた。

◆将来の子ども女性比

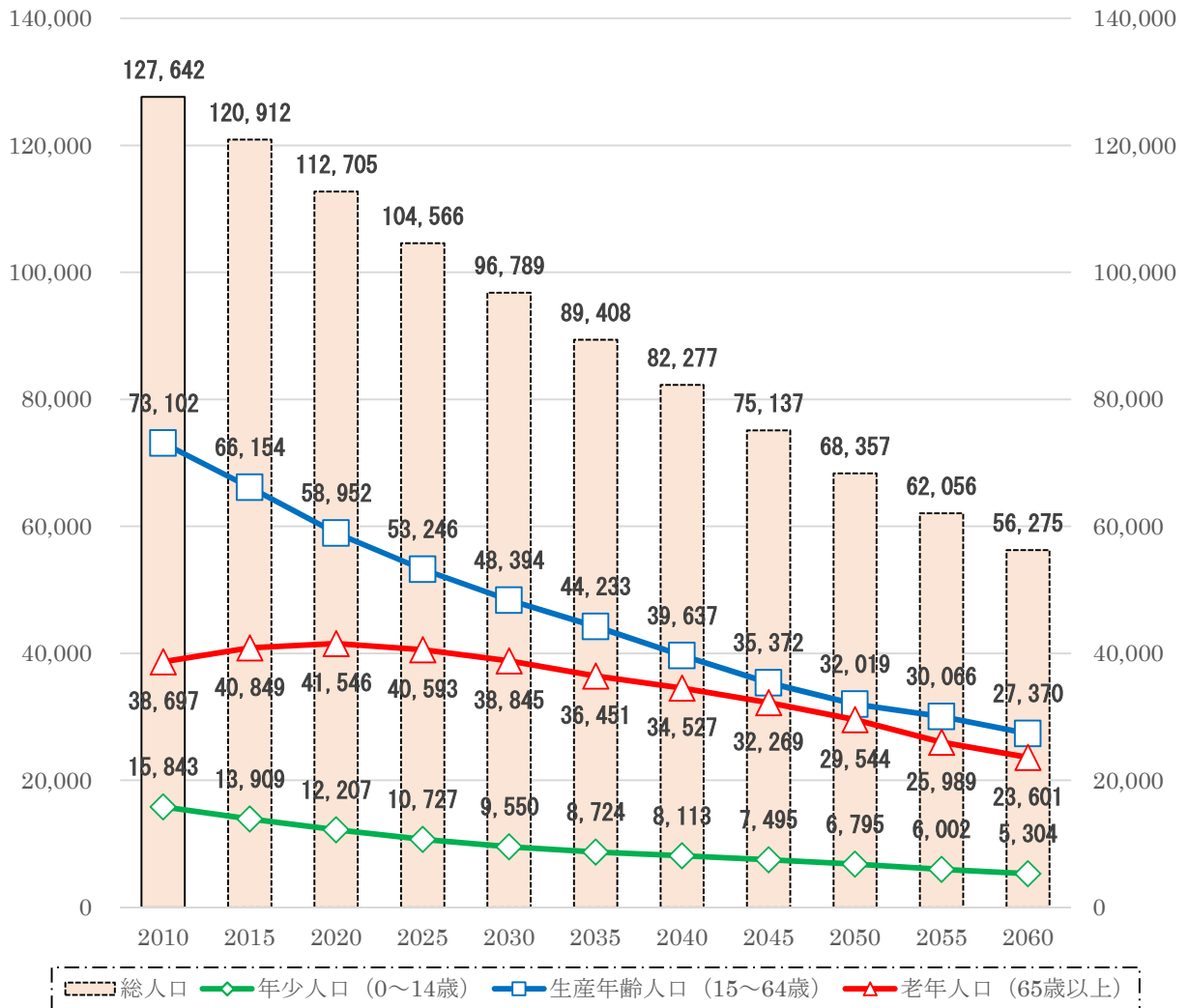
- ・各市区町村の子ども女性比には市区町村間で明らかな差が存在するため、平成 22（2010）年の全国の子ども女性比と岩手県の子ども女性比との較差をとり、その値を平成 27（2015）年以降平成 52（2040）年まで一定として仮定値を設定。

◆将来の 0-4 歳性比

- ・「日本の将来推計人口（平成 24 年 1 月推計）」（出生中位・死亡中位仮定）により算出された全国の平成 27（2015）年以降平成 52（2040）年までの 0-4 歳性比を各年次の仮定値とし、全自治体の 0-4 歳推計人口に一律に適用。

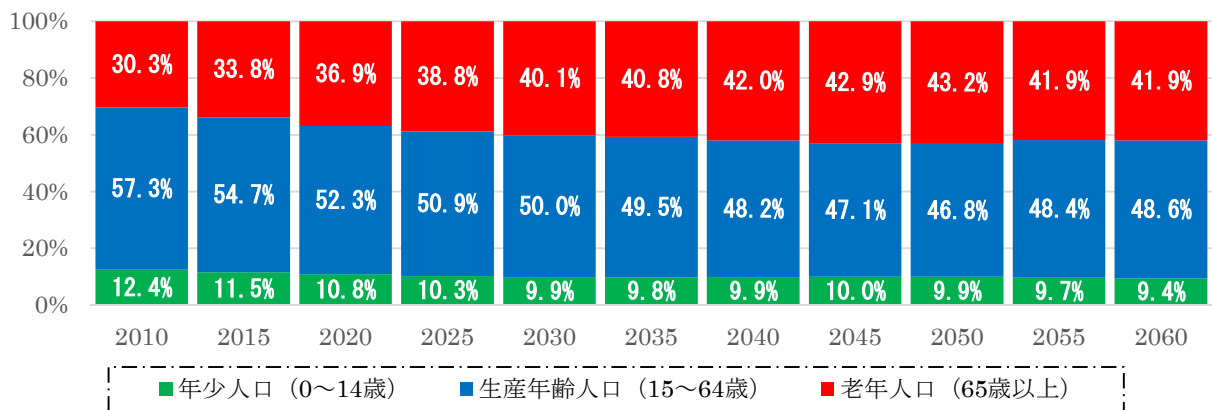
■総人口・年齢3区分別人口の推移（社人研推計）

総人口・年齢3区分別人口の推移



「日本の地域別将来推計人口」より(2045年以降はまち・ひと・しごと創生本部推計による)

年齢3区分別人口の割合の推移



「日本の地域別将来推計人口」より(2045年以降はまち・ひと・しごと創生本部推計による)

②将来人口推計

■将来人口推計の比較

I 国立社会保障・人口問題研究所の値による人口推計

(今後全国の人の移動が縮小していくと仮定した人口推計値)

II 日本創生会議の値による人口推計

(今後の人の移動が①の推計ほど縮小しないと仮定した推計値)

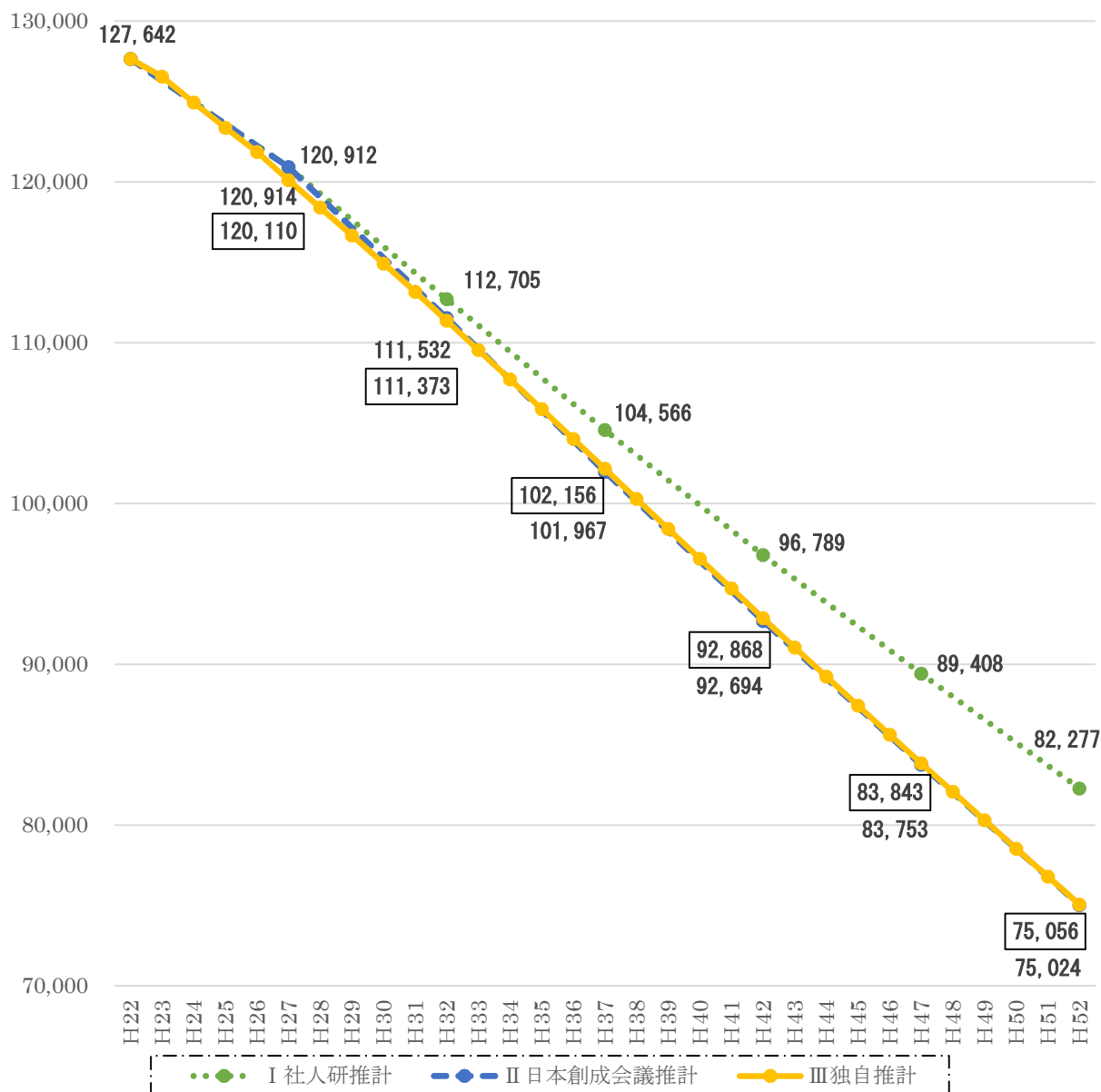
III 独自推計(各歳) コーホート変化率法により推計

【近年の人口動態が改善せず継続した場合】

平成22年から平成26年の各歳の人口変化率の平均値から算出

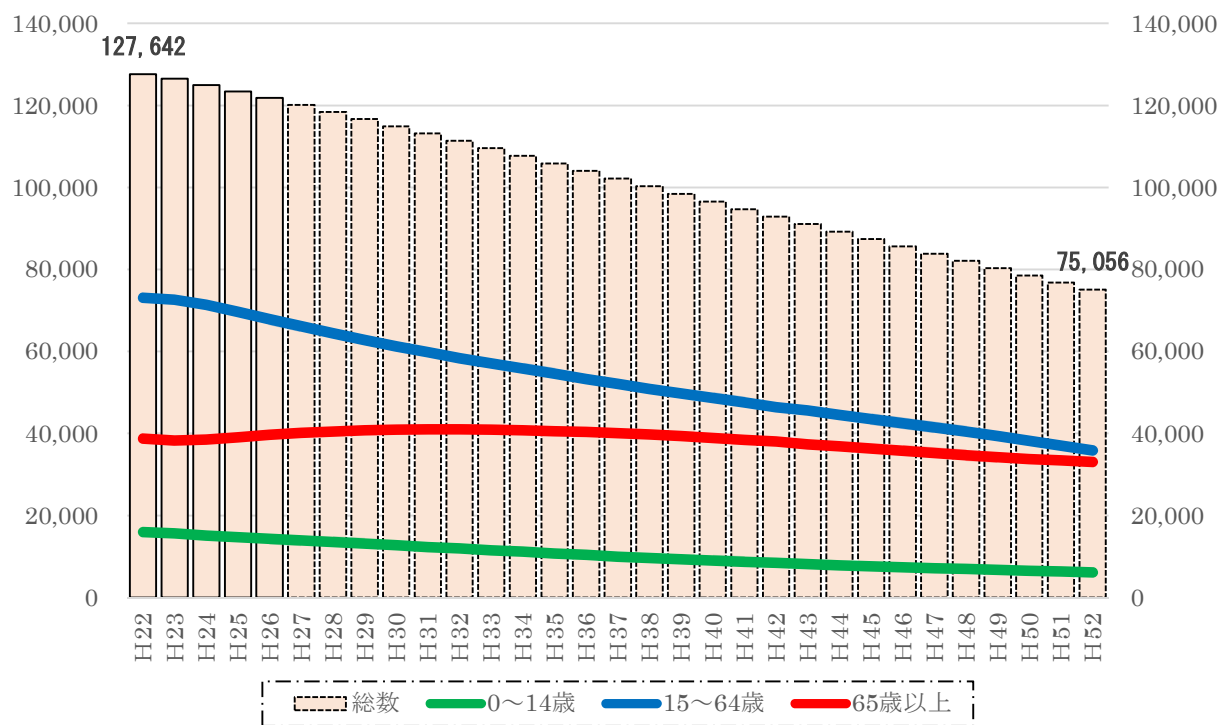
出生率は平成25年の値、出生時の男女比は平成22年から平成26年の平均値を使用

将来人口推計の比較

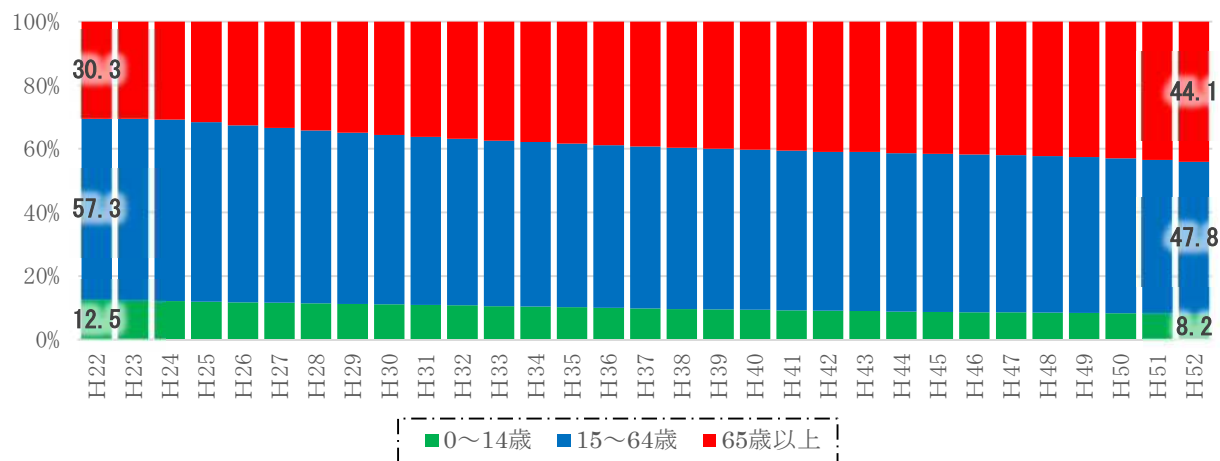


■総人口・年齢3区分別人口の推移（独自推計）

一関市総人口・年齢3区分別人口の推移



一関市・年齢3区分別人口の割合の推移



③地域別将来人口の推計

独自推計（各歳） コーホート変化率法により推計

【近年の人口動態が改善せず継続した場合】

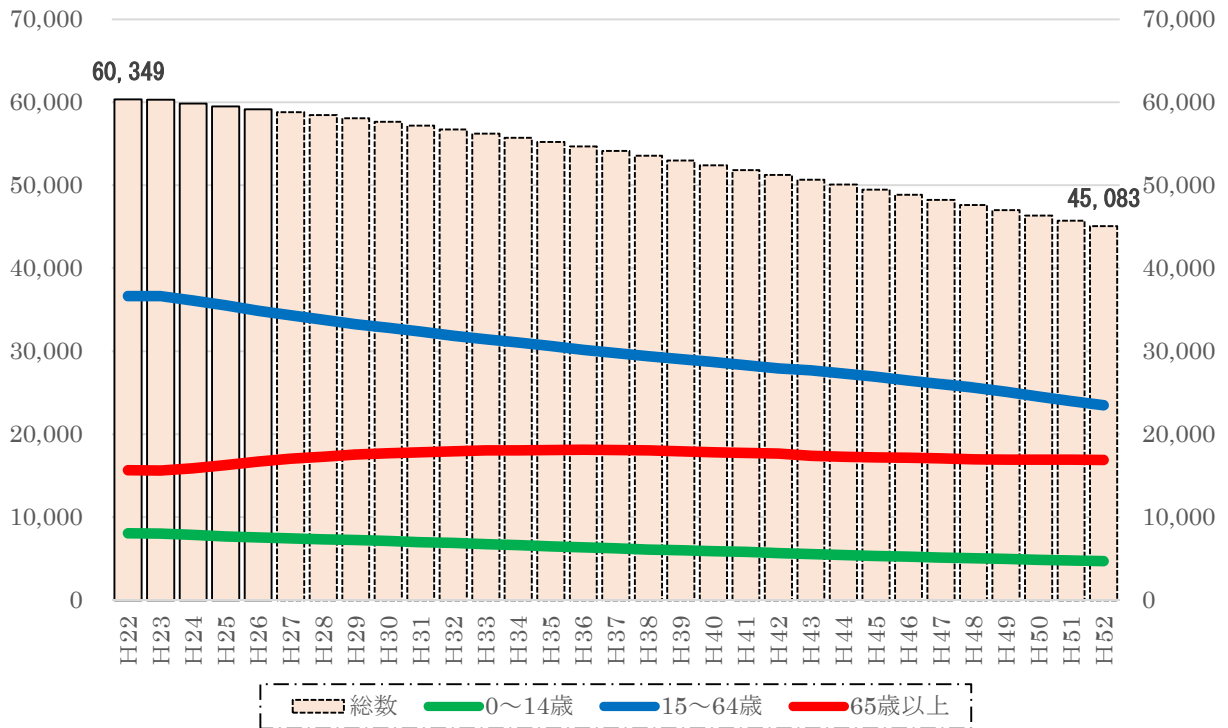
平成 22 年から平成 26 年の各歳の人口変化率の平均値から算出

出生率は平成 25 年の値、出生時の男女比は平成 22 年から平成 26 年の平均値を使用

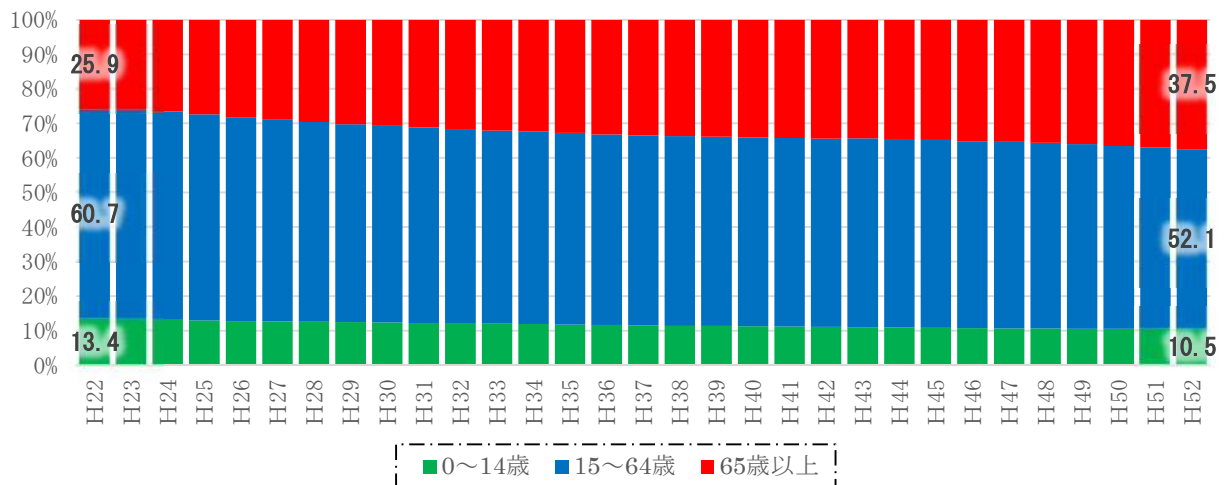
※各地域の推計値の合計と、市の推計値は一致しない

一関地域

一関地域総人口・年齢3区分別人口の推移

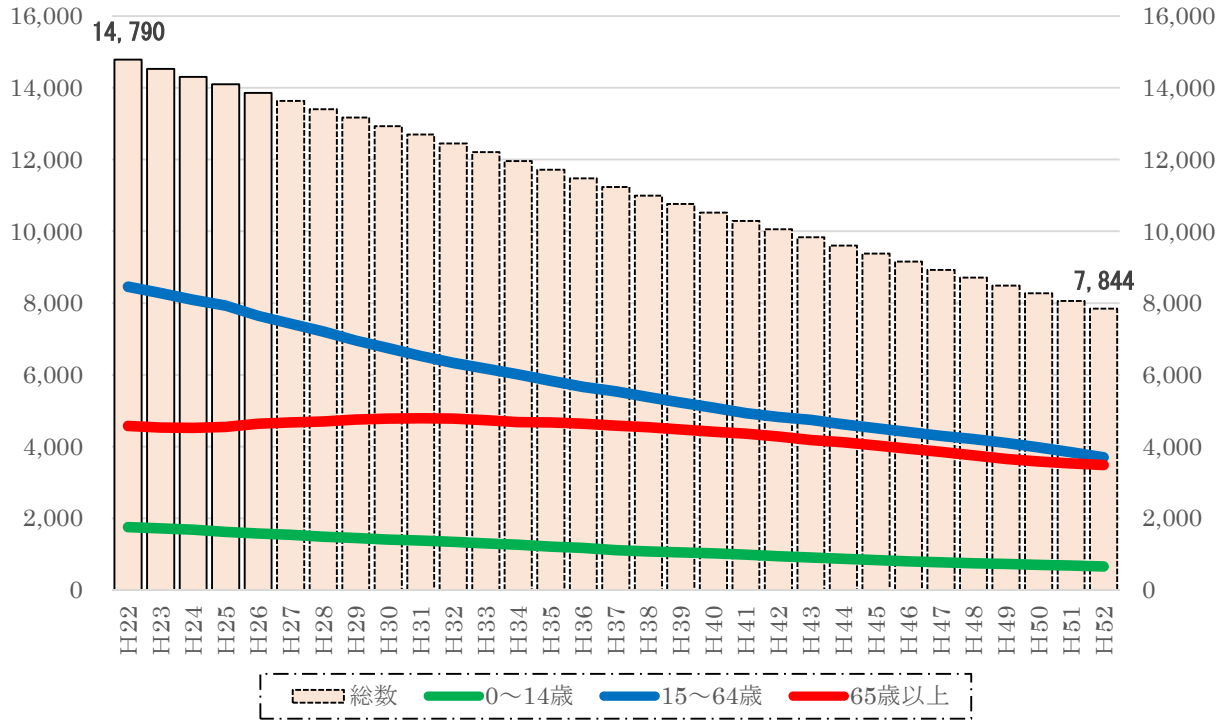


一関地域・年齢3区分別人口の割合の推移

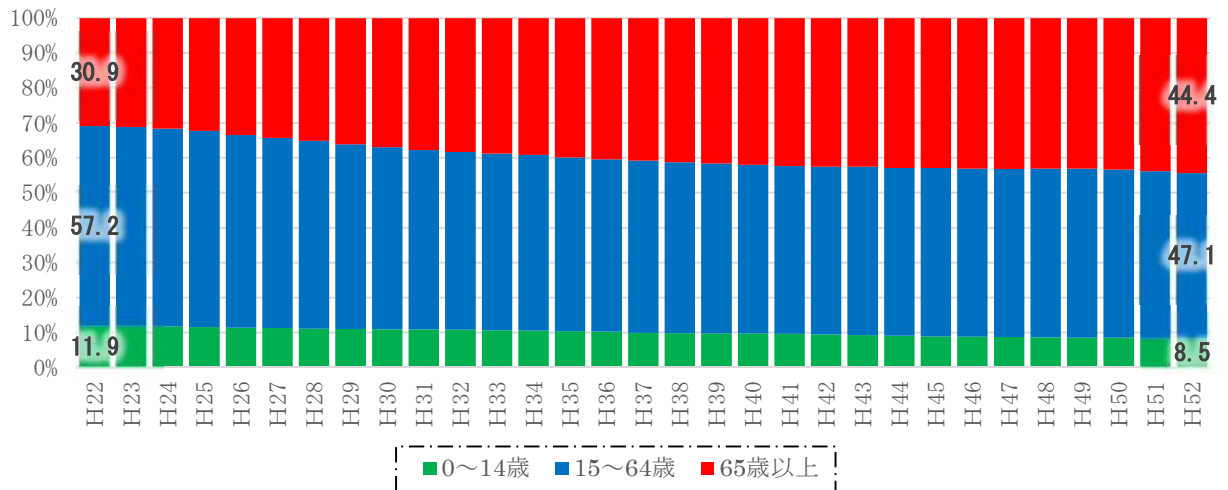


花泉地域

花泉地域総人口・年齢3区分別人口の推移

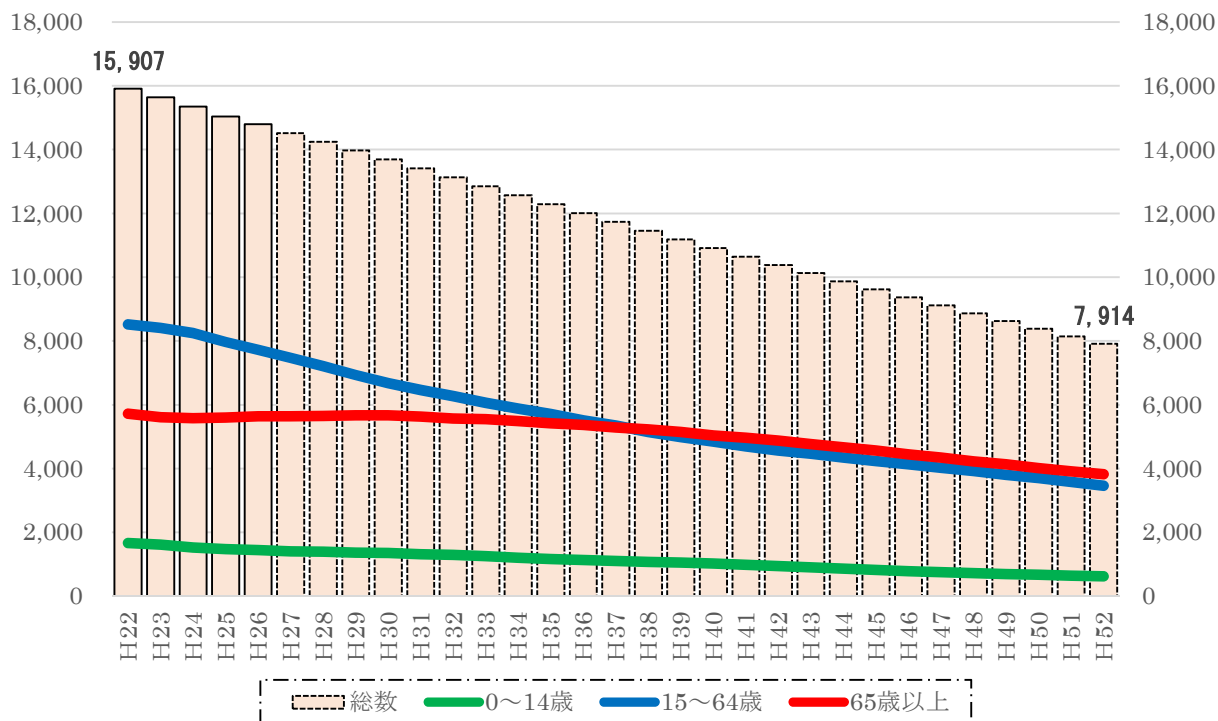


花泉地域・年齢3区分別人口の割合の推移

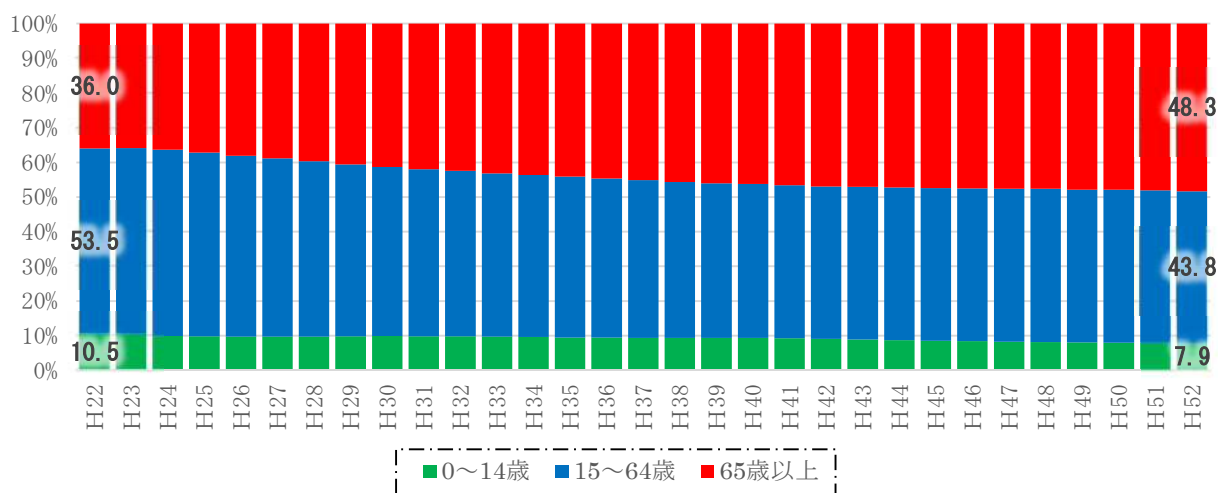


大東地域

大東地域総人口・年齢3区分別人口の推移

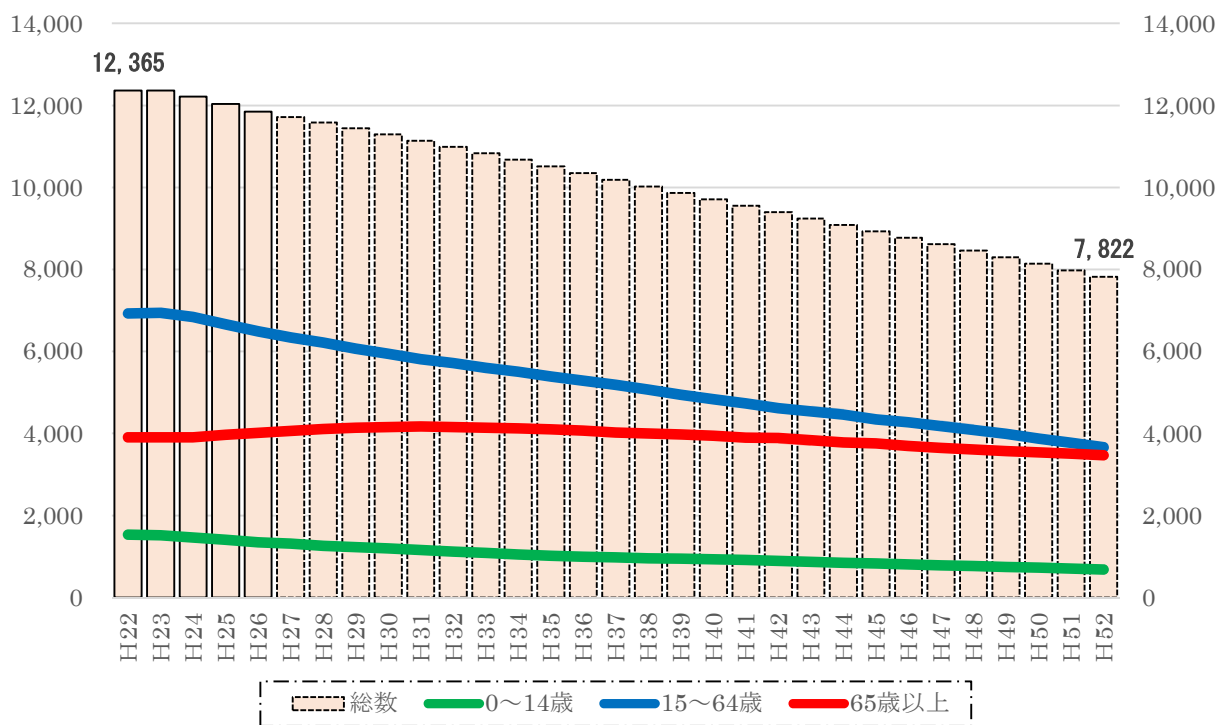


大東地域・年齢3区分別人口の割合の推移

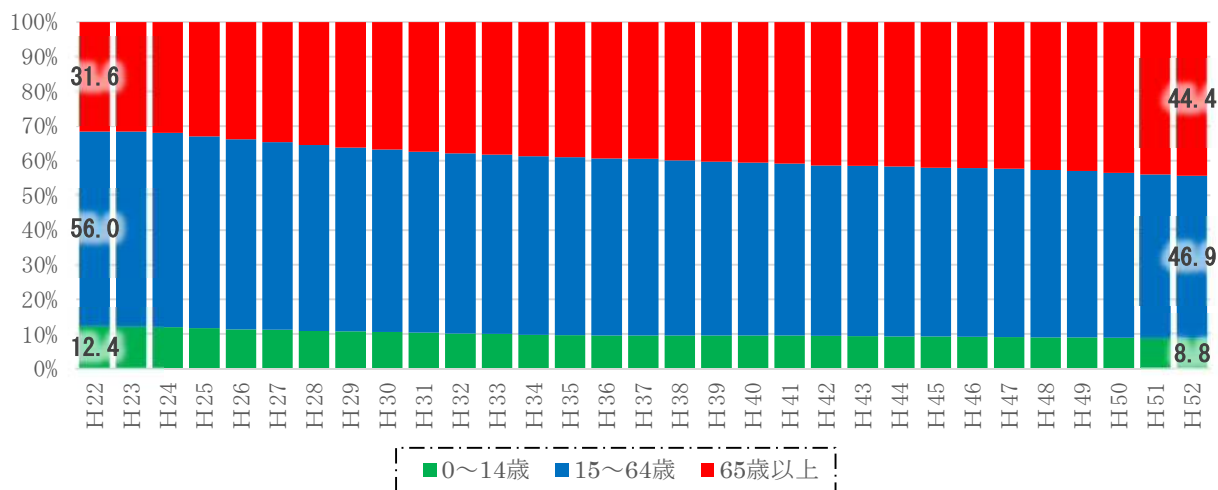


千厩地域

千厩地域総人口・年齢3区分別人口の推移

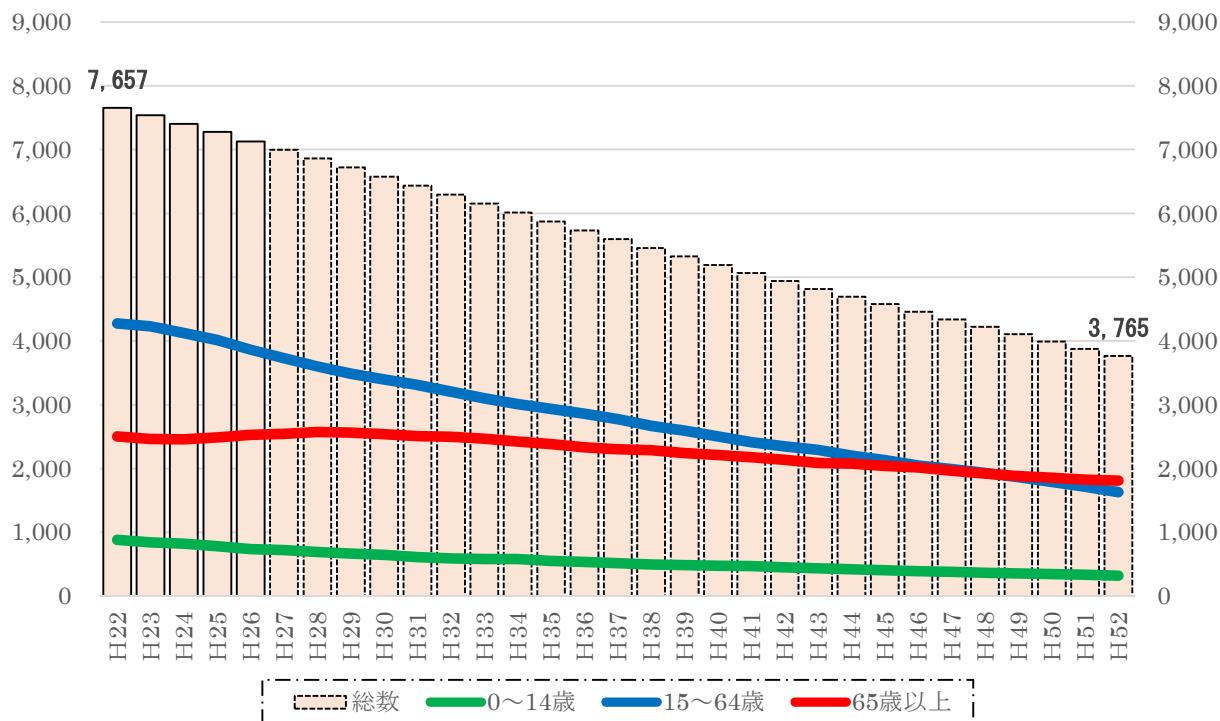


千厩地域・年齢3区分別人口の割合の推移

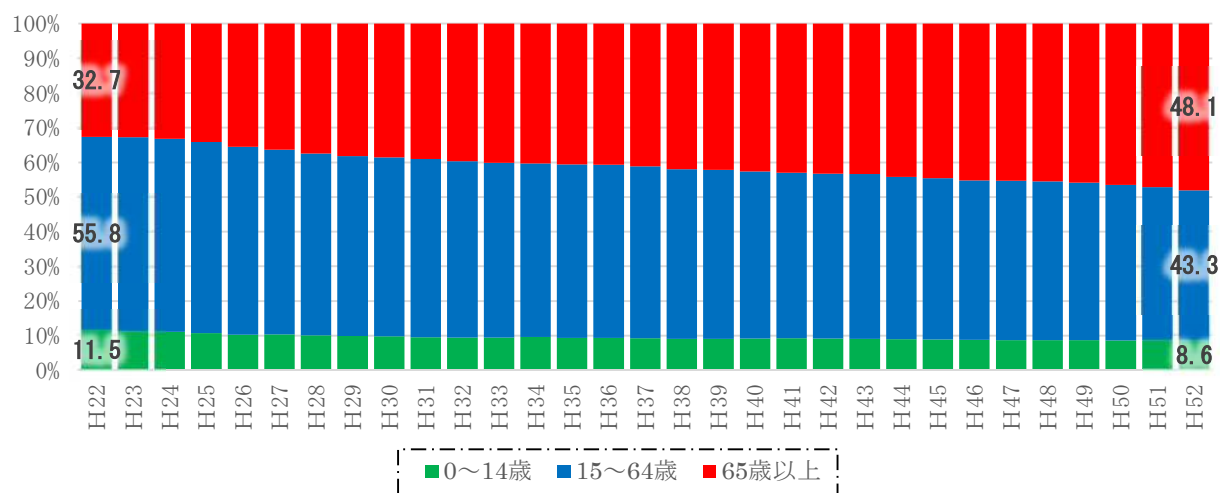


東山地域

東山地域総人口・年齢3区分別人口の推移

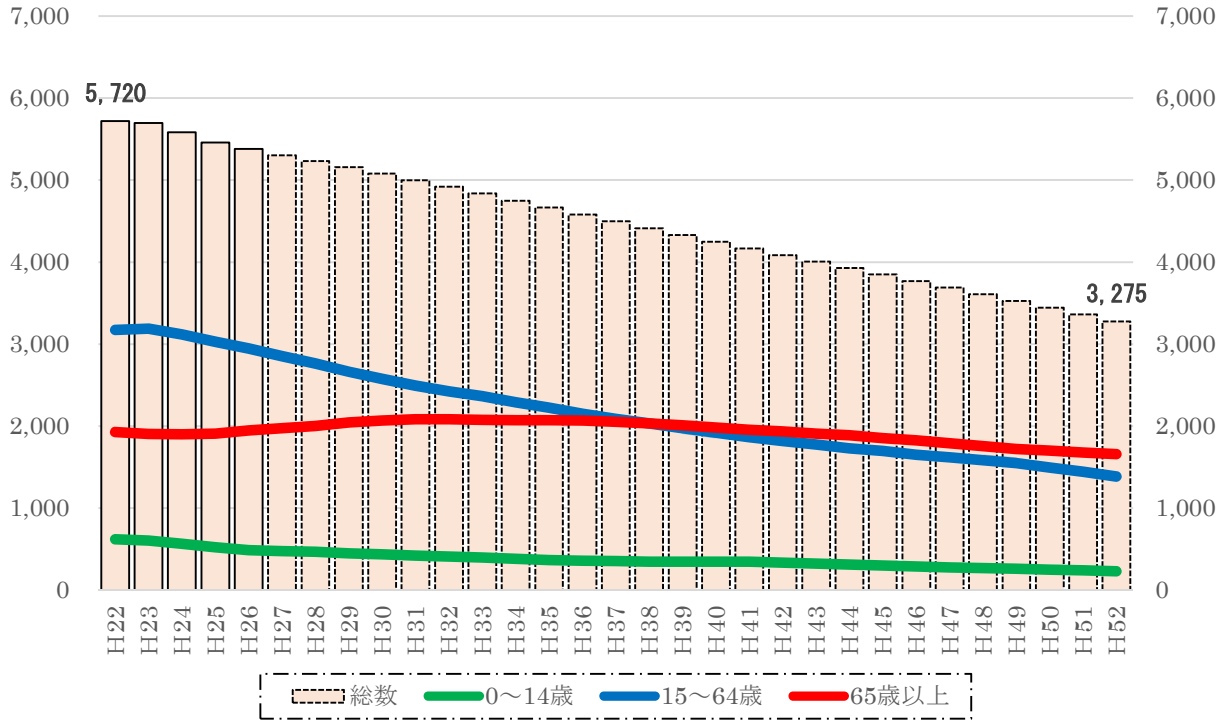


東山地域・年齢3区分別人口の割合の推移

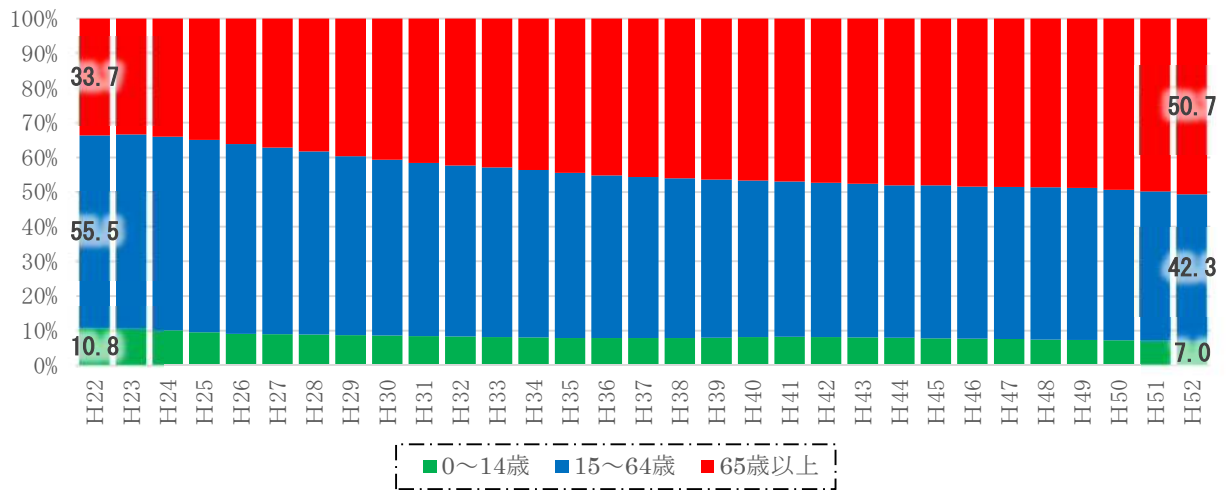


室根地域

室根地域総人口・年齢3区分別人口の推移

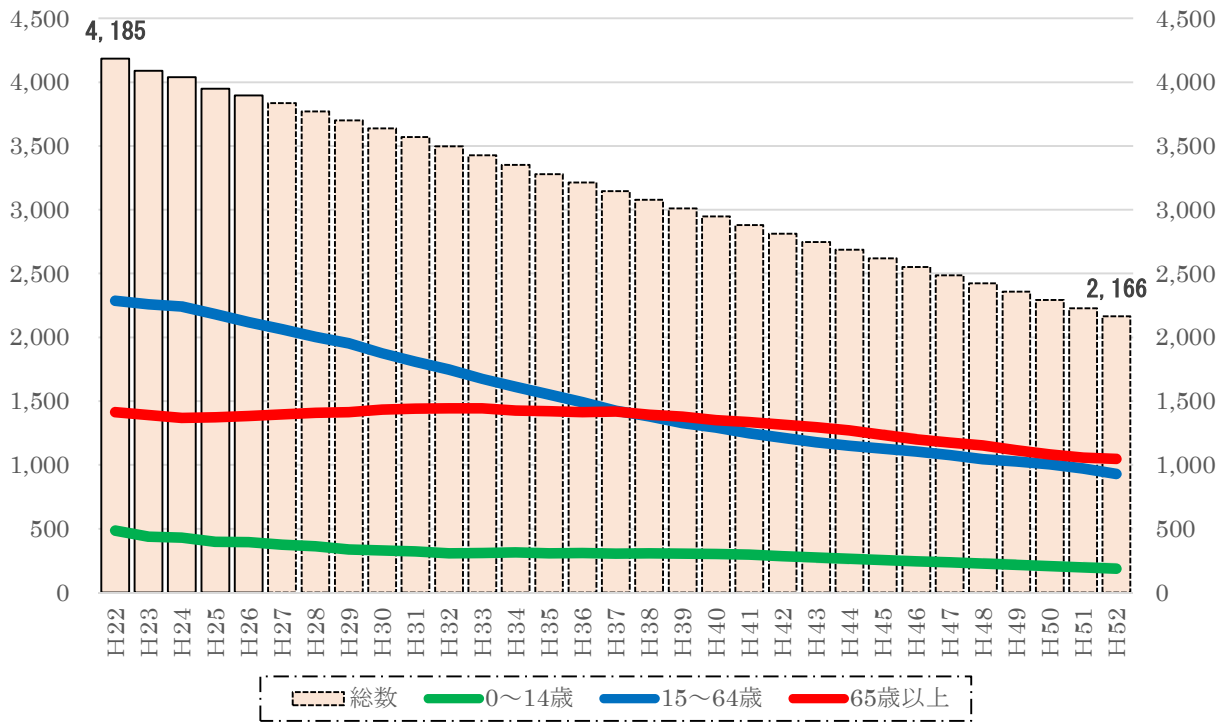


室根地域・年齢3区分別人口の割合の推移

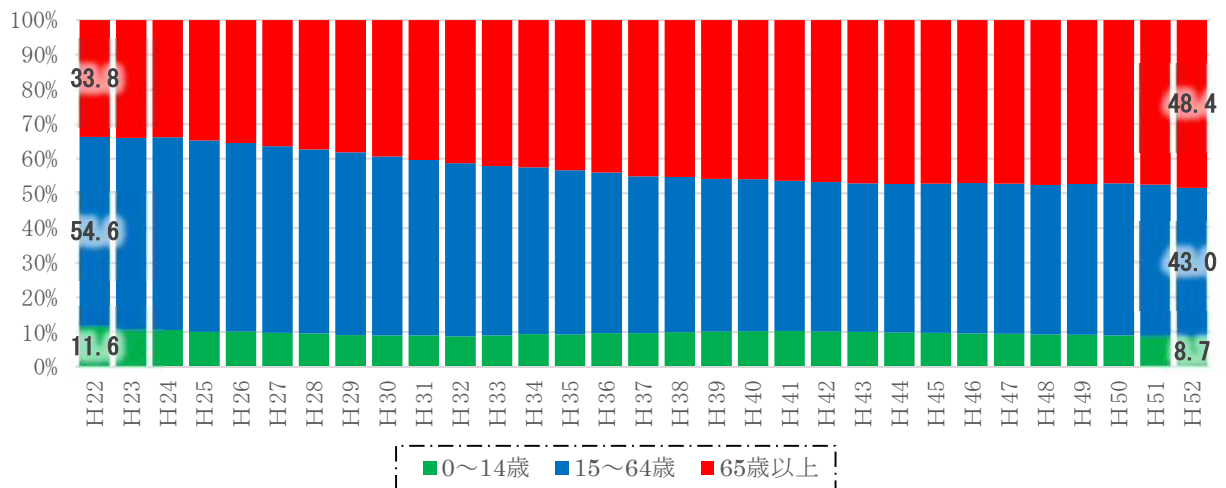


川崎地域

川崎地域総人口・年齢3区分別人口の推移

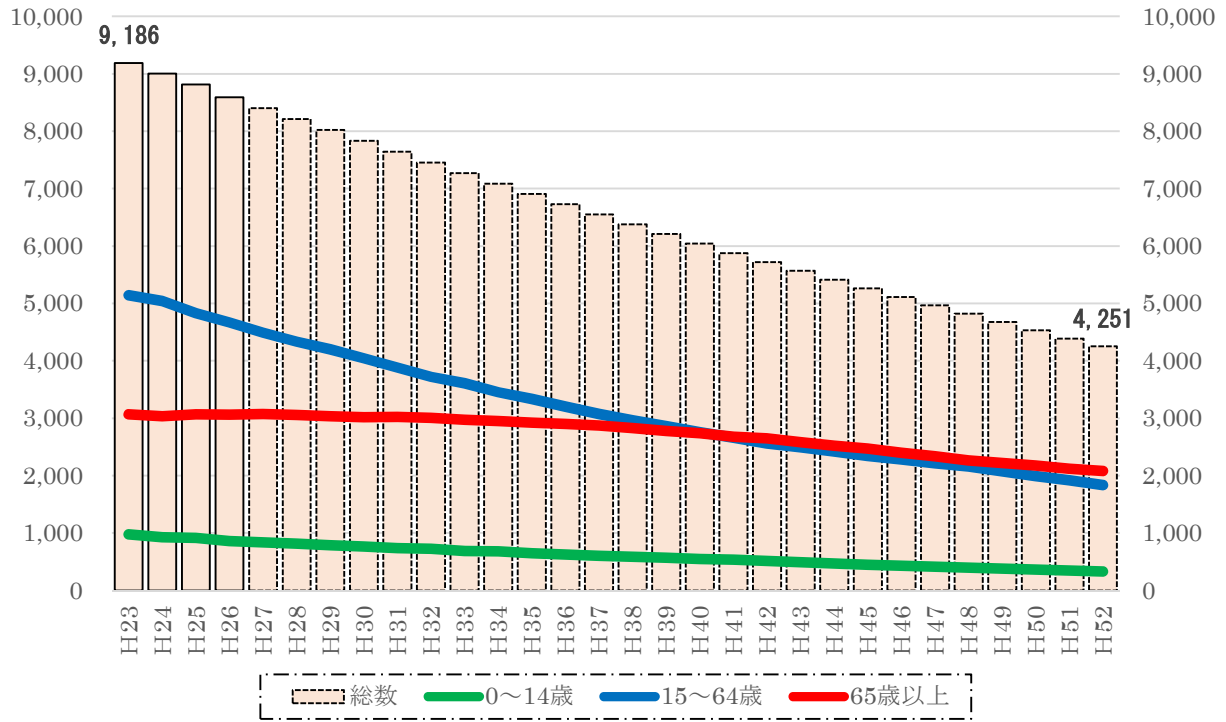


川崎地域・年齢3区分別人口の割合の推移

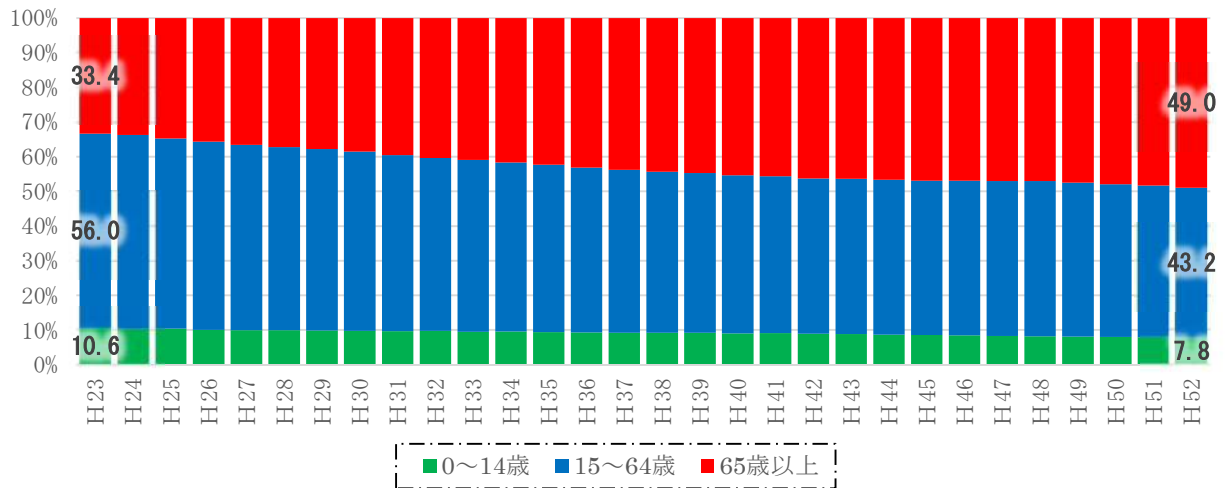


藤沢地域

藤沢地域総人口・年齢3区分別人口の推移



藤沢地域・年齢3区分別人口の割合の推移



(3) 人口の変化が地域の将来に与える影響の分析・考察

① 将来推計による年齢層・地域毎の人口増減率（今後10年間）

		一関 地域	花泉 地域	大東 地域	千厩 地域	東山 地域	室根 地域	川崎 地域	藤沢 地域	全市
未就 学児	平成26年	2,763	542	480	436	238	143	107	288	4,988
	平成36年	2,304	396	384	374	186	146	118	217	3,502
	増減率	-16.6%	-27.0%	-20.0%	-14.3%	-21.8%	2.2%	10.3%	-24.7%	-29.8%
小学 生	平成26年	3,120	664	627	575	312	226	159	364	5,972
	平成36年	2,626	501	502	407	220	145	138	267	4,323
	増減率	-15.8%	-24.6%	-20.0%	-29.2%	-29.6%	-35.7%	-13.5%	-26.6%	-27.5%
中学 生	平成26年	1,692	371	333	336	185	117	129	209	3,331
	平成36年	1,434	280	244	213	131	69	54	144	2,552
	増減率	-15.3%	-24.5%	-26.7%	-36.6%	-29.2%	-41.0%	-58.1%	-30.9%	-23.4%
高校 生	平成26年	1,777	377	397	352	208	160	103	235	3,588
	平成36年	1,529	298	299	272	132	98	56	156	2,817
	増減率	-14.0%	-21.0%	-24.7%	-22.7%	-36.7%	-38.4%	-46.1%	-33.6%	-21.5%
大学 生等	平成26年	1,985	427	397	334	252	148	137	256	4,067
	平成36年	1,733	344	280	291	172	109	79	178	2,974
	増減率	-12.7%	-19.4%	-29.4%	-12.8%	-31.6%	-26.7%	-42.5%	-30.3%	-26.9%
20 歳代	平成26年	4,990	999	944	838	480	349	272	581	8,009
	平成36年	4,159	730	647	703	373	237	198	388	6,007
	増減率	-16.6%	-26.9%	-31.4%	-16.1%	-22.3%	-32.2%	-27.1%	-33.2%	-25.0%
30 歳代	平成26年	6,935	1,456	1,283	1,189	653	477	334	819	12,813
	平成36年	5,236	842	847	815	391	357	238	463	8,627
	増減率	-24.5%	-42.1%	-34.0%	-31.5%	-40.2%	-25.1%	-28.7%	-43.4%	-32.7%
40 歳代	平成26年	7,450	1,371	1,408	1,344	827	569	368	851	13,900
	平成36年	7,089	1,428	1,264	1,207	630	505	322	765	12,866
	増減率	-4.8%	4.2%	-10.2%	-10.2%	-23.9%	-11.3%	-12.5%	-10.1%	-7.4%
50 歳代	平成26年	7,947	1,921	2,096	1,543	952	759	586	1,256	16,782
	平成36年	7,565	1,338	1,381	1,372	785	567	365	796	13,642
	増減率	-4.8%	-30.3%	-34.1%	-11.1%	-17.5%	-25.3%	-37.8%	-36.6%	-18.7%
60 歳代 前半	平成26年	4,726	1,315	1,373	1,041	615	553	384	796	10,667
	平成36年	3,676	848	921	761	468	327	270	537	7,607
	増減率	-22.2%	-35.5%	-32.9%	-26.9%	-24.0%	-40.9%	-29.8%	-32.5%	-28.7%
前期 高齢 者	平成26年	7,681	1,891	2,143	1,655	1,045	752	515	1,155	16,781
	平成36年	8,517	2,165	2,388	1,794	1,005	982	669	1,359	18,571
	増減率	10.9%	14.5%	11.4%	8.4%	-3.8%	30.5%	29.9%	17.7%	10.7%
後期 高齢 者	平成26年	9,022	2,748	3,495	2,358	1,485	1,196	868	1,910	22,926
	平成36年	9,624	2,473	2,981	2,275	1,330	1,088	744	1,542	21,826
	増減率	6.7%	-10.0%	-14.7%	-3.5%	-10.4%	-9.0%	-14.3%	-19.3%	-4.8%

2割以上の増加
1割以上の増加
1割以上の減少
2割以上の減少

30歳代までの人口が大幅に減少する一方、前期高齢者人口は増加

- ・ほとんどの地域で30歳代までと、60歳代前半の人口が大幅に減少する。
- ・前期高齢者（65歳～74歳）人口はほとんどの地域で増加する。

各種影響の整理

■人口の変化により考えられる影響について整理する。

I 地域経済への影響

今後、総人口の減少とともに、生産年齢人口・総人口に占める構成比とも減少が見込まれている。

総人口に占める生産年齢人口の割合は、2040年にはほとんどの地域で5割以下に低下し、労働力の不足やそれに伴う生産額の低下が懸念される。

また、総人口の減少により、市内の消費支出が減少することが懸念される。

II 医療、福祉・介護への影響

老年人口は2020年頃、後期高齢者人口は2030年頃まで増加することから、医療、福祉・介護の需要の増加が見込まれる一方、生産年齢人口の減少から労働力の不足が懸念される

III 教育・地域文化への影響

児童・生徒数の減少により、1学級あたりの児童・生徒数の減少、さらには学級・学校の維持が懸念される。

また、担い手の減少により、地域の伝統芸能や伝統行事の継承に支障をきたすことが懸念される。

IV 地域コミュニティへの影響

人口減少、高齢化の進行により、地域によってはコミュニティ機能を維持できないことが懸念される。

V 行財政への影響

経済規模の縮小に伴う税収等の落込みが予想される一方、高齢化に伴う社会保障関係経費等の増加が見込まれ、市財政の硬直化が進行することが懸念される。

また、行政職員数や行政サービスのあり方を見直す必要が生じる。

2. 人口の将来展望

(1) 将来展望に必要な調査・分析

①市民アンケートの実施について

今後の市が目指すべき将来展望の設定のために、結婚・出産・子育て、転入及び転出に関するアンケート調査を実施した。

実施アンケート概要

○結婚・出産・子育てに関するアンケート

対象：市内在住の18～49歳の男女各1,000名を無作為抽出

○転入に関するアンケート

対象：平成26年1～12月の転入者から16歳以上の方1,000名を無作為抽出

○転出に関するアンケート

対象：平成27年1月1日以降の転出者から16歳以上の方300名を無作為抽出

各種アンケートの分析

一関市の目指すべき将来の方向を決定

一関市の目指すべき将来の人口を推計

②市民アンケートの分析

■結婚・出産・子育てに関するアンケート

■転入に関するアンケート

■転出に関するアンケート

(結果報告書の分析により記載する)

(2) 一関市が目指すべき将来の方向

基本的方向性

少子化、高齢化及び人口減少の進行により地域の活力の低下など多方面に大きな影響が及ぶことが懸念されます。一関市が活力あるまちとしてさらに発展していくためには、地域の魅力を高め、人口減少に結びついている要因を解消していくとともに、当市への新しい人の流れを生み出していく必要があります。

① 市民が力を発揮できる仕事を創出し、若者や女性が集うまちを目指します。

地域資源や地域特性を生かした事業の創出や誘致に取り組むとともに、既存産業の振興を図り、若者が地域に定着するまちを目指します。

また、市民活動や経済活動を活性化させていくため、若者をはじめ多くの方々が当市に移住する人の流れを生み出していく必要があります。

② 社会全体で子育てを支援し、次代の担い手を応援するまちを目指します。

豊かな自然、安全・安心な食など、子育てに適した環境を更に伸ばしながら、子どもの成長過程に合わせて、保健、医療、保育、教育、就職、結婚などの各分野において、点ではなく、それぞれが線につながる一連の施策をさらに推進して、切れ目のない子育て支援を行い、出生率の向上を図っていく必要があります。

③ 心豊かに安心して暮らせる、住みたい、住んでよかったまちを目指します。

医療・福祉や防災など安全な環境を築くとともに、生きがいつくりや健康寿命を延ばすための取り組みを進め、心豊かにいつまでも安心して暮らせるまちを目指し、地域の魅力を高めていく必要があります。

④ 未来へ引き継がれる、誇りと愛着が持てるまちを目指します。

ILCを基軸とし、資源やエネルギーが循環するまちづくりを進めるとともに、市民、地域、企業及び行政の協働や、関係する自治体等との協力・連携により、未来へ引き継がれるまちづくりを行う必要があります。

(3) 人口の将来展望

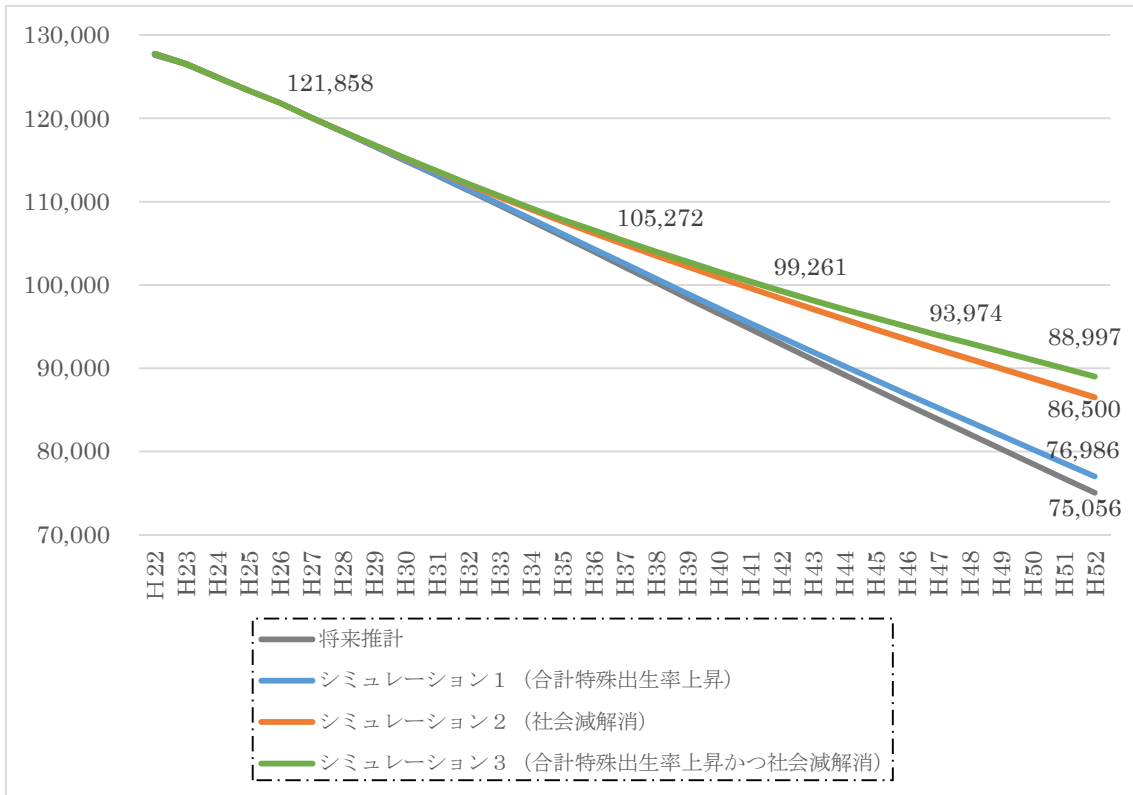
(アンケート結果によるシミュレーション等を踏まえて決定する)

アンケート調査結果による人口シミュレーション

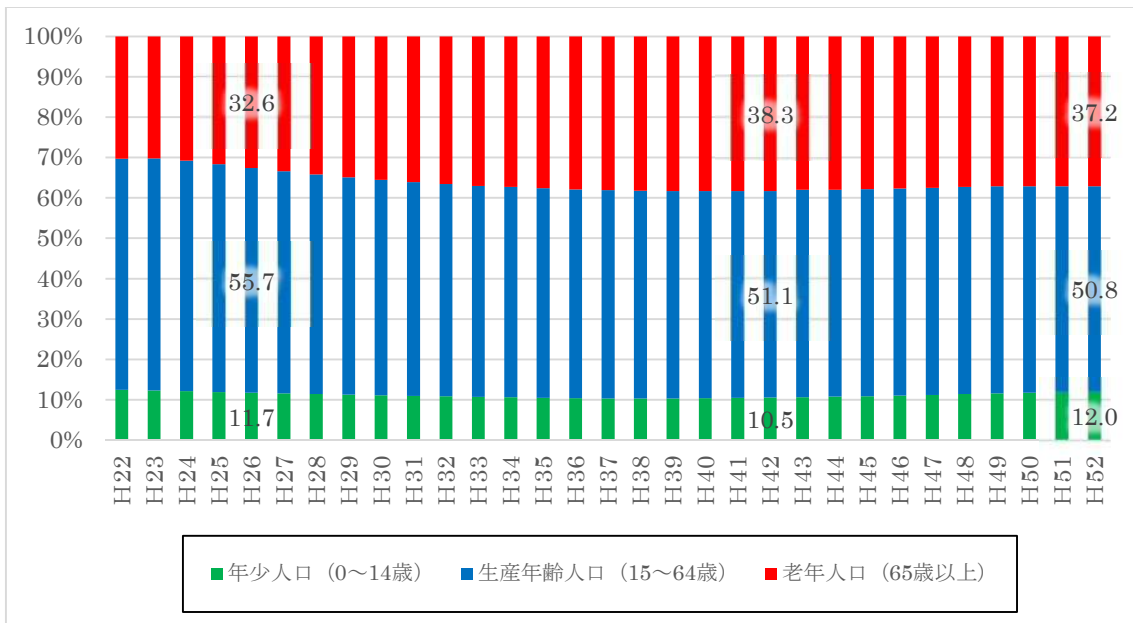
■シミュレーションの仮定値設定について

	仮定値の設定等
シミュレーション1 (自然増減)	<p>○国が示す「希望出生率」（日本創生会議を参考）の計算式を参考に、「一関市民の希望出生率」を算出し、仮定値として設定する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>※「結婚・出産・子育てに関する市民アンケート」より</p> <p>① 既婚者割合 67.0% × ※既婚者の理想の子どもの数 2.50 人</p> <p>② 未婚者（「以前結婚していた」含む）割合 33.0% × 未婚者結婚希望割合 78.0% × ※未婚者の理想の子どもの数 2.28 人</p> <p>(①+②) × 離別等効果 0.938 = <u>2.12 (一関市民の希望出生率)</u></p> </div> <p>○合計特殊出生率が 2025（平成 37）年にかけて国民の希望出生率 1.8、2035（平成 47）年にかけて市民の希望出生率 2.12 まで上昇し、以降は維持するものとする。</p>
シミュレーション2 (社会増減)	<p>○社会減の解消を仮定値として設定する。</p> <p>○社会減（約 450 人）が 2025（平成 37）年にゼロになるものとし、2016（平成 28）年から 2024（平成 36）年までの間は段階的に改善するものとする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>※「転入、転出に関する市民アンケート」より</p> <p>① 「一関市への転入を増やすために市が実施した方が良い効果的な支援」として、20～30 歳代の「子どもの医療費補助」「保育費支援」の回答が多かった。</p> <p>② 20～30 歳代の転入・転出の約 4 割は子どもを伴っている。</p> </div> <p>○社会減の改善は、20～30 歳代の男女と、うち 4 割が子どもを伴うものとして、未就学児に反映されるものとする。</p>
シミュレーション3	シミュレーション1、2の両方が実現した場合

【シミュレーションによる推計値】



【シミュレーション3による年齢3区分別人口構成比】



一関市まち・ひと・しごと創生総合戦略 骨子案

基本目標	(数値目標)	基本的方向	施策展開の方向性	KPI (重要業績指標) の例	施策例と取組み (施策例の参考とするため、●：先行型交付金事業 ★：上乗せ交付金申請事業 を記載)
1 市民が力を発揮できる仕事を創出し、若者や女性が集うまちを目指します。	★仕事や移住に関する願いに応え、社会減を解消する。 (数値目標例：社会減、総人口に占める就業者割合)	(1) 安定した雇用を創出する	地場産業の振興 ・技術力・経営力の強化支援 ・付加価値・生産性の向上	◎研究機関等との共同研究数 ◎付加価値額 ◎製造業の製造品出荷額等 ◎認定農業者数 ◎6次産業化事業化件数	▽新技術・新製品開発の支援 ▽農業経営体の育成 ▽地域ブランドのPR促進 ▽6次産業化の推進
			雇用の場の創出	◎新規立地・増設件数 ◎新規起業数	▽企業誘致活動の推進 ▽起業・創業支援
			人材の育成	◎介護職就職者数 ◎人材育成事業受講者数	▽技術・技能向上の支援 ●介護保険施設等人材育成支援事業 (介護保険施設等で働く人材の育成と確保)
		(2) 新しいひとの流れをつくる	若者定着の推進 ・地元就職の促進 ・雇用環境の整備・改善	◎新規高卒者の管内就職率 ◎高等教育機関卒業生の地元就職率 ◎新規就農者数 ◎新卒社員の定着率	▽地元企業への理解増進 ▽地元企業への就職活動支援、移住就労支援 ▽農業担い手の確保・育成 ▽地元企業が行う人材育成への支援 ●若者等ふるさと就職支援事業 (新規卒卒者・UIJターン者の人材育成経費の助成) ▽働きやすい職場づくりの啓発
			移住・定住の促進	◎県外からの移住・定住者数 ◎奨励金等活用件数 ◎空き家バンクの交渉申込件数	▽移住者への経済的支援 ●移住定住奨励助成事業 (住宅を取得し10年以上定住する移住者への助成) ▽相談窓口の強化
			交流人口の拡大 ・観光振興や観光資源の整備 ・中心市街地の活性化	◎観光入込客数 ◎中心市街地空き店舗率	▽観光資源の整備・活用 ★熱気球を活用した観光推進事業 ▽インバウンド観光の拡充 ★一関・平泉定住自立圏における日本版DMOによる地域づくり ▽二次交通の充実 ▽中心商店街の空き店舗対策 ▽一ノ関駅周辺の賑わい創出
			地域の魅力増進や知名度の向上	◎ホームページアクセス件数 ◎ふるさと納税件数・金額	▽効果的な情報発信 ▽体験・交流事業

基本目標	(数値目標)	基本的方向	施策展開の方向性	KPI (重要業績指標) の例	施策例と取組み (施策例の参考とするため、●：先行型交付金事業 ★：上乗せ交付金申請事業 を記載)
2 社会全体で子育てを支援し、子育てしやすいまちを目指します。	★就労、出会い、結婚、妊娠・出産、子育ての環境を整備し、出生率を向上させる。 (数値目標例： 合計特殊出生率)	(1) 結婚・出産の希望をかなえる	結婚支援	◎婚姻件数 ◎いちのせき結婚活動サポートセンターの会員登録数 ◎縁結び支援事業の利用者数 ◎婚活イベントへの参加者数	▽結婚情報サービスの提供 ▽婚活支援イベントの実施 ●結婚活動支援事業 (登米市、栗原市と合同での婚活イベントの実施) ▽ライフデザイン (結婚～出産～子育て) の構築支援
			妊娠・出産への支援	◎特定不妊治療を受けている方への助成実績	▽妊娠・出産の経済的支援
		(2) 安心して子育てを楽しめる環境の形成	子育て支援の充実	◎母子健康相談・家庭訪問事業の訪問率 ◎一関市ファミリーサポートセンター登録者数 ◎15歳以下の子の転入・転出数 ◎待機児童数 ◎父親の育児参加率	▽子育てに係る経済的支援 ●中学生医療費助成事業 (中学生までの子どもの医療費無料化) ▽子育て相談・支援環境の充実 ▽保育の充実 (延長保育・病児保育など) ▽同居・近居の促進 ▽出産・子育てに関する男性の意識啓発
			教育環境の充実	◎「自分のまちを愛する」という気持ち強い方だと答えた中高生の割合 ◎不登校の出現率	▽教育に係る経済的支援 ▽郷土教育・自然教育の推進 ▽市内高等教育機関の理解増進 ▽英語教育の推進
			就労環境の整備	◎「いわて子育てにやさしい企業等」認証企業数	▽仕事と子育ての両立支援 ▽父親の育児支援

基本目標	(数値目標)	基本的方向	施策展開の方向性	KPI (重要業績指標) の例	施策例と取組み (施策例の参考とするため、●：先行型交付金事業 ★：上乗せ交付金申請事業 を記載)
3 心豊かに安心して暮らせる、住みたい、住んでよかったまちを目指します。	★生活を支える基盤の強化を進め、地域の魅力を向上させ、住みやすさを高める。 (数値目標例： 老年人口に占める要介護認定者数の割合、アンケートで「住みやすい」と答えた市民の割合)	(1) 地域で安全に安心して暮らせる環境の整備・充実	医療、福祉・介護体制の充実	◎市内病院勤務医師数 ◎医師・看護師等修学資金利用者数	▽医療介護人材の育成 ▽小児科医療機関の充実 ▽夜間・緊急医療体制の充実
			地域生活の支援	◎市民ボランティアの登録数 ◎地域包括支援センターの設置数 ◎公共交通利用者数	▽地域福祉の推進 ▽生活交通の維持確保
			暮らしの安全対策	◎住宅耐震化率 ◎自主防災組織の組織率	▽災害に強いまちづくりの推進 ▽消防防災体制の拡充 ▽防犯・交通安全対策の推進
		(2) 生きがいを持ち健康に暮らせる環境づくり	健康づくりと介護予防の促進	◎集団健康教育延べ参加者数 ◎がん検診受診率 ◎介護予防事業参加者数	▽健康づくりの推進 ▽介護予防の充実
			生きいきとした生活を送るための環境づくり	◎文化センター利用者数 ◎スポーツ施設利用者数 ◎生涯学習活動参加者数 ◎老人クラブ加入率	▽文化・芸術活動の振興 ▽スポーツレクリエーション活動の推進 ▽生涯学習の推進 ▽高齢者の社会参加の支援

基本目標	(数値目標)	基本的方向	施策展開の方向性	KPI (重要業績指標) の例	施策例と取組み (施策例の参考とするため、●：先行型交付金事業 ★：上乗せ交付金申請事業 を記載)
4 未来へ引き継がれる、誇りと愛着が持てるまちを目指します。	★協働によるまちづくりを進め、まちへの愛着を高める。 (数値目標例： 総人口に占める転出者割合、アンケートで「自分のまちを愛する」という気持ちが高い」と答えた市民の割合)	(1) 将来にわたって持続可能なまちづくり	ILCを基軸としたまちづくり	◎ILC 講演会等の開催回数	▽ILC の意義と価値についての普及啓発
			資源・エネルギー循環型のまちづくり	◎エネルギー消費量に占める新エネルギーの割合 ◎一般廃棄物のリサイクル率	▽再生可能エネルギーの導入促進 ▽ごみの発生抑制・再使用・再生利用の推進
			東日本大震災からの復旧復興	◎原木しいたけの年間生産量	▽農林業の生産基盤の再生
		(2) 連携と協働によるまちづくり	地域コミュニティ活動の活性化	◎地域協働体設立数	▽コミュニティ意識の向上 ▽コミュニティ活動の充実
			地域間の連携	◎広域連携事業数	▽広域連携の推進
			行政機能の効率化	◎行政改革による財政効果額	▽協働によるまちづくりの推進 ▽業務改革の推進 ▽人材育成の推進と組織体制の見直し ▽公共施設の効率的な維持管理

一関市人口ビジョンの策定に係る
「結婚・出産・子育てに関する市民アンケート調査」
結果報告書

1. 調査の目的

一関市在住の市民に対してアンケート調査を行い、結婚・出産・子育てに関する意識や実態を把握し、今後の施策等の検討に活用する。

2. 調査概要

(1) 調査対象

市内在住の18～49歳の男女各1,000名を無作為抽出した。

(2) 調査内容

問1～問8	あなた自身のこと
問9～問13	一関市での居住について
問14～問23	結婚について
問24～問34	出産・子育てについて

(3) 調査方法

調査票を郵送により配布、回収する。

(4) 調査実施期間

平成27年7月17日（金）～平成27年7月31日（金）

3. 回収結果

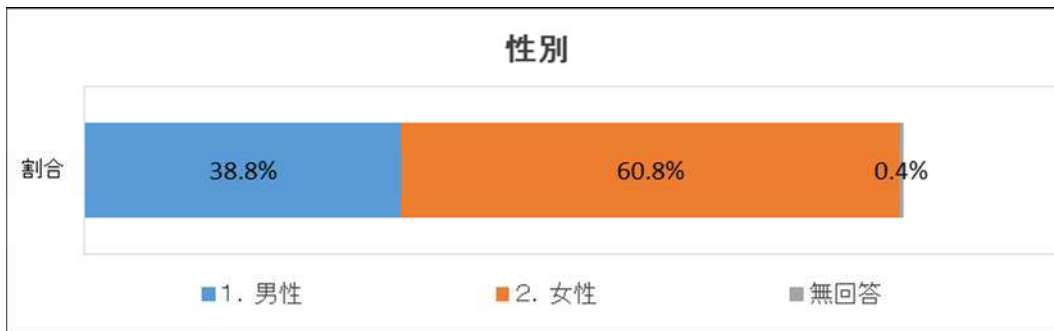
	計
配布数	1,900 票
回収数	564 票
回収率	29.7%

4 調査結果

問1 あなたの性別をお答え下さい。(1つに○)

「女性」が60.8%と半数以上を占めており、「男性」が38.8%となっています。

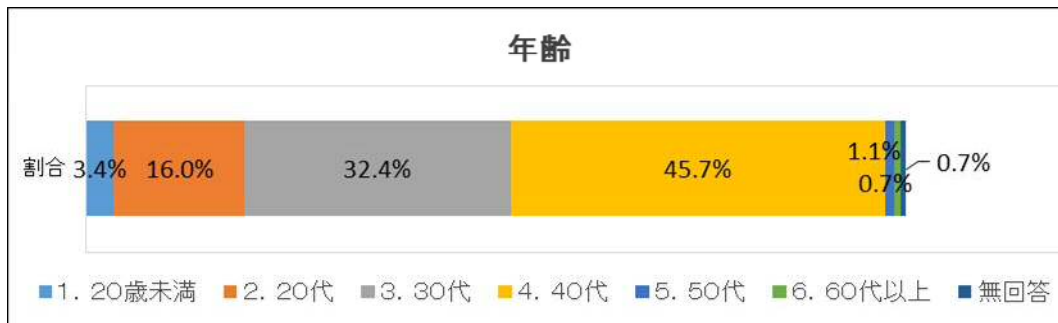
	人数	割合
1. 男性	219	38.8%
2. 女性	343	60.8%
無回答	2	0.4%
合計	564	100.0%



問2 あなたの年齢は、おいくつですか。

「40代」が最も多く45.7%となっており、次いで「30代」が32.4%となっています。

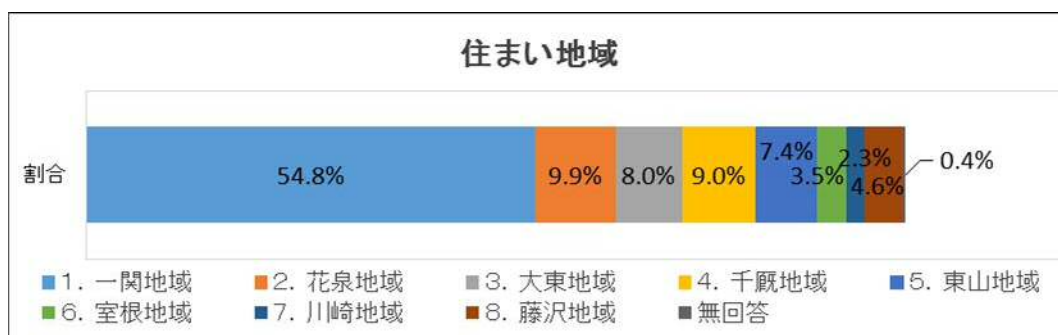
	人数	割合
1. 20歳未満	19	3.4%
2. 20代	90	16.0%
3. 30代	183	32.4%
4. 40代	258	45.7%
5. 50代	6	1.1%
6. 60代以上	4	0.7%
無回答	4	0.7%
合計	564	100.0%



問3 あなたのお住まいの地域はどこですか。(1つに○)

最も多いのが「一関地域」で 54.8%と半数以上となっており、他は 10%以下となっています。

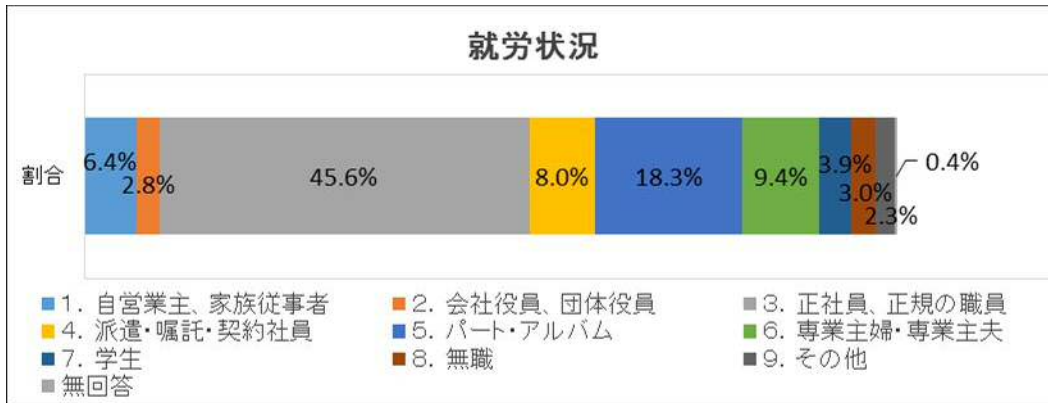
	人数	割合
1. 一関地域	309	54.8%
2. 花泉地域	56	9.9%
3. 大東地域	45	8.0%
4. 千厩地域	51	9.0%
5. 東山地域	42	7.4%
6. 室根地域	20	3.5%
7. 川崎地域	13	2.3%
8. 藤沢地域	26	4.6%
無回答	2	0.4%
合計	564	100.0%



問4 あなたの就労の状況について伺います。(1つに○ (兼業の方は主たる方に○))

「正社員、正規の職員」が多く 45.6%となっており、次いで「パート・アルバイト」が 18.3%となっています。

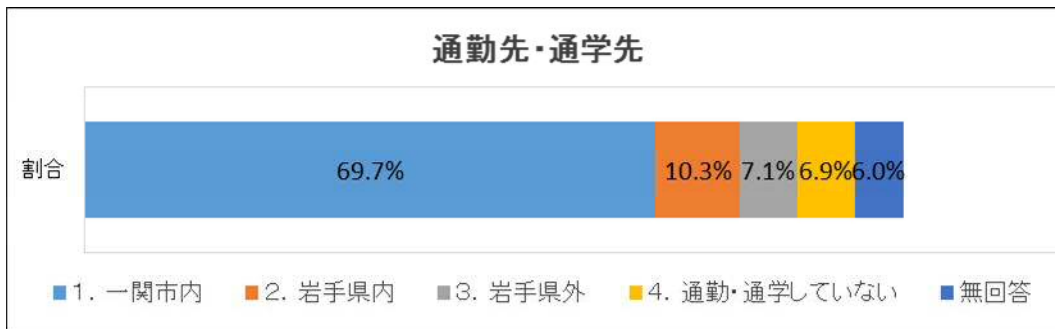
	人数	割合
1. 自営業主、家族従事者	36	6.4%
2. 会社役員、団体役員	16	2.8%
3. 正社員、正規の職員	257	45.6%
4. 派遣・嘱託・契約社員	45	8.0%
5. パート・アルバイト	103	18.3%
6. 専業主婦・専業主夫	53	9.4%
7. 学生	22	3.9%
8. 無職	17	3.0%
9. その他	13	2.3%
無回答	2	0.4%
合計	564	100.0%



問5 あなたの勤務先、通学先はどちらですか。(1つに○(複数ある方は主たる方に○))

「一関市内」が最も多く 69.7%を占めており、次いで「岩手県内」が 10.3%となっています。

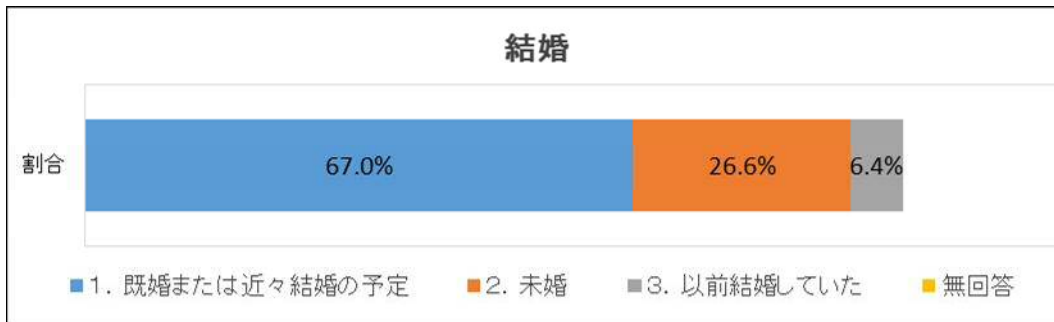
	人数	割合
1. 一関市内	393	69.7%
2. 岩手県内	58	10.3%
3. 岩手県外	40	7.1%
4. 通勤・通学していない	39	6.9%
無回答	34	6.0%
合計	564	100.0%



問6 あなたは、現在、結婚されていますか。(1つに○)

「既婚または近々結婚の予定」が 67.0%と最も多く、次いで「未婚」が 26.6%となっています。

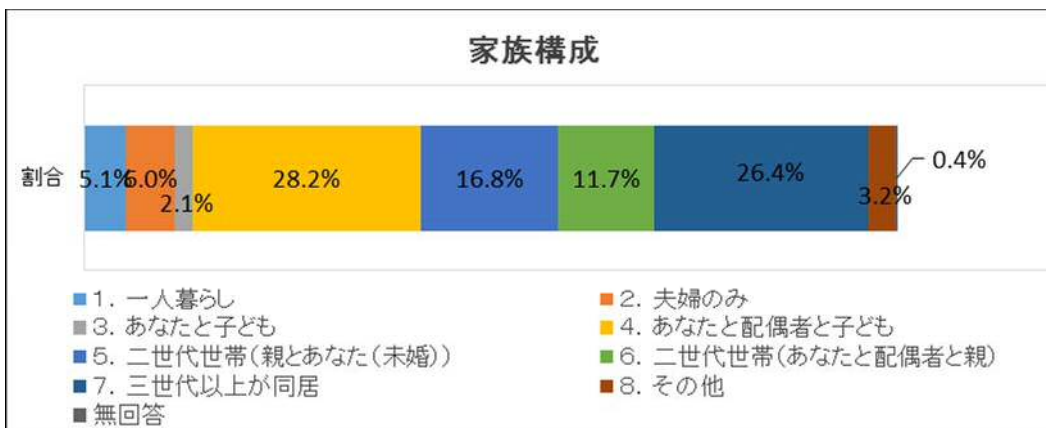
	人数	割合
1. 既婚または近々結婚の予定	378	67.0%
2. 未婚	150	26.6%
3. 以前結婚していた	36	6.4%
無回答	0	0.0%
合計	564	100.0%



問7 あなたの家族構成について伺います。(1つに○)

「あなたと配偶者と子ども」が最も多く 28.2%となっており、次いで「三世代以上が同居」が26.4%となっています。

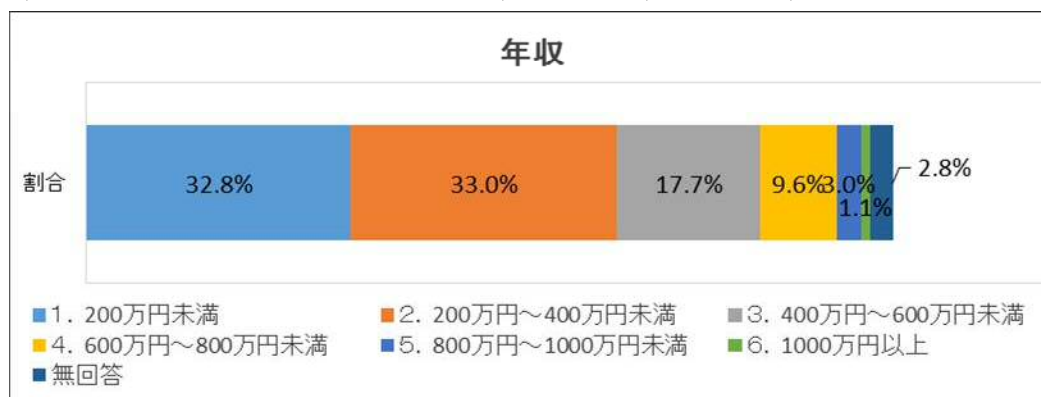
	人数	割合
1. 一人暮らし	29	5.1%
2. 夫婦のみ	34	6.0%
3. あなたと子ども	12	2.1%
4. あなたと配偶者と子ども	159	28.2%
5. 二世帯世帯(親とあなた(未婚))	95	16.8%
6. 二世帯世帯(あなたと配偶者と親)	66	11.7%
7. 三世代以上が同居	149	26.4%
8. その他	18	3.2%
無回答	2	0.4%
合計	564	100.0%



問8 あなたの年収について伺います。(結婚している方は配偶者の年収も含む)(1つに○)

年収は「200万円～400万円未満」が最も多く 33.0%、次いで「200万円未満」が32.8%となっています。

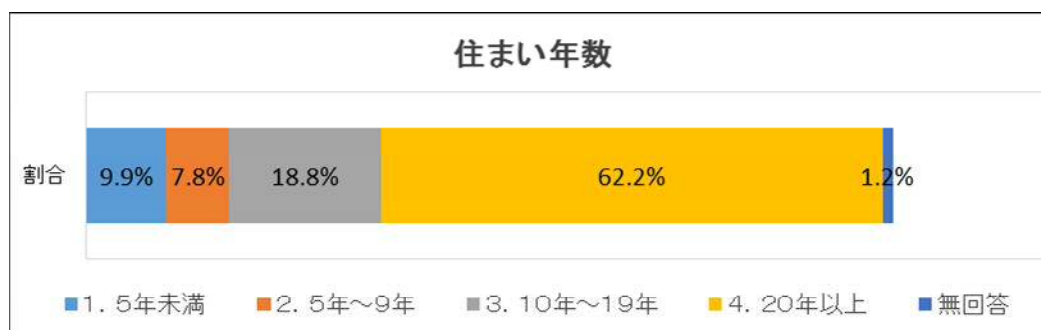
	人数	割合
1. 200万円未満	185	32.8%
2. 200万円～400万円未満	186	33.0%
3. 400万円～600万円未満	100	17.7%
4. 600万円～800万円未満	54	9.6%
5. 800万円～1000万円未満	17	3.0%
6. 1000万円以上	6	1.1%
無回答	16	2.8%
合計	564	100.0%



問9 あなたは一関市にお住まいになってどれくらいになりますか。(1つに○)

「20年以上」が62.2%と半数以上を占めており、次いで「10年～19年」が18.8%となっています。

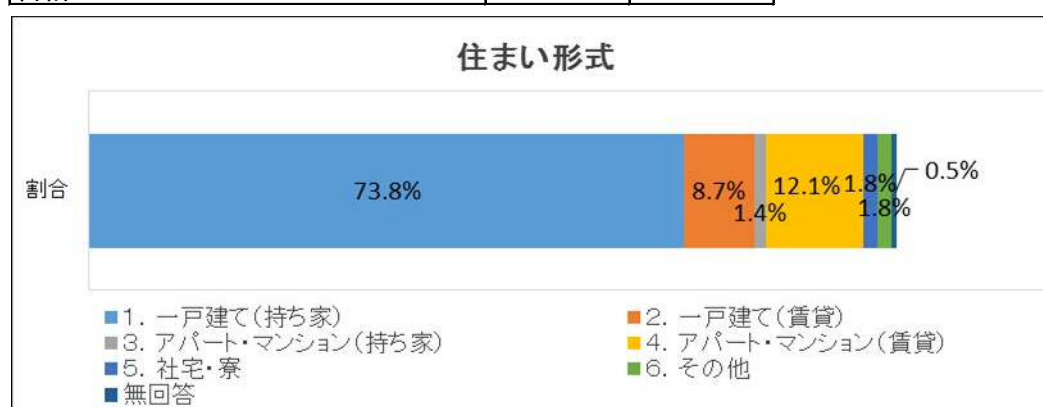
	人数	割合
1. 5年未満	56	9.9%
2. 5年～9年	44	7.8%
3. 10年～19年	106	18.8%
4. 20年以上	351	62.2%
無回答	7	1.2%
合計	564	100.0%



問 10 あなたのお住まいの形式をお選び下さい。(1つに○)

「一戸建て(持ち家)」が最も多く 73.8%を占めており、次いで「アパート・マンション(賃貸)」が 12.1%となっています。

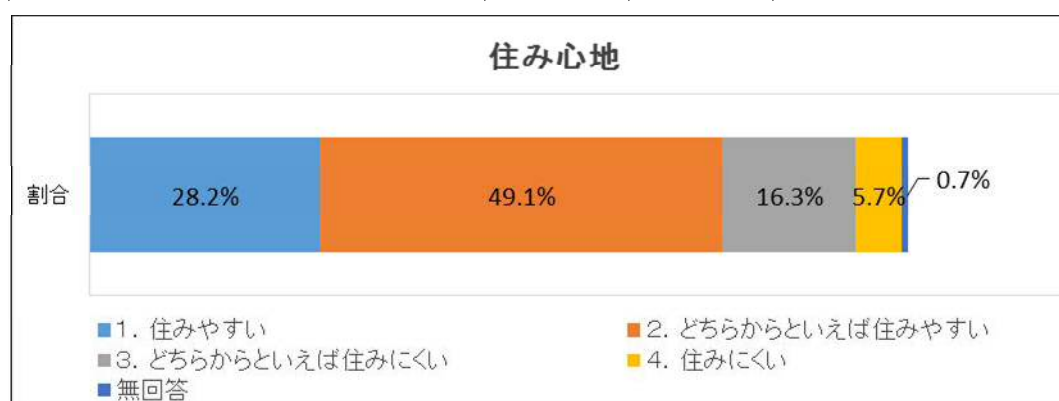
	人数	割合
1. 一戸建て(持ち家)	416	73.8%
2. 一戸建て(賃貸)	49	8.7%
3. アパート・マンション(持ち家)	8	1.4%
4. アパート・マンション(賃貸)	68	12.1%
5. 社宅・寮	10	1.8%
6. その他	10	1.8%
無回答	3	0.5%
合計	564	100.0%



問 11 あなたは、現在お住まいの地域の住み心地をどのように感じていますか。
(1つに○をし、その理由をご記入ください。)

最も多いのは「どちらかといえば住みやすい」で 49.1%と半数近くとなっており、次いで「住みやすい」が 28.2%となっています。

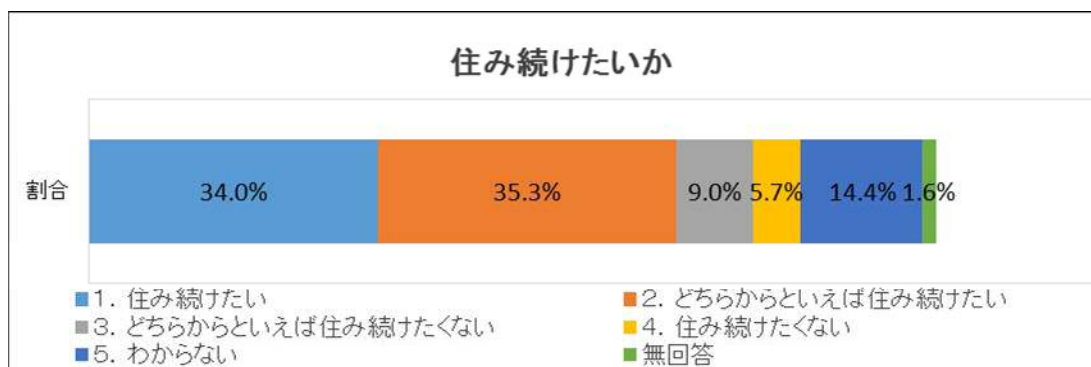
	人数	割合
1. 住みやすい	159	28.2%
2. どちらからといえば住みやすい	277	49.1%
3. どちらからといえば住みにくい	92	16.3%
4. 住みにくい	32	5.7%
無回答	4	0.7%
合計	564	100.0%



問 12 あなたは、現在のお住まいの地域にこれからも住み続けたいと思いますか。
 (1つに○をし、その理由をご記入ください。)

「どちらかといえば住み続けたい」が 35.3%、次いで「住み続けたい」が 34.0%となっています。

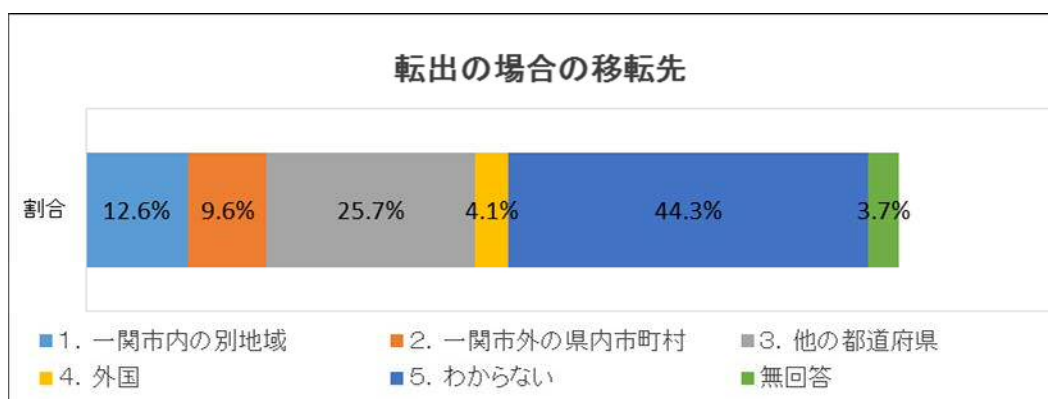
	人数	割合
1. 住み続けたい	192	34.0%
2. どちらからといえば住み続けたい	199	35.3%
3. どちらからといえば住み続けたくない	51	9.0%
4. 住み続けたくない	32	5.7%
5. わからない	81	14.4%
無回答	9	1.6%
合計	564	100.0%



問 13 転出（転居）する可能性があるとした場合、どこに住みたいですか。
 (1つに○をし、地域名をご記入ください。)

「わからない」が最も多く 44.3%となっており、次いで「他の都道府県」が 25.7%となっています。

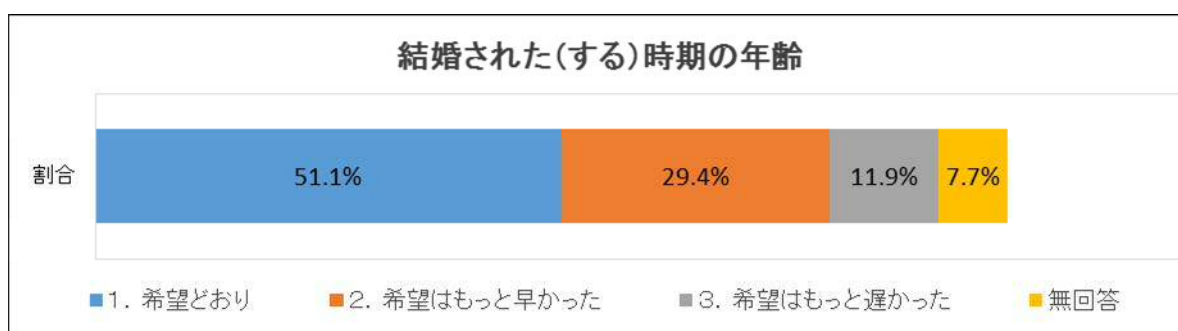
	人数	割合
1. 一関市内の別地域	71	12.6%
2. 一関市外の県内市町村	54	9.6%
3. 他の都道府県	145	25.7%
4. 外国	23	4.1%
5. わからない	250	44.3%
無回答	21	3.7%
合計	564	100.0%



問 14 【問 6 で「既婚または近々結婚の予定がある」を回答した方へ】結婚された（する）時期は、希望どおりの年齢でしたか。（1つに○）

最も多いのが「希望どおり」で 51.1%と半数を占めており、次いで「希望はもっと早かった」が 29.4%となっています。

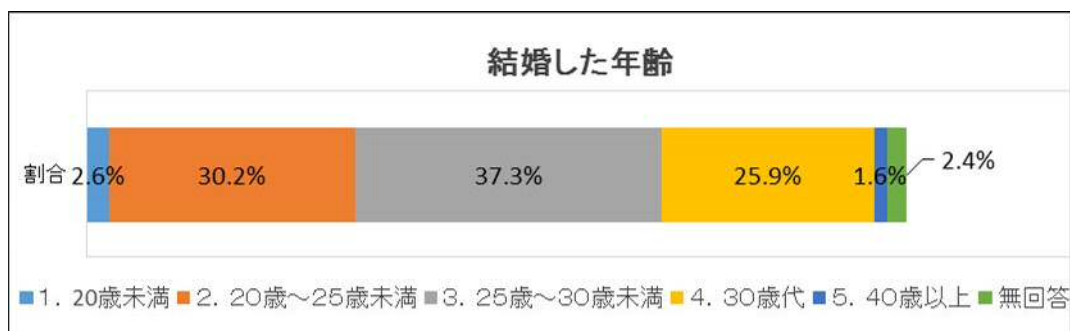
	人数	割合
1. 希望どおり	193	51.1%
2. 希望はもっと早かった	111	29.4%
3. 希望はもっと遅かった	45	11.9%
無回答	29	7.7%
合計	378	100.0%



問 15 【問 6 で「既婚または近々結婚の予定がある」を回答した方へ】結婚されたのは何歳のときですか。（1つに○）

「25歳～30歳未満」が 37.3%と最も多く、次いで「20歳～25歳未満」が 30.2%となっています。

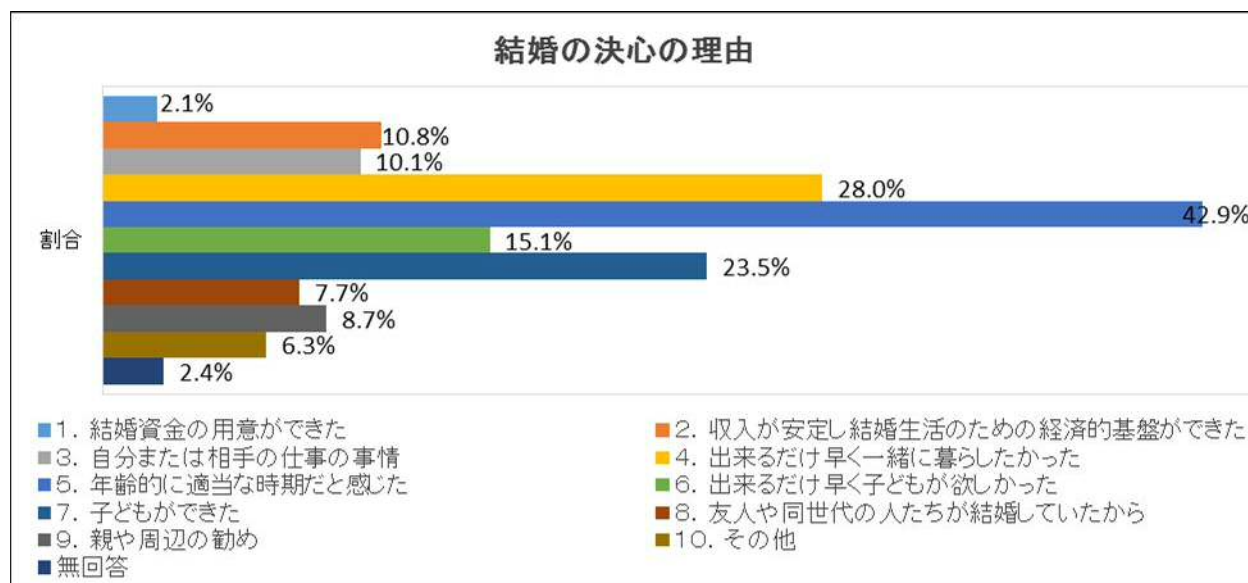
	人数	割合
1. 20歳未満	10	2.6%
2. 20歳～25歳未満	114	30.2%
3. 25歳～30歳未満	141	37.3%
4. 30歳代	98	25.9%
5. 40歳以上	6	1.6%
無回答	9	2.4%
合計	378	100.0%



問 16 【問 6 で「既婚または近々結婚の予定がある」を回答した方へ】結婚を決めた直接的なきっかけはどのようなことですか。（あてはまるものすべてに○）

「年齢的に適当な時期だと感じた」が最も多く 42.9%となっており、次いで「出来るだけ早く一緒に暮らしたかった」が 28.0%、「子どもができた」が 23.5%となっています。

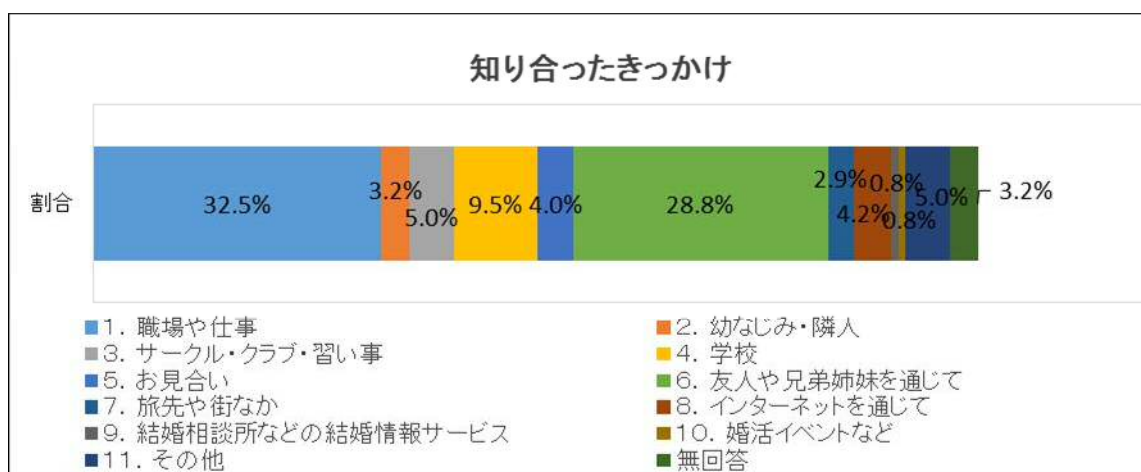
	人数	割合
1. 結婚資金の用意ができた	8	2.1%
2. 収入が安定し結婚生活のための経済的基盤ができた	41	10.8%
3. 自分または相手の仕事の事情	38	10.1%
4. 出来るだけ早く一緒に暮らしたかった	106	28.0%
5. 年齢的に適当な時期だと感じた	162	42.9%
6. 出来るだけ早く子どもが欲しかった	57	15.1%
7. 子どもができた	89	23.5%
8. 友人や同世代の人たちが結婚していたから	29	7.7%
9. 親や周辺の勧め	33	8.7%
10. その他	24	6.3%
無回答	9	2.4%
合計	596	



問 17 【問6で「既婚または近々結婚の予定がある」を回答した方へ】今のパートナーとはどこで知り合いましたか。(1つに○)

「職場や仕事」が 32.5%と最も多く、次いで「友人や兄弟姉妹を通じて」が 28.8%となっています。

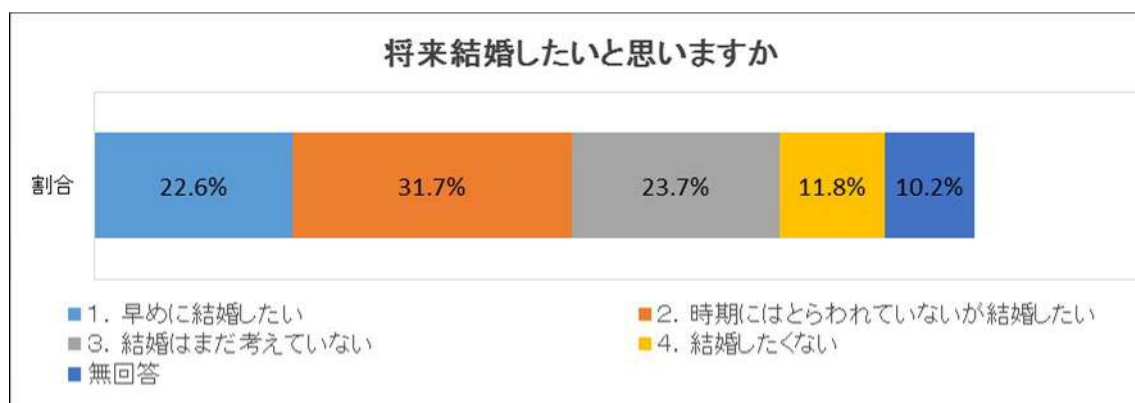
	人数	割合
1. 職場や仕事	123	32.5%
2. 幼なじみ・隣人	12	3.2%
3. サークル・クラブ・習い事	19	5.0%
4. 学校	36	9.5%
5. お見合い	15	4.0%
6. 友人や兄弟姉妹を通じて	109	28.8%
7. 旅先や街なか	11	2.9%
8. インターネットを通じて	16	4.2%
9. 結婚相談所などの結婚情報サービス	3	0.8%
10. 婚活イベントなど	3	0.8%
11. その他	19	5.0%
無回答	12	3.2%
合計	378	100.0%



問 18 【問 6 で「未婚」「以前結婚していた」を回答した方へ】あなたは、結婚したいですか。（1つに○）

「時期にはとらわれていないが結婚したい」が最も多く 31.7%となっており、次いで「結婚はまだ考えていない」が 23.7%となっています。

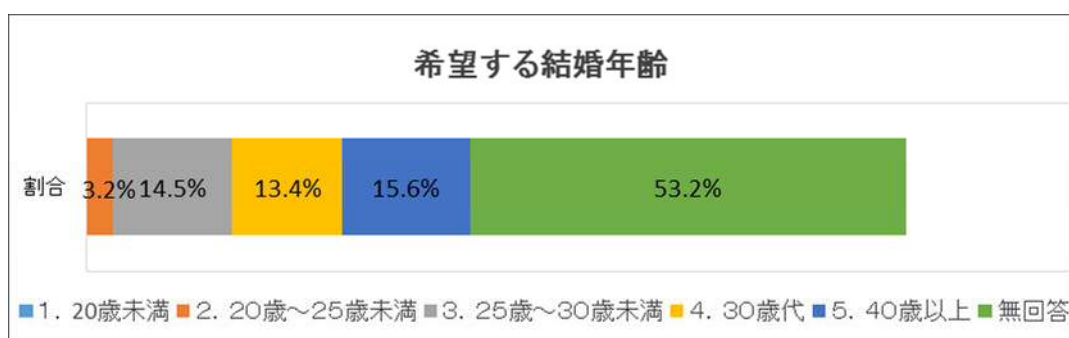
	人数	割合
1. 早めに結婚したい	42	22.6%
2. 時期にはとらわれていないが結婚したい	59	31.7%
3. 結婚はまだ考えていない	44	23.7%
4. 結婚したくない	22	11.8%
無回答	19	10.2%
合計	186	100.0%



問 19 【問 6 で「未婚」「以前結婚していた」と回答した方へ】何歳ぐらいで結婚したいですか？その年齢をお書きください。

「25歳～30歳未満」「30歳代」「40歳以上」に集中しています。

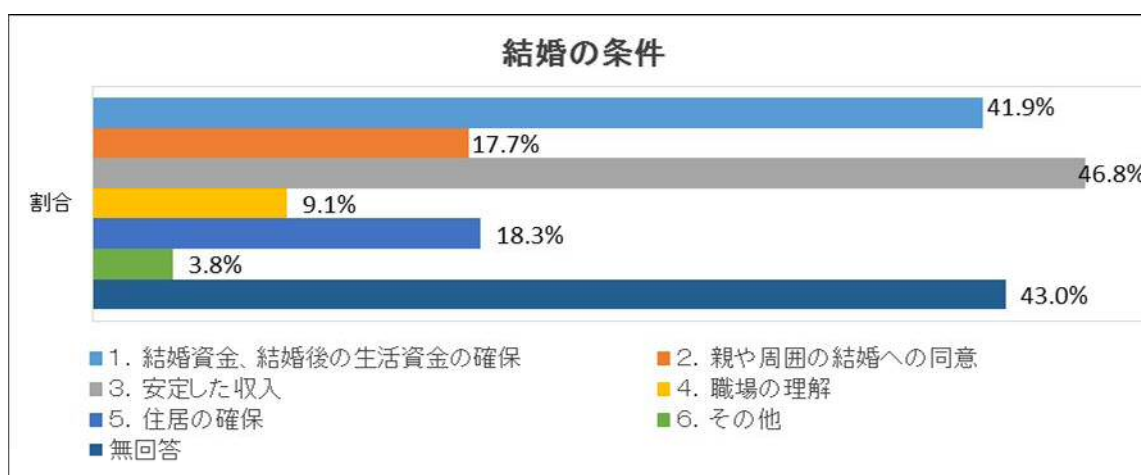
	人数	割合
1. 20歳未満	0	0.0%
2. 20歳～25歳未満	6	3.2%
3. 25歳～30歳未満	27	14.5%
4. 30歳代	25	13.4%
5. 40歳以上	29	15.6%
無回答	99	53.2%
合計	186	100.0%



問 20 【問 6 で「未婚」「以前結婚していた」を回答した方へ】今後結婚するとしたら、どのような条件が必要ですか。（あてはまるものすべてに○）

「安定した収入」が最も多く 46.8%と半数近くとなっており、次いで「結婚資金、結婚後の生活資金の確保」が 41.9%となっています。

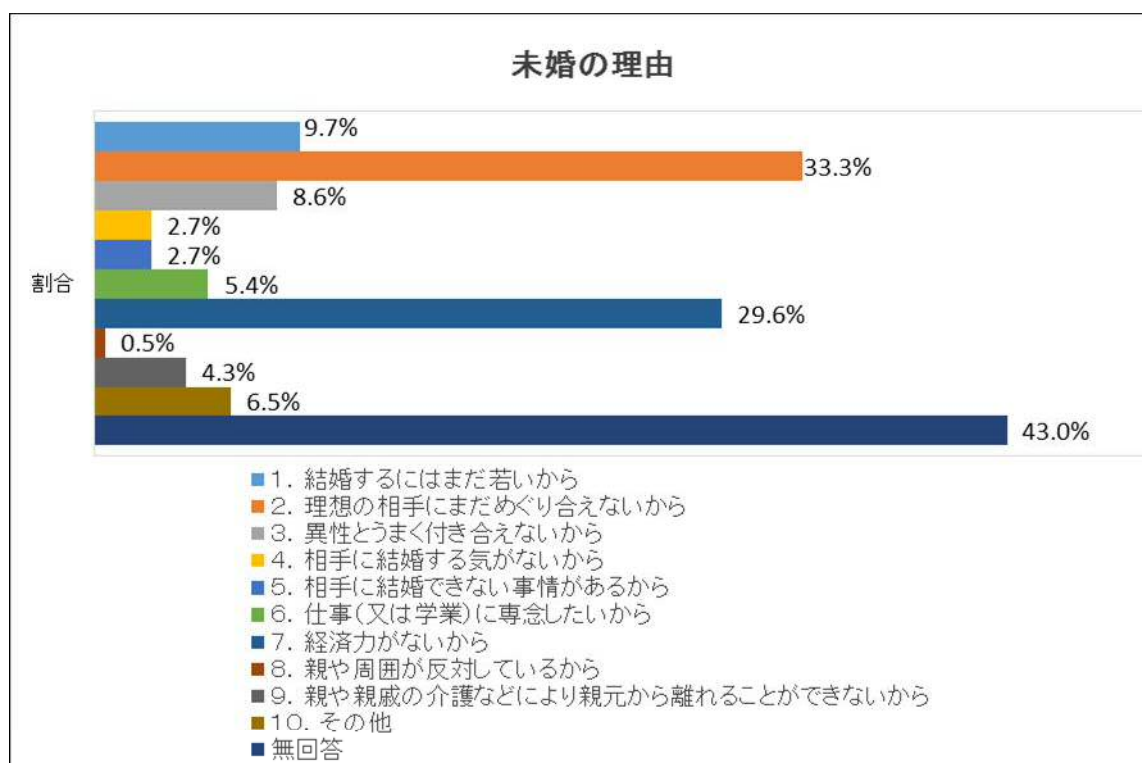
	人数	割合
1. 結婚資金、結婚後の生活資金の確保	78	41.9%
2. 親や周囲の結婚への同意	33	17.7%
3. 安定した収入	87	46.8%
4. 職場の理解	17	9.1%
5. 住居の確保	34	18.3%
6. その他	7	3.8%
無回答	80	43.0%
合計	336	



問 21 【問 6 で「未婚」「以前結婚していた」を回答した方へ】現在、未婚である理由はどのようなことですか。（あてはまるものすべてに○）

「理想の相手にまだめぐり合えないから」が最も多く 33.3%となっており、次いで「経済力がないから」が 29.6%となっています。

	人数	割合
1. 結婚するにはまだ若いから	18	9.7%
2. 理想の相手にまだめぐり合えないから	62	33.3%
3. 異性とうまく付き合えないから	16	8.6%
4. 相手に結婚する気がないから	5	2.7%
5. 相手に結婚できない事情があるから	5	2.7%
6. 仕事(又は学業)に専念したいから	10	5.4%
7. 経済力がないから	55	29.6%
8. 親や周囲が反対しているから	1	0.5%
9. 親や親戚の介護などにより親元から離れることができないから	8	4.3%
10. その他	12	6.5%
無回答	80	43.0%
合計	272	

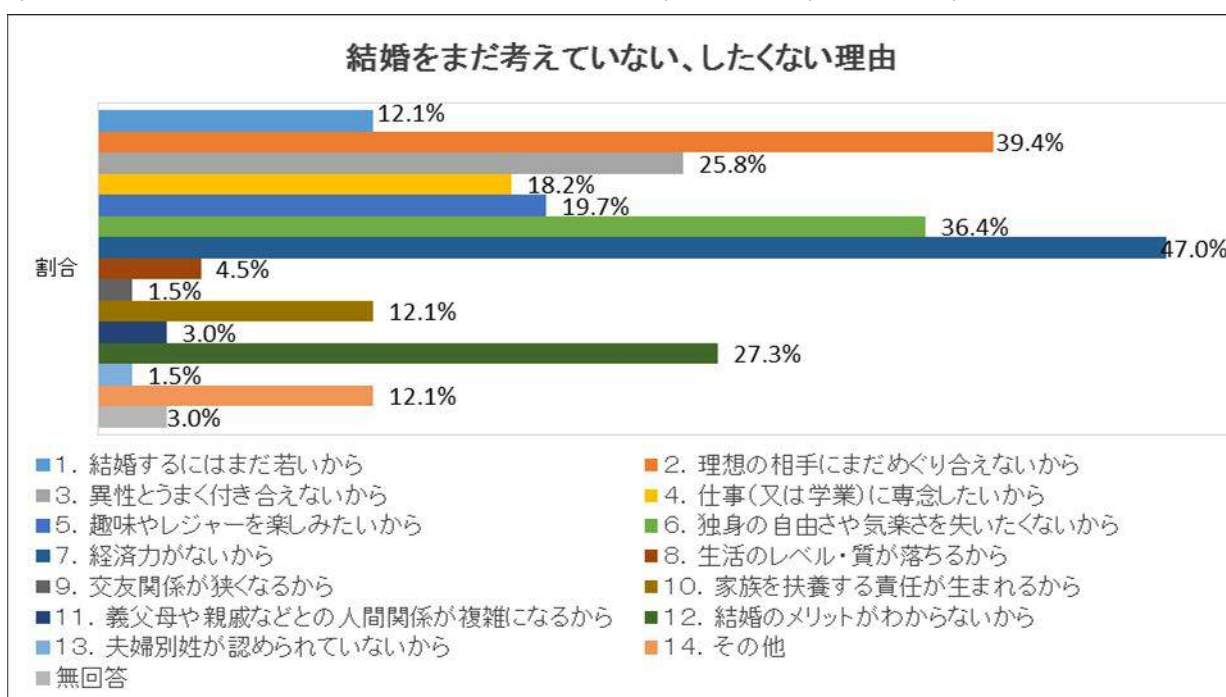


問 22 【問 18 で「結婚はまだ考えていない」「結婚したくない」を回答した方へ】結婚をまだ考えていない、したくない理由はどのようなことですか。

(あてはまるものすべてに○)

最も多いのは「経済力がないから」で 47.0%、次いで「理想の相手にまだめぐり合えないから」が 39.4%、その他「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」が 36.4%、「結婚のメリットがわからないから」が 27.3%、「異性とうまく付き合えないから」が 25.8%の順に多くなっています。

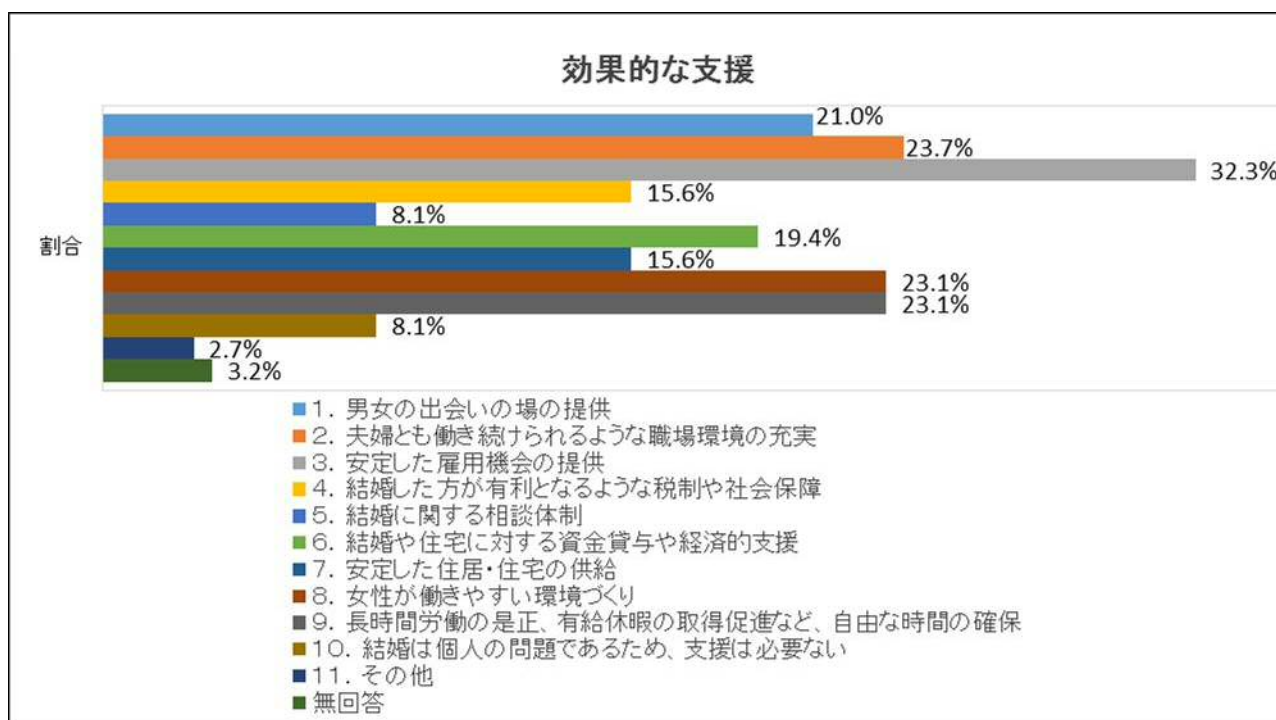
	人数	割合
1. 結婚するにはまだ若いから	8	12.1%
2. 理想の相手にまだめぐり合えないから	26	39.4%
3. 異性とうまく付き合えないから	17	25.8%
4. 仕事(又は学業)に専念したいから	12	18.2%
5. 趣味やレジャーを楽しみたいから	13	19.7%
6. 独身の自由さや気楽さを失いたくないから	24	36.4%
7. 経済力がないから	31	47.0%
8. 生活のレベル・質が落ちるから	3	4.5%
9. 交友関係が狭くなるから	1	1.5%
10. 家族を扶養する責任が生まれるから	8	12.1%
11. 義父母や親戚などとの人間関係が複雑になるから	2	3.0%
12. 結婚のメリットがわからないから	18	27.3%
13. 夫婦別姓が認められていないから	1	1.5%
14. その他	8	12.1%
無回答	2	3.0%
合計	174	



問 23 【問6で「未婚」「以前結婚していた」を回答した方へ】結婚しやすい、結婚したいと思える環境をつくるには、どのような支援が効果的だと思いますか？（あてはまるものすべてに○）

最も多いのは「安定した雇用機会の提供」で 32.3%、次いで「夫婦とも働き続けられるような職場環境の充実」が 23.7%、その他「女性が働きやすい環境づくり」と「長時間労働の是正、有給休暇の取得促進など、自由な時間の確保」が 23.1%、「男女の出会いの場の提供」が 21.0%の順に多くなっています。

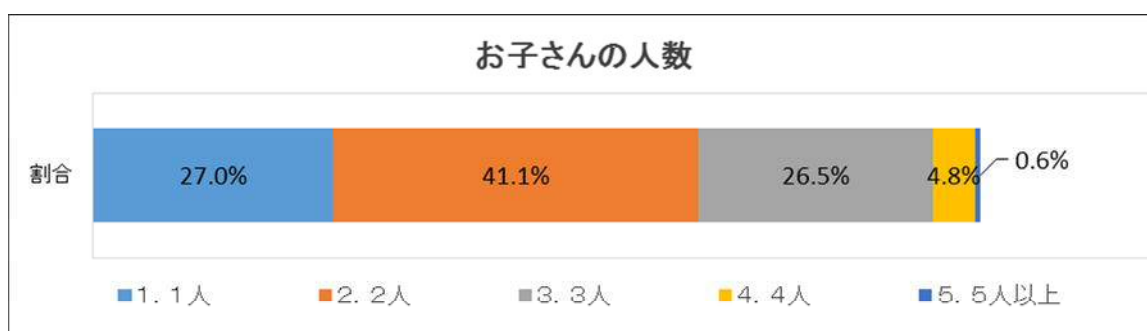
	人数	割合
1. 男女の出会いの場の提供	39	21.0%
2. 夫婦とも働き続けられるような職場環境の充実	44	23.7%
3. 安定した雇用機会の提供	60	32.3%
4. 結婚した方が有利となるような税制や社会保障	29	15.6%
5. 結婚に関する相談体制	15	8.1%
6. 結婚や住宅に対する資金貸与や経済的支援	36	19.4%
7. 安定した住居・住宅の供給	29	15.6%
8. 女性が働きやすい環境づくり	43	23.1%
9. 長時間労働の是正、有給休暇の取得促進など、自由な時間の確保	43	23.1%
10. 結婚は個人の問題であるため、支援は必要ない	15	8.1%
11. その他	5	2.7%
無回答	6	3.2%
合計	364	



問 24 【お子さんがいる方へ】 お子さんは何人いますか（同居・別居は問いません）。
（1つに○）

お子さんの人数は「2人」が最も多く41.1%となっており、次いで「1人」が27.0%となっています。

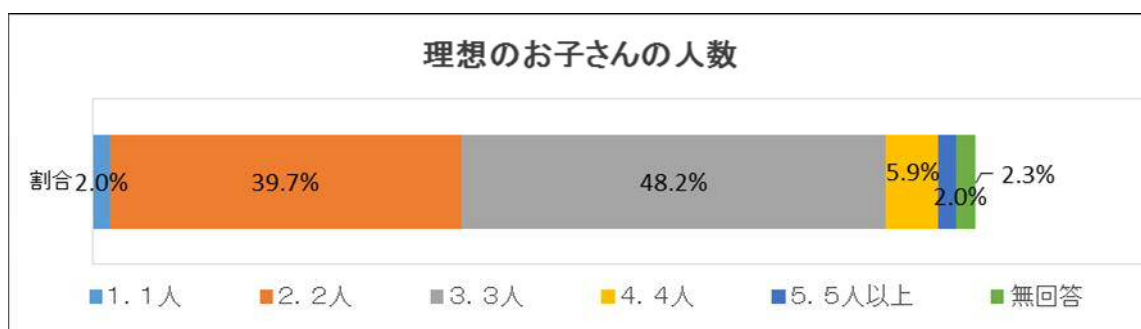
	人数	割合
1. 1人	96	27.0%
2. 2人	146	41.1%
3. 3人	94	26.5%
4. 4人	17	4.8%
5. 5人以上	2	0.6%
合計	355	100.0%



問 25 あなたにとって理想のお子さんは何人ですか。（1つに○）

理想のお子さんの人数は「3人」が最も多く48.2%と半数近くになっており、次いで「2人」が39.7%となっています。

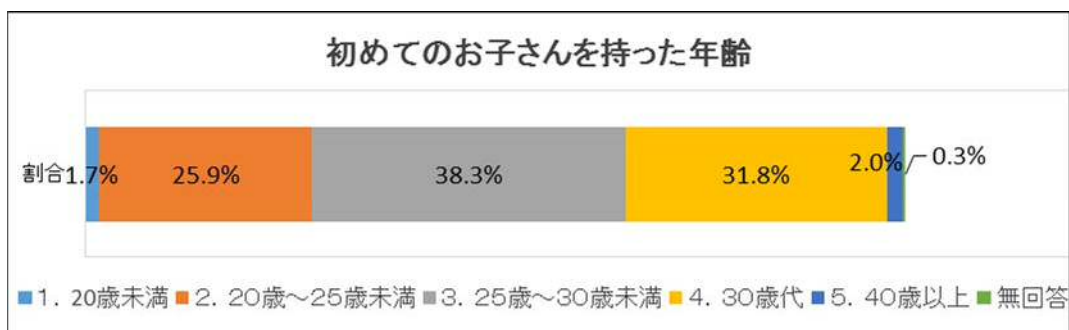
	人数	割合
1. 1人	7	2.0%
2. 2人	141	39.7%
3. 3人	171	48.2%
4. 4人	21	5.9%
5. 5人以上	7	2.0%
無回答	8	2.3%
合計	355	100.0%



問 26 【お子さんがいる方へ】初めてお子さんをお持ちになった年齢をお書きください。

「20歳～25歳未満」「25歳～30歳未満」「30歳代」に集中しています。

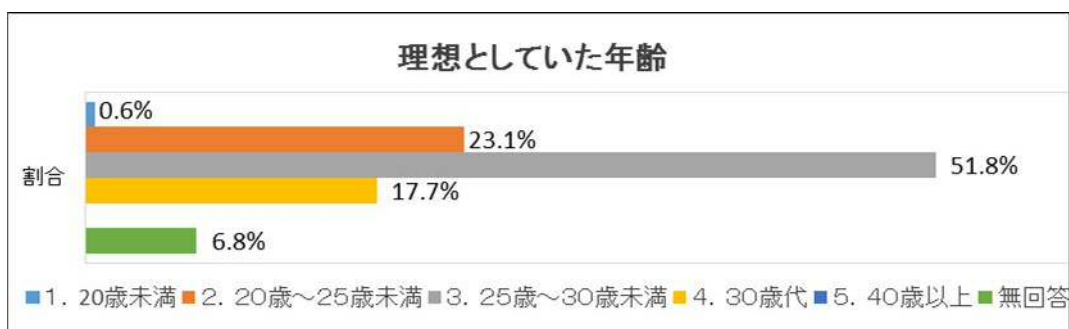
	人数	割合
1. 20歳未満	6	1.7%
2. 20歳～25歳未満	92	25.9%
3. 25歳～30歳未満	136	38.3%
4. 30歳代	113	31.8%
5. 40歳以上	7	2.0%
無回答	1	0.3%
合計	355	100.0%



問 26-2 【お子さんがいる方へ】初めてお子さんをお持ちになるにあたっての理想としていた年齢をお書きください。

「25歳～30歳未満」が最も多く 51.8%となっており、次いで「20歳～25歳未満」が 23.1%となっています。

	人数	割合
1. 20歳未満	2	0.6%
2. 20歳～25歳未満	82	23.1%
3. 25歳～30歳未満	184	51.8%
4. 30歳代	63	17.7%
5. 40歳以上	0	0.0%
無回答	24	6.8%
合計	355	100.0%

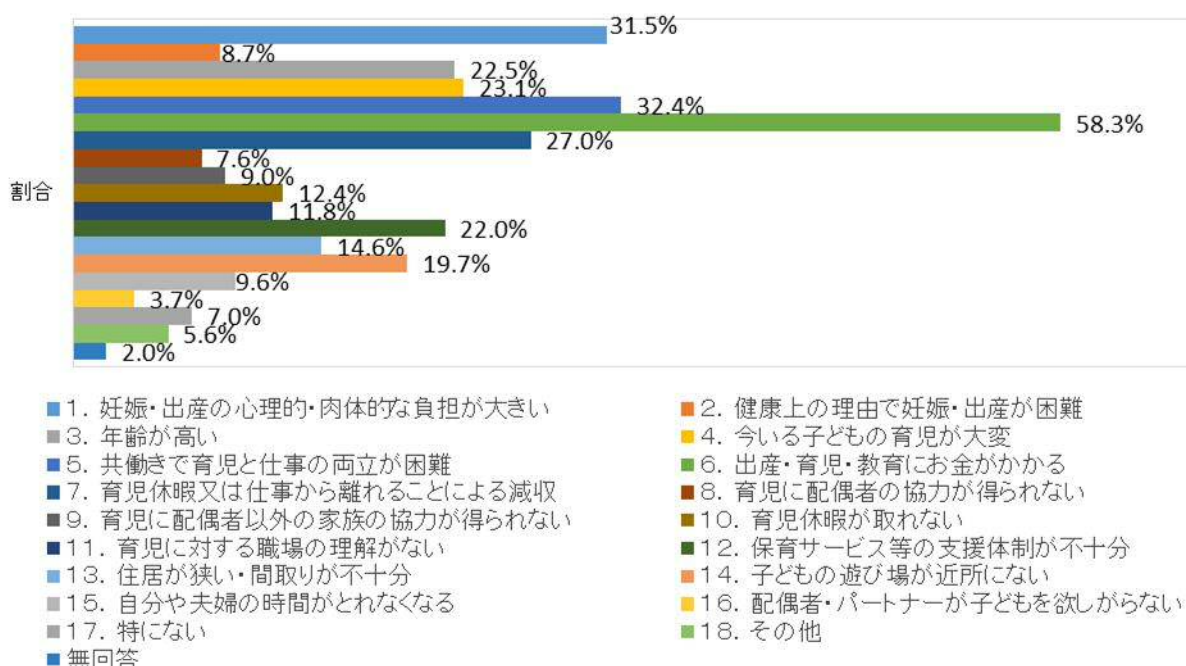


問 27 【お子さんがいる方へ】2 人目以降のお子さんについてお伺いします。2 人以上のお子さんがある方は、出産前に支障だと感じていたこと、お子さんが 1 人の方は、2 人目以降の出産について支障になると想定されることはどのようなことですか。（あてはまるものすべてに○）

「出産・育児・教育にお金がかかる」が最も多く 58.3%と半数以上となっており、次いで「共働きで育児と仕事の両立が困難」が 32.4%となっています。

	人数	割合
1. 妊娠・出産の心理的・肉体的な負担が大きい	112	31.5%
2. 健康上の理由で妊娠・出産が困難	31	8.7%
3. 年齢が高い	80	22.5%
4. 今いる子どもの育児が大変	82	23.1%
5. 共働きで育児と仕事の両立が困難	115	32.4%
6. 出産・育児・教育にお金がかかる	207	58.3%
7. 育児休暇又は仕事から離れることによる減収	96	27.0%
8. 育児に配偶者の協力が得られない	27	7.6%
9. 育児に配偶者以外の家族の協力が得られない	32	9.0%
10. 育児休暇が取れない	44	12.4%
11. 育児に対する職場の理解がない	42	11.8%
12. 保育サービス等の支援体制が不十分	78	22.0%
13. 住居が狭い・間取りが不十分	52	14.6%
14. 子どもの遊び場が近所がない	70	19.7%
15. 自分や夫婦の時間がとれなくなる	34	9.6%
16. 配偶者・パートナーが子どもを欲しがらない	13	3.7%
17. 特になし	25	7.0%
18. その他	20	5.6%
無回答	7	2.0%
合計	1167	

2人目以降のお子さんの出産に関する支障



問 28 【第3子がいる方へ】3人以上のお子さんをお持ちの方にお伺いします。第3子をお持ちになった年齢をお聞かせください。

第3子をお持ちになった年齢では「30歳代」が最も多く66.4%と半数以上となっています。

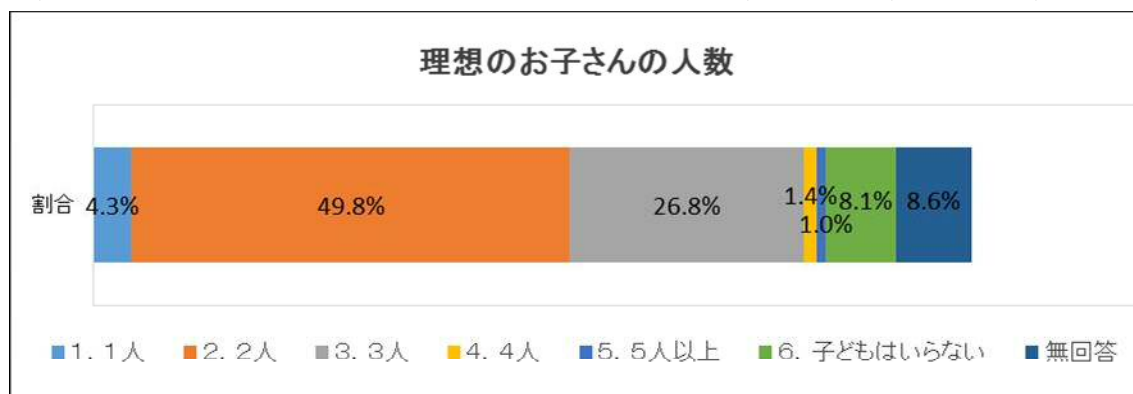
	人数	割合
1. 20歳未満	0	0.0%
2. 20歳～25歳未満	3	2.7%
3. 25歳～30歳未満	30	26.5%
4. 30歳代	75	66.4%
5. 40歳以上	5	4.4%
合計	113	100.0%



問 29 【お子さんがいない方へ】あなたにとって理想のお子さんは何人ですか。(1つに○)

最も多いのは「2人」で49.8%となっており、次いで「3人」が26.8%となっています。

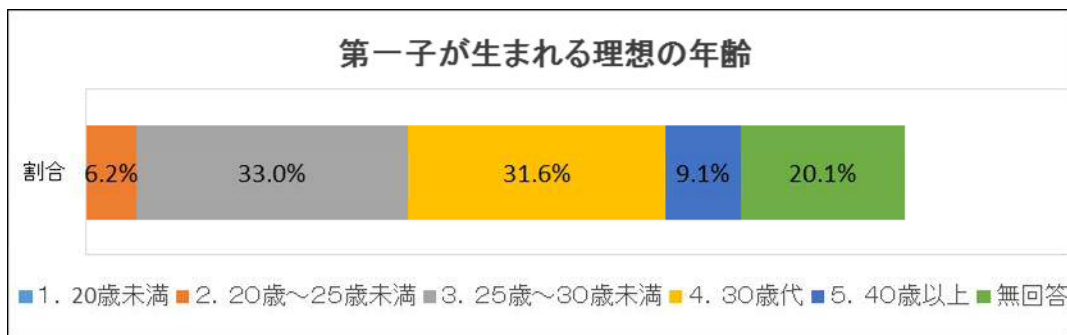
	人数	割合
1. 1人	9	4.3%
2. 2人	104	49.8%
3. 3人	56	26.8%
4. 4人	3	1.4%
5. 5人以上	2	1.0%
6. 子どもはいない	17	8.1%
無回答	18	8.6%
合計	209	100.0%



問 30 【お子さんがいない方へ】子どもを持つとしたら、第一子が生まれるときの理想の年齢は何歳ぐらいですか。（1つに〇）

最も多いのは「25歳～30歳未満」で33.0%となっており、次いで「30歳代」が31.6%となっています。

	人数	割合
1. 20歳未満	0	0.0%
2. 20歳～25歳未満	13	6.2%
3. 25歳～30歳未満	69	33.0%
4. 30歳代	66	31.6%
5. 40歳以上	19	9.1%
無回答	42	20.1%
合計	209	100.0%

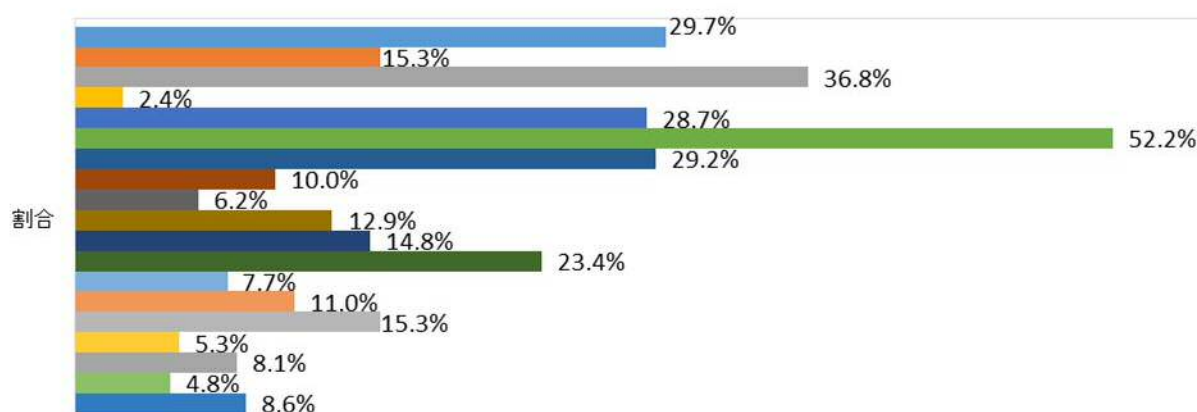


問 31 【お子さんがいない方へ】子どもを産み育てることに、支障になりそうだと感じることはどのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

「出産・育児・教育にお金がかかる」が 52.2%と最も多く、次いで「年齢が高い」が 36.8%となっています。

	人数	割合
1. 妊娠・出産の心理的・肉体的な負担が大きい	62	29.7%
2. 健康上の理由で妊娠・出産が困難	32	15.3%
3. 年齢が高い	77	36.8%
4. 今いる子どもの育児が大変	5	2.4%
5. 共働きで育児と仕事の両立が困難	60	28.7%
6. 出産・育児・教育にお金がかかる	109	52.2%
7. 育児休暇又は仕事から離れることによる減収	61	29.2%
8. 育児に配偶者の協力が得られない	21	10.0%
9. 育児に配偶者以外の家族の協力が得られない	13	6.2%
10. 育児休暇が取れない	27	12.9%
11. 育児に対する職場の理解がない	31	14.8%
12. 保育サービス等の支援体制が不十分	49	23.4%
13. 住居が狭い・間取りが不十分	16	7.7%
14. 子どもの遊び場が近所がない	23	11.0%
15. 自分や夫婦の時間がとれなくなる	32	15.3%
16. 配偶者・パートナーが子どもを欲しがらない	11	5.3%
17. 特にない	17	8.1%
18. わからない	10	4.8%
無回答	18	8.6%
合計	674	

子どもを産み育てるための支障となること

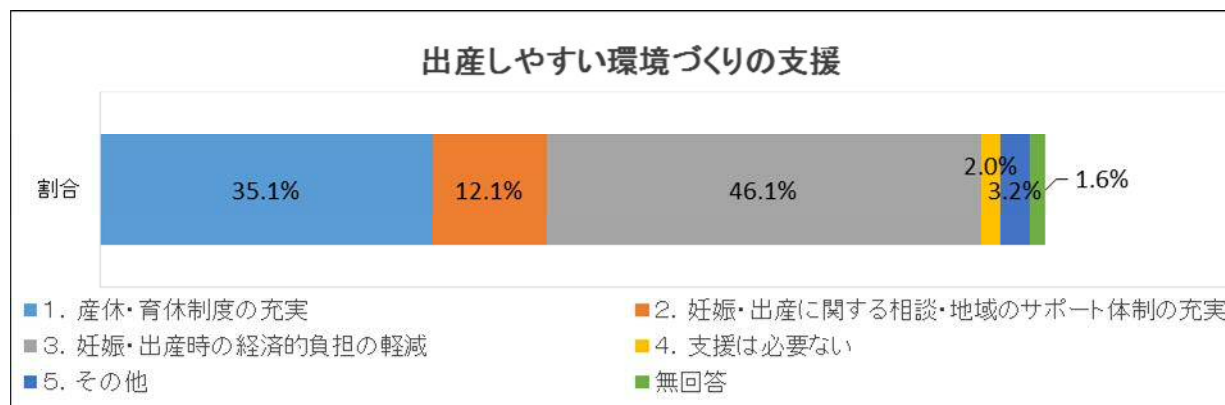


- 1. 妊娠・出産の心理的・肉体的な負担が大きい
- 2. 健康上の理由で妊娠・出産が困難
- 3. 年齢が高い
- 4. 今いる子どもの育児が大変
- 5. 共働きで育児と仕事の両立が困難
- 6. 出産・育児・教育にお金がかかる
- 7. 育児休暇又は仕事から離れることによる減収
- 8. 育児に配偶者の協力が得られない
- 9. 育児に配偶者以外の家族の協力が得られない
- 10. 育児休暇が取れない
- 11. 育児に対する職場の理解がない
- 12. 保育サービス等の支援体制が不十分
- 13. 住居が狭い・間取りが不十分
- 14. 子どもの遊び場が近所がない
- 15. 自分や夫婦の時間がとれなくなる
- 16. 配偶者・パートナーが子どもを欲しがらない
- 17. 特にない
- 18. わからない
- 無回答

問32 出産しやすい環境づくりについて、どのような支援があればよいと思いますか。
 (1つに〇)

「妊娠・出産時の経済的負担の軽減」が46.1%と最も多く、次いで「産休・育休制度の充実」が35.1%となっています。

	人数	割合
1. 産休・育休制度の充実	198	35.1%
2. 妊娠・出産に関する相談・地域のサポート体制の充実	68	12.1%
3. 妊娠・出産時の経済的負担の軽減	260	46.1%
4. 支援は必要ない	11	2.0%
5. その他	18	3.2%
無回答	9	1.6%
合計	564	100.0%

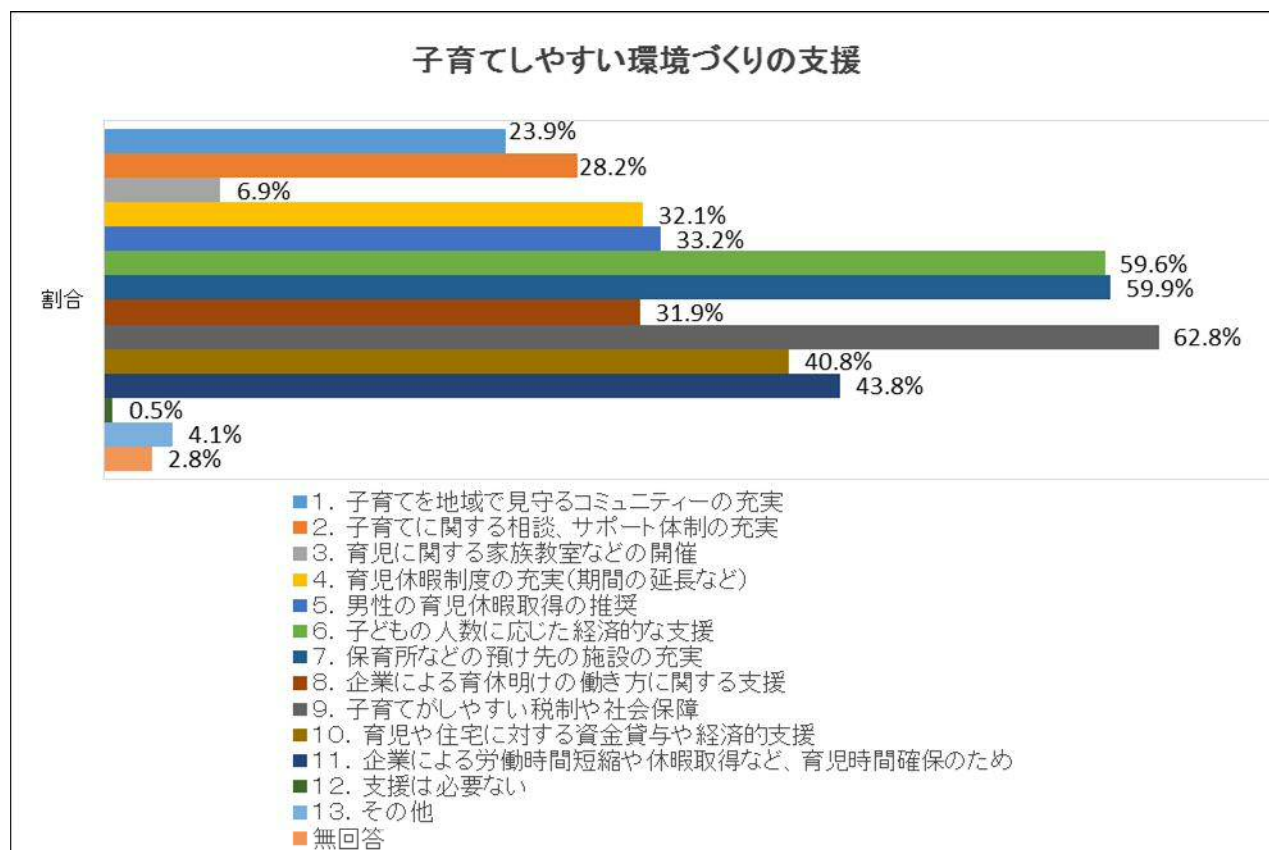


問 33 子育てしやすい環境づくりについて、どのような支援があればよいと思いますか。

(あてはまるもの全てに○)

「子育てがしやすい税制や社会保障」が 62.8%と最も多く、次いで「子どもの人数に応じた経済的な支援」「保育所などの預け先の施設の充実」が 59.6%となっています。

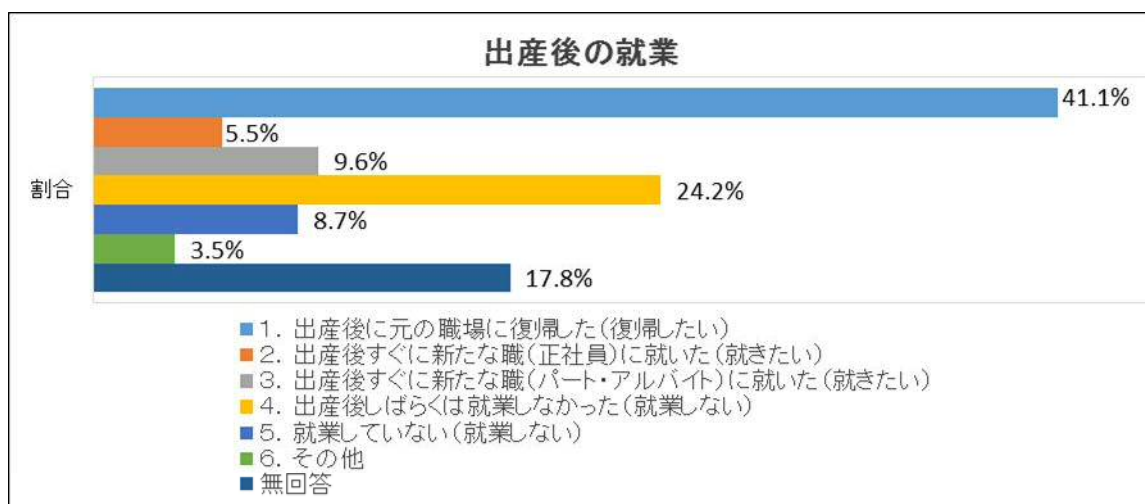
	人数	割合
1. 子育てを地域で見守るコミュニティの充実	135	23.9%
2. 子育てに関する相談、サポート体制の充実	159	28.2%
3. 育児に関する家族教室などの開催	39	6.9%
4. 育児休暇制度の充実(期間の延長など)	181	32.1%
5. 男性の育児休暇取得の推奨	187	33.2%
6. 子どもの人数に応じた経済的な支援	336	59.6%
7. 保育所などの預け先の施設の充実	338	59.9%
8. 企業による育休明けの働き方に関する支援	180	31.9%
9. 子育てがしやすい税制や社会保障	354	62.8%
10. 育児や住宅に対する資金貸与や経済的支援	230	40.8%
11. 企業による労働時間短縮や休暇取得など、育児時間確保のため	247	43.8%
12. 支援は必要ない	3	0.5%
13. その他	23	4.1%
無回答	16	2.8%
合計	2428	



問 34 【女性の方へ】 出産後の就業について、ご自身の経験や希望に近いものをお選び下さい。(あてはまるもの全てに○) ※出産された女性はご自身の経験を、出産されていない女性は今後の希望をお答え下さい。

「出産後に元の職場に復帰した(復帰したい)」が41.1%と最も多く、次いで「出産後しばらくは就業しなかった(就業しない)」が24.2%となっています。

	人数	割合
1. 出産後に元の職場に復帰した(復帰したい)	141	41.1%
2. 出産後すぐに新たな職(正社員)に就いた(就きたい)	19	5.5%
3. 出産後すぐに新たな職(パート・アルバイト)に就いた(就きたい)	33	9.6%
4. 出産後しばらくは就業しなかった(就業しない)	83	24.2%
5. 就業していない(就業しない)	30	8.7%
6. その他	12	3.5%
無回答	61	17.8%
合計	379	



一関市人口ビジョンの策定に係る
「転入に関するアンケート調査」
結果報告書

1. 調査の目的

一関市への転入者に対してアンケート調査を実施し、転入理由や経緯などについて把握し、今後の施策等の検討に活用する。

2. 調査概要

(1) 調査対象

平成 26 年 1～12 月の転入者から 16 歳以上の市民 1,000 名を無作為抽出した。

(2) 調査内容

(1) ～ (8)	代表者（世帯主）について
(10) ～ (18)	一関市から転入された経緯

(3) 調査方法

調査票を郵送により配布、回収する。

(4) 調査実施期間

平成 27 年 7 月 17 日（金）～平成 27 年 7 月 31 日（金）

3. 回収結果

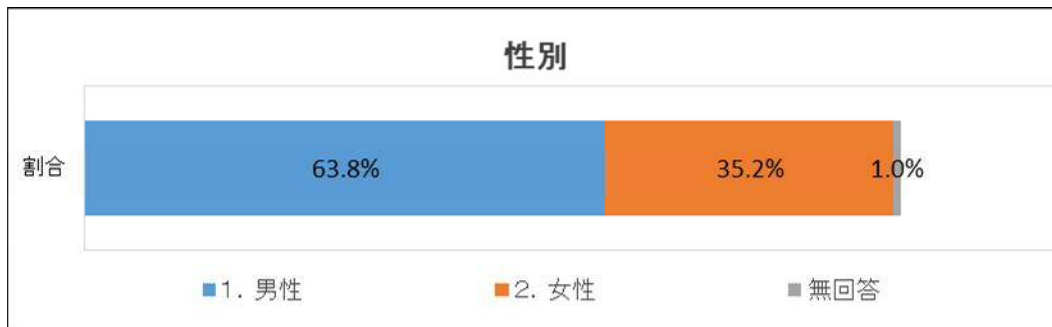
	計
配布数	790 票
回収数	210 票
回収率	26.6%

4 調査結果

(1) 転入された方のうち代表者の性別

「男性」が63.8%と半数以上を占めており、「女性」が35.2%となっています。

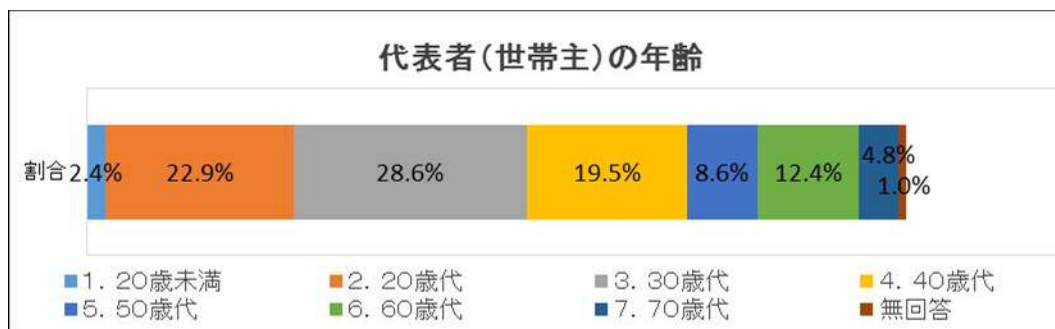
	人数	割合
1. 男性	134	63.8%
2. 女性	74	35.2%
無回答	2	1.0%
合計	210	100.0%



(2) 転入された方のうち代表者の年齢（1つに○印）

最も多いのは「30歳代」で28.6%を占めており、次いで「20歳代」が22.9%となっています。

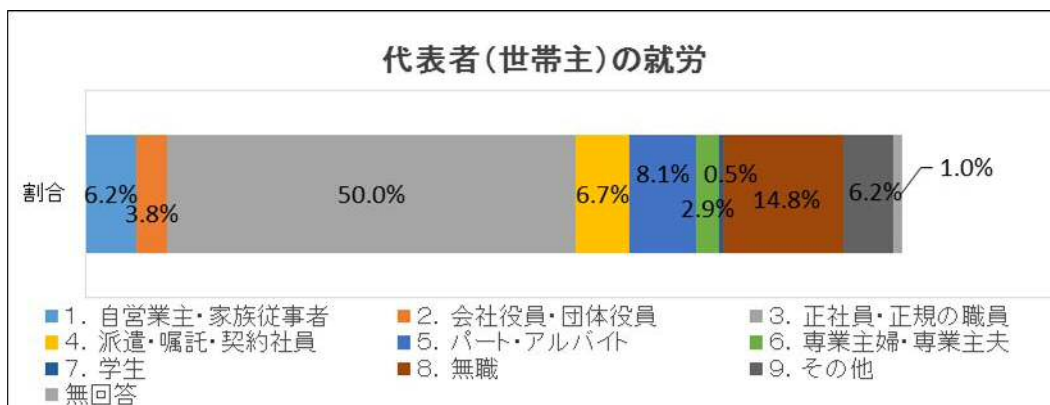
	人数	割合
1. 20歳未満	5	2.4%
2. 20歳代	48	22.9%
3. 30歳代	60	28.6%
4. 40歳代	41	19.5%
5. 50歳代	18	8.6%
6. 60歳代	26	12.4%
7. 70歳代	10	4.8%
無回答	2	1.0%
合計	210	100.0%



(3) 転入された方のうち代表者の職業（1つに○印）

「正社員・正規の職員」が最も多く 50.0%と全体の半数を占めており、次いで「無職」が 14.8%となっています。

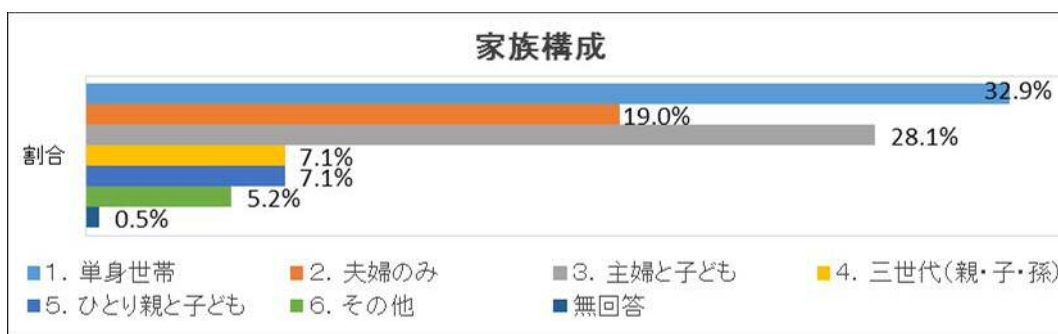
	人数	割合
1. 自営業主・家族従事者	13	6.2%
2. 会社役員・団体役員	8	3.8%
3. 正社員・正規の職員	105	50.0%
4. 派遣・嘱託・契約社員	14	6.7%
5. パート・アルバイト	17	8.1%
6. 専業主婦・専業主夫	6	2.9%
7. 学生	1	0.5%
8. 無職	31	14.8%
9. その他	13	6.2%
無回答	2	1.0%
合計	210	100.0%



(4) 転入された家族の構成 (1つに○印)

「単身世帯」が最も多く 32.9%を占めており、次いで「主婦と子ども」が 28.1%となっています。

	人数	割合
1. 単身世帯	69	32.9%
2. 夫婦のみ	40	19.0%
3. 主婦と子ども	59	28.1%
4. 三世代(親・子・孫)	15	7.1%
5. ひとり親と子ども	15	7.1%
6. その他	11	5.2%
無回答	1	0.5%
合計	210	100.0%



(5) 転入された人数 (世帯人数) をご記入ください。

世帯人数は「1人」が最も多く 44.8%を占めており、次いで「2人」が 18.6%となっています。

	人数	割合
1人	94	44.8%
2人	39	18.6%
3人	31	14.8%
4人	22	10.5%
5人	9	4.3%
6人以上	5	2.4%
無回答	10	4.8%
合計	210	100.0%

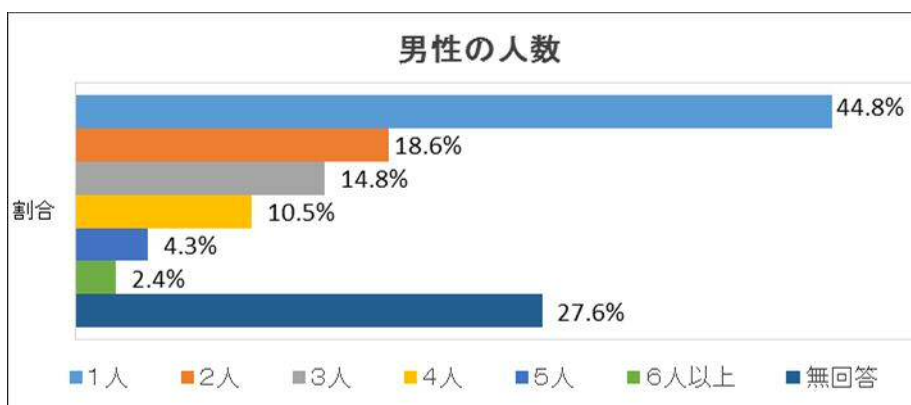


(5) 2 男女の人数

男性の人数は「1人」が最も多く44.8%を占めており、次いで「2人」が18.6%となっています。女性の人数は「1人」が最も多く49.0%を占めており、次いで「2人」が16.2%となっています。

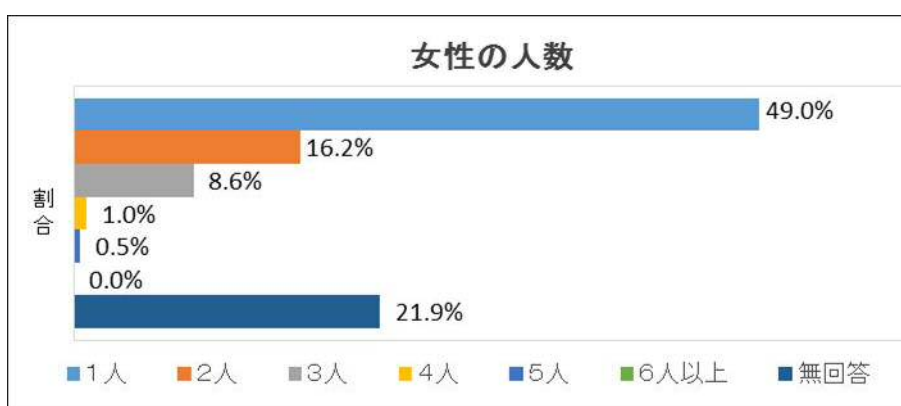
男性

	人数	割合
1人	94	44.8%
2人	39	18.6%
3人	31	14.8%
4人	22	10.5%
5人	9	4.3%
6人以上	5	2.4%
無回答	58	27.6%
合計	258	



女性

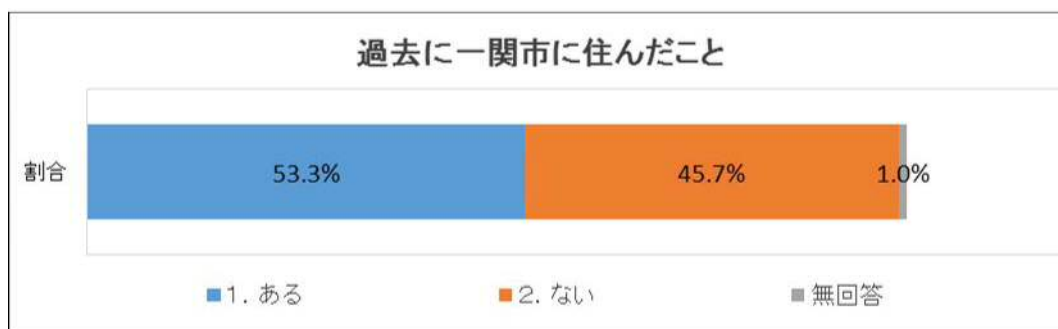
	人数	割合
1人	103	49.0%
2人	34	16.2%
3人	18	8.6%
4人	2	1.0%
5人	1	0.5%
6人以上	0	0.0%
無回答	46	21.9%
合計	204	



(6) 過去に一関市に住んだことがあるか、お答えください。

一関市に住んだことが「ある」人は、53.3%、住んだことが「ない」人は45.7%となっています。

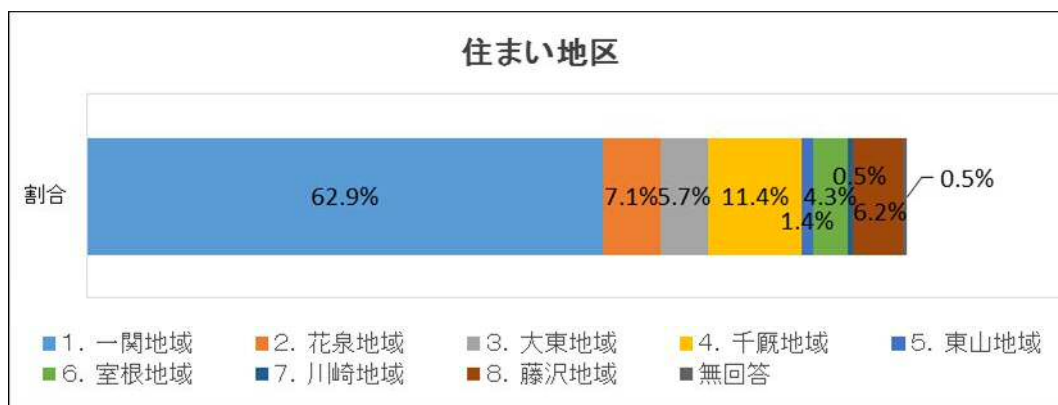
	人数	割合
1. ある	112	53.3%
2. ない	96	45.7%
無回答	2	1.0%
合計	210	100.0%



(7) 現在のお住まいの「地域」についてお答えください。(1つに○印)

住まい地区としては「一関地域」が62.9%と半数以上を占めており、次いで「千厩地域」が11.4%となっています。

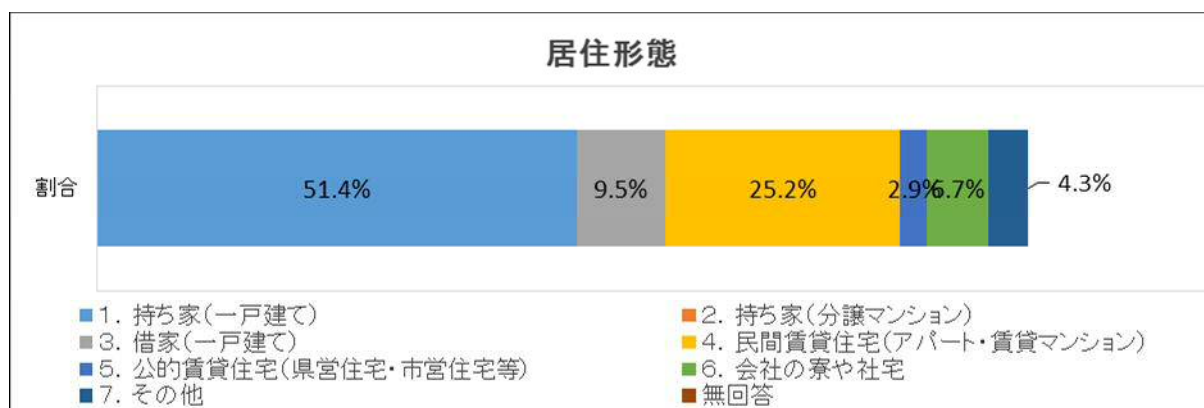
	人数	割合
1. 一関地域	132	62.9%
2. 花泉地域	15	7.1%
3. 大東地域	12	5.7%
4. 千厩地域	24	11.4%
5. 東山地域	3	1.4%
6. 室根地域	9	4.3%
7. 川崎地域	1	0.5%
8. 藤沢地域	13	6.2%
無回答	1	0.5%
合計	210	100.0%



(7) 2 現在のお住まいの「居住形態」についてお答えください。(1つに○印)

最も多いのは「持ち家(一戸建て)」で51.4%と半数以上を占めており、次いで「民間賃貸住宅(アパート・賃貸マンション)」が25.2%となっています。

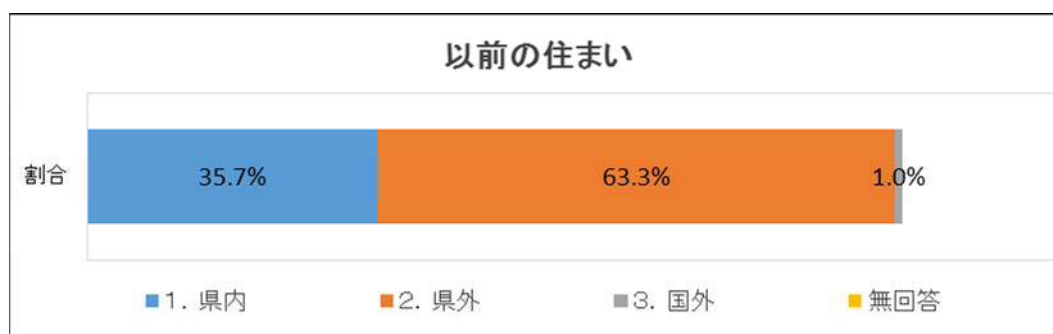
	人数	割合
1. 持ち家(一戸建て)	108	51.4%
2. 持ち家(分譲マンション)	0	0.0%
3. 借家(一戸建て)	20	9.5%
4. 民間賃貸住宅(アパート・賃貸マンション)	53	25.2%
5. 公的賃貸住宅(県営住宅・市営住宅等)	6	2.9%
6. 会社の寮や社宅	14	6.7%
7. その他	9	4.3%
無回答	0	0.0%
合計	210	100.0%



(8) 転入前の「ご住所」についてお答えください。

「県外」が63.3%と半数以上を占めており、次いで「県内」が35.7%となっています。

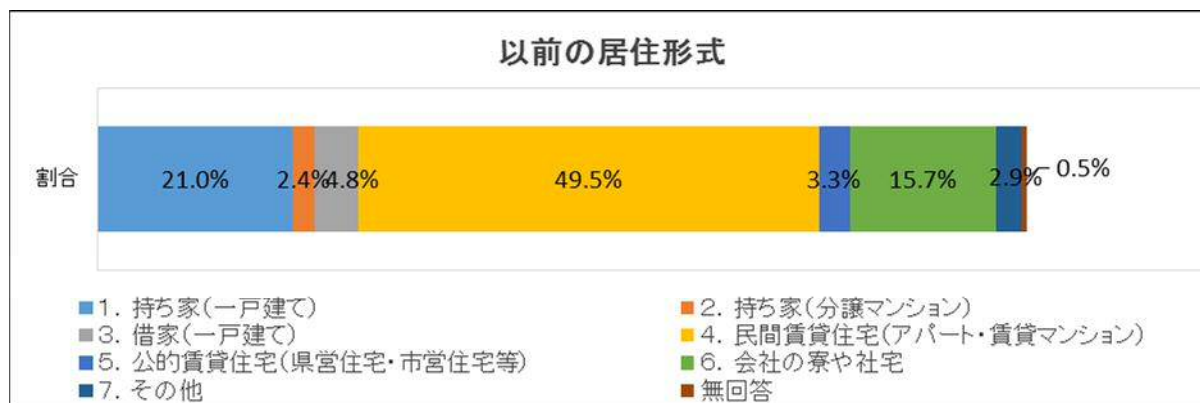
	人数	割合
1. 県内	75	35.7%
2. 県外	133	63.3%
3. 国外	2	1.0%
無回答	0	0.0%
合計	210	100.0%



(8) 2 転入前の「居住形態」についてお答えください。

最も多いのは「民間賃貸住宅(アパート・賃貸マンション)」で49.5%となっており、次いで「持ち家(一戸建て)」が21.0%となっています。

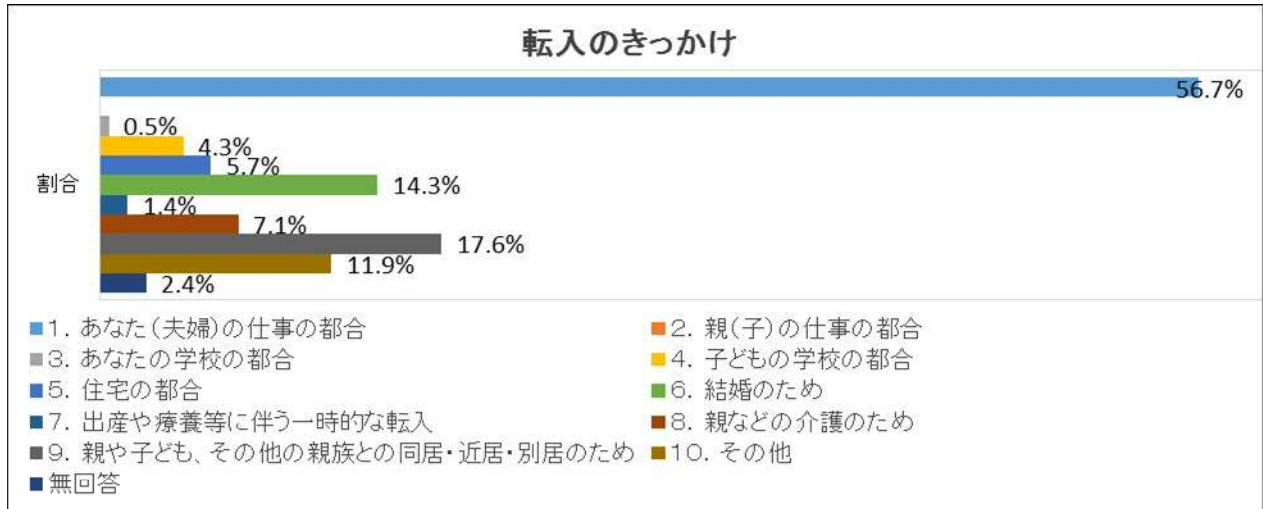
	人数	割合
1. 持ち家(一戸建て)	44	21.0%
2. 持ち家(分譲マンション)	5	2.4%
3. 借家(一戸建て)	10	4.8%
4. 民間賃貸住宅(アパート・賃貸マンション)	104	49.5%
5. 公的賃貸住宅(県営住宅・市営住宅等)	7	3.3%
6. 会社の寮や社宅	33	15.7%
7. その他	6	2.9%
無回答	1	0.5%
合計	210	100.0%



(9) 一関市に転入されたきっかけは何ですか。(あてはまるもの3つまで)

「あなた(夫婦)の仕事の都合」が最も多く56.7%と半数以上を占めており、次いで「親や子ども、その他の親族との同居・近居・別居のため」が17.6%となっています。

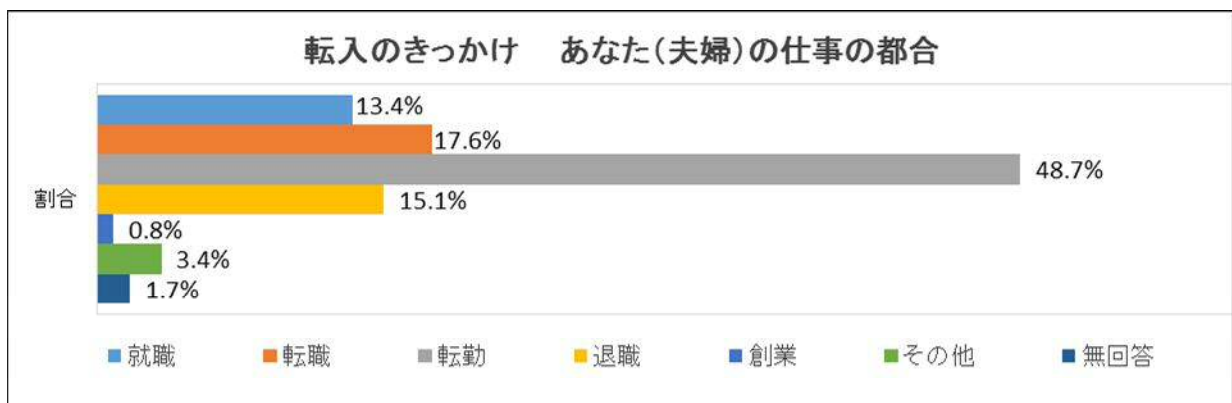
	人数	割合
1. あなた(夫婦)の仕事の都合	119	56.7%
2. 親(子)の仕事の都合	0	0.0%
3. あなたの学校の都合	1	0.5%
4. 子どもの学校の都合	9	4.3%
5. 住宅の都合	12	5.7%
6. 結婚のため	30	14.3%
7. 出産や療養等に伴う一時的な転入	3	1.4%
8. 親などの介護のため	15	7.1%
9. 親や子ども、その他の親族との同居・近居・別居のため	37	17.6%
10. その他	25	11.9%
無回答	5	2.4%
合計	256	



(9) 2 【「1. あなた(夫婦)の仕事の都合」を回答した方へ】—関市に転入されたきっかけは何ですか。

最も多いのは「転勤」で 48.7%となっており、次いで「転職」が 17.6%となっています。

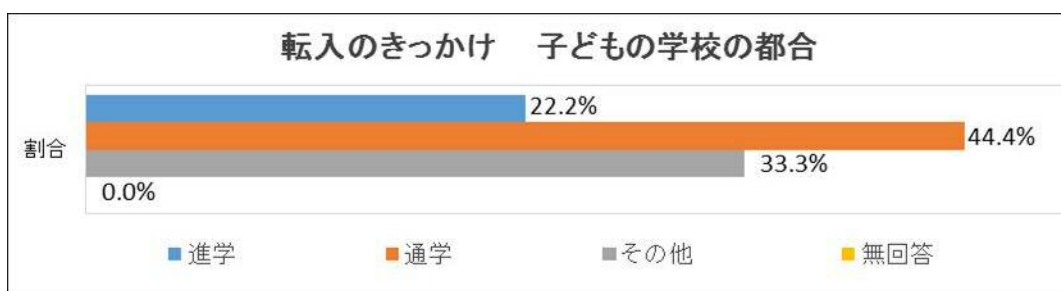
	人数	割合
就職	16	13.4%
転職	21	17.6%
転勤	58	48.7%
退職	18	15.1%
創業	1	0.8%
その他	4	3.4%
無回答	2	1.7%
合計	120	



(9) 5【「4. 子どもの学校の都合」を回答した方へ】一関市に転入されたきっかけは何ですか。

「通学」が最も多く 44.4%を占めており、また「その他」が 33.3%、「進学」が 22.2%の順に多くなっています。

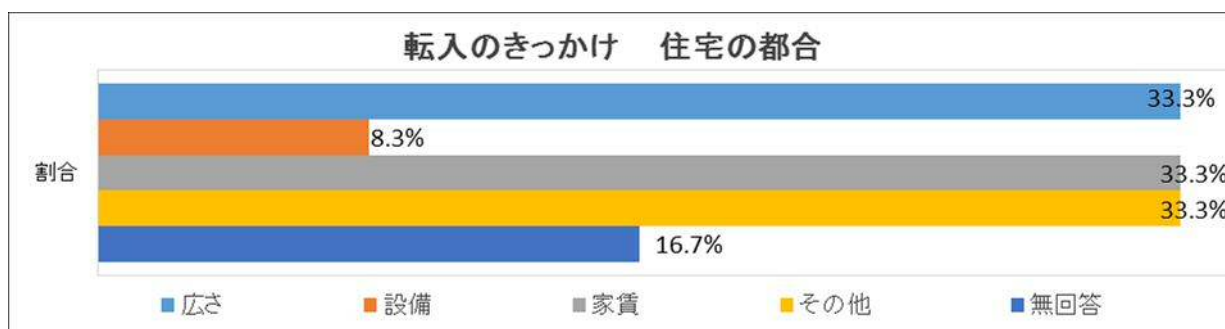
	人数	割合
進学	2	22.2%
通学	4	44.4%
その他	3	33.3%
無回答	0	0.0%
合計	9	100.0%



(9) 6【「5. 住宅の都合」を回答した方へ】一関市に転入されたきっかけは何ですか。

「広さ」「家賃」「その他」が 33.3%となっており、「設備」が 8.3%となっています。

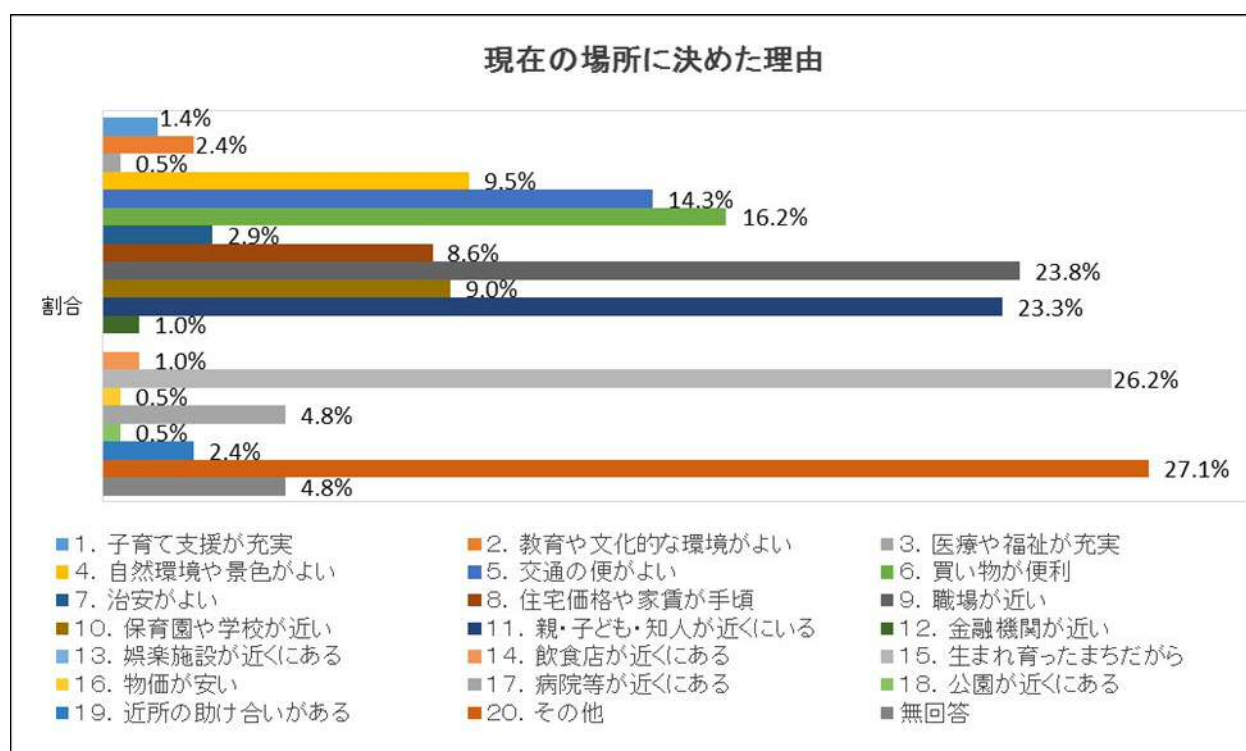
	人数	割合
広さ	4	33.3%
設備	1	8.3%
家賃	4	33.3%
その他	4	33.3%
無回答	2	16.7%
合計	15	



(10) 現在の場所に決められた理由は何ですか。(あてはまるもの5つまで)

「生まれ育ったまちだから」が26.2%、「職場が近い」が23.8%、「親・子ども・知人が近くにいる」が23.3%となっています。

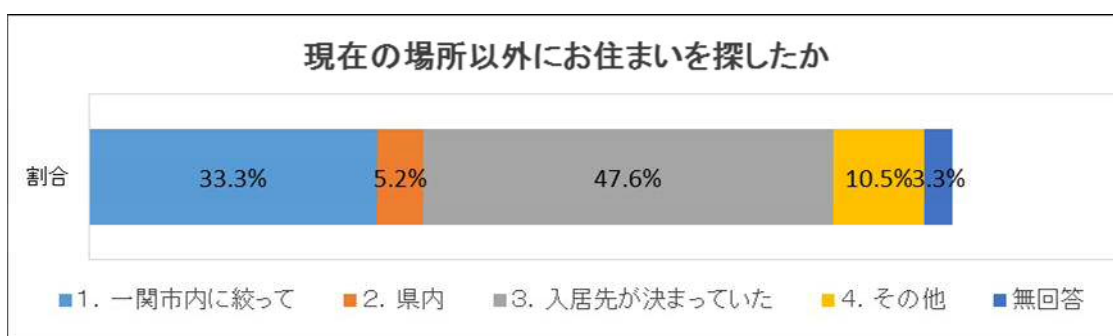
	人数	割合
1. 子育て支援が充実	3	1.4%
2. 教育や文化的な環境がよい	5	2.4%
3. 医療や福祉が充実	1	0.5%
4. 自然環境や景色がよい	20	9.5%
5. 交通の便がよい	30	14.3%
6. 買い物が便利	34	16.2%
7. 治安がよい	6	2.9%
8. 住宅価格や家賃が手頃	18	8.6%
9. 職場が近い	50	23.8%
10. 保育園や学校が近い	19	9.0%
11. 親・子ども・知人が近くにいる	49	23.3%
12. 金融機関が近い	2	1.0%
13. 娯楽施設が近くにある	0	0.0%
14. 飲食店が近くにある	2	1.0%
15. 生まれ育ったまちだから	55	26.2%
16. 物価が安い	1	0.5%
17. 病院等が近くにある	10	4.8%
18. 公園が近くにある	1	0.5%
19. 近所の助け合いがある	5	2.4%
20. その他	57	27.1%
無回答	10	4.8%
合計	378	



(11) 現在の場所以外にお住まいを探しましたか。(1つに○印)

「入居先が決まっていた」が47.6%と最も多く、次いで「一関市内に絞って」が33.3%となっています。

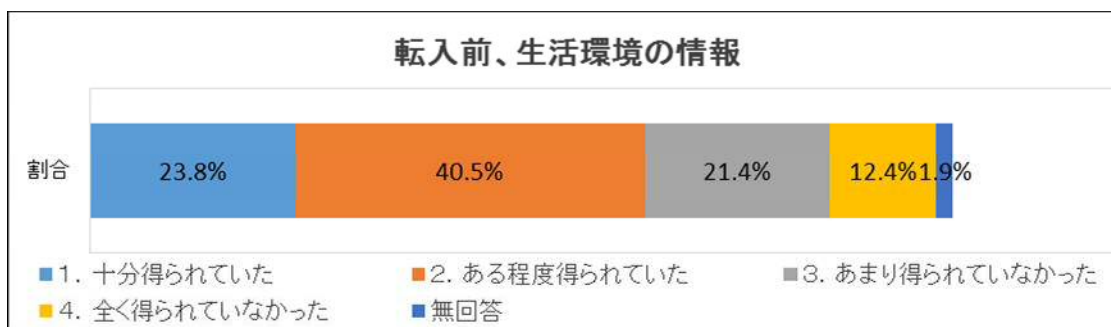
	人数	割合
1. 一関市内に絞って	70	33.3%
2. 県内	11	5.2%
3. 入居先が決まっていた	100	47.6%
4. その他	22	10.5%
無回答	7	3.3%
合計	210	100.0%



(12) 転入前、一関市の生活環境（市内の交通の便や買い物施設、医療施設、文化施設や公園など）について、十分な情報を得られていましたか。(1つに○印)

「ある程度得られていた」が40.5%を占めており、その他「十分得られていた」が23.8%、「あまり得られていなかった」が21.4%となっています。

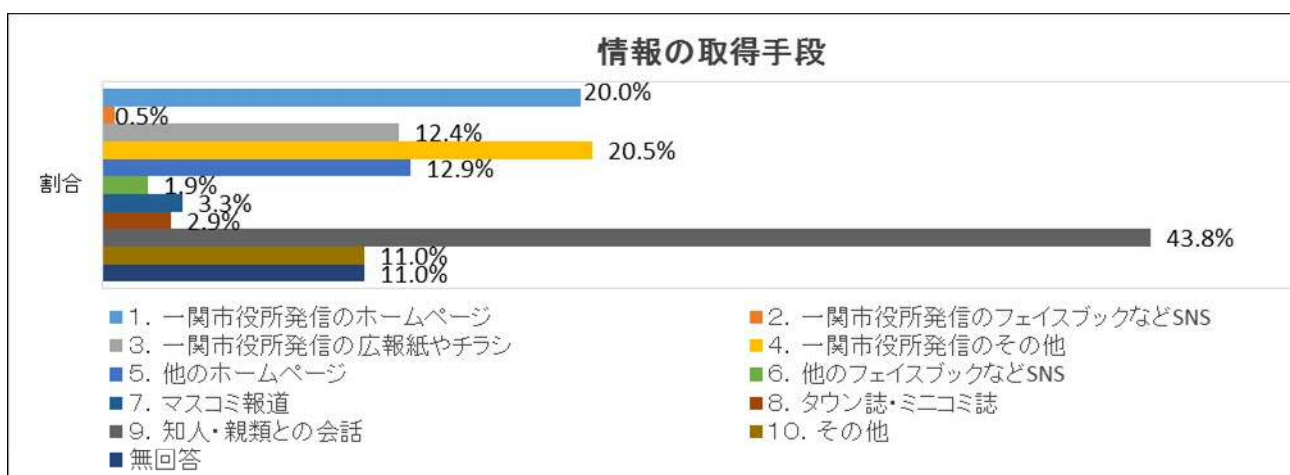
	人数	割合
1. 十分得られていた	50	23.8%
2. ある程度得られていた	85	40.5%
3. あまり得られていなかった	45	21.4%
4. 全く得られていなかった	26	12.4%
無回答	4	1.9%
合計	210	100.0%



(13) 転入前、(12)でお聞きした一関市の生活環境に関する情報は、主にどのような手段で得ていましたか。(1つに○印)

「知人・親類との会話」が最も多く 43.8%で、次いで「一関市役所発信のその他」が 20.5%となっています。

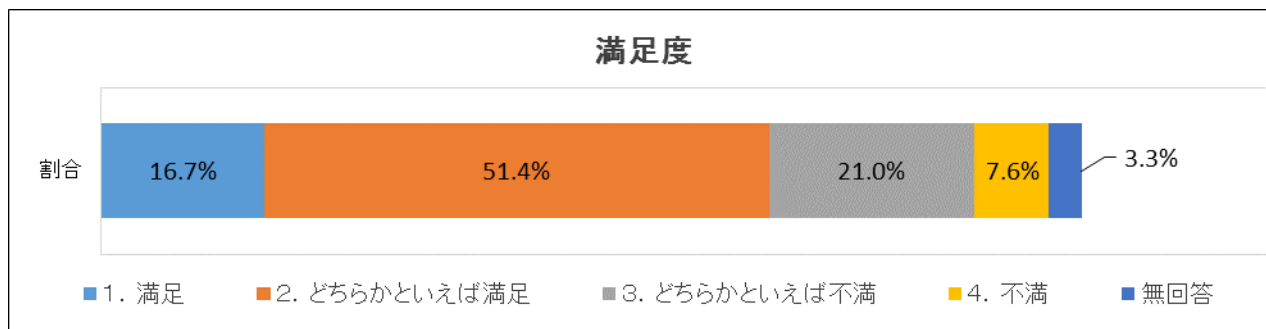
	人数	割合
1. 一関市役所発信のホームページ	42	20.0%
2. 一関市役所発信のフェイスブックなどSNS	1	0.5%
3. 一関市役所発信の広報紙やチラシ	26	12.4%
4. 一関市役所発信のその他	43	20.5%
5. 他のホームページ	27	12.9%
6. 他のフェイスブックなどSNS	4	1.9%
7. マスコミ報道	7	3.3%
8. タウン誌・ミニコミ誌	6	2.9%
9. 知人・親類との会話	92	43.8%
10. その他	23	11.0%
無回答	23	11.0%
合計	294	



(14) 一関市にお住まいになって、満足されていますか。(あてはまる番号すべてに○印)

「どちらかといえば満足」が 51.4%と半数以上になっており、次いで「どちらかといえば不満」が 21.0%となっています。

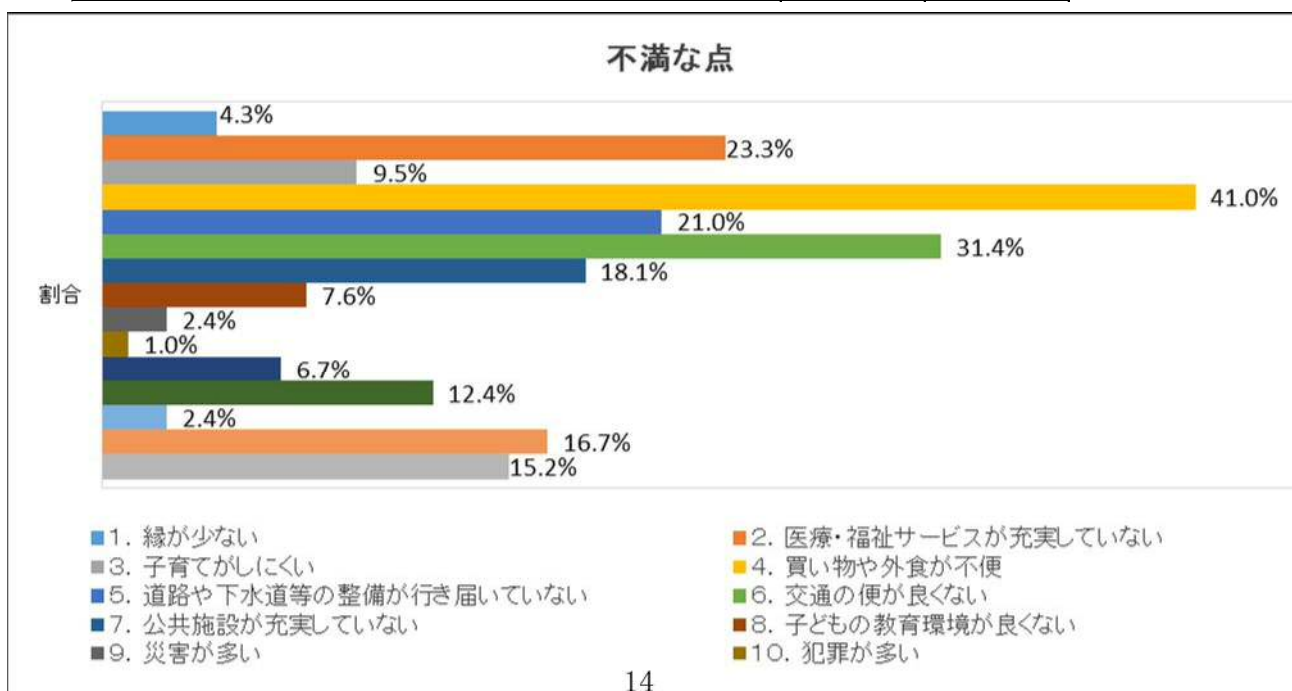
	人数	割合
1. 満足	35	16.7%
2. どちらかといえば満足	108	51.4%
3. どちらかといえば不満	44	21.0%
4. 不満	16	7.6%
無回答	7	3.3%
合計	210	100.0%



(15) 一関市にお住まいになって、不満な点についてお聞かせください。(あてはまる番号すべてに○印)

「買い物や外食が不便」が最も多く 41.0%となっており、次いで「交通の便が良くない」が31.4%となっています。

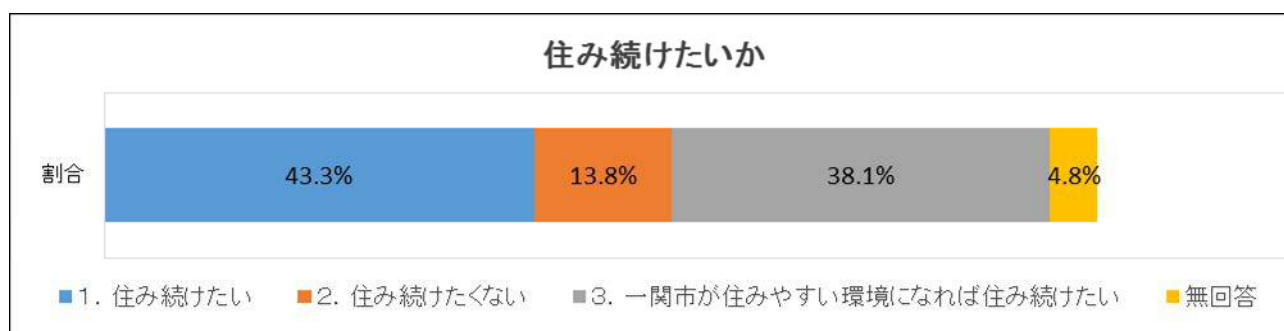
	人数	割合
1. 縁が少ない	9	4.3%
2. 医療・福祉サービスが充実していない	49	23.3%
3. 子育てがしにくい	20	9.5%
4. 買い物や外食が不便	86	41.0%
5. 道路や下水道等の整備が行き届いていない	44	21.0%
6. 交通の便が良くない	66	31.4%
7. 公共施設が充実していない	38	18.1%
8. 子どもの教育環境が良くない	16	7.6%
9. 災害が多い	5	2.4%
10. 犯罪が多い	2	1.0%
11. 地域内での人間関係が良くない	14	6.7%
12. 住宅の購入・賃貸にかかる費用が高い	26	12.4%
13. 騒々しく落ち着きがない	5	2.4%
14. その他	35	16.7%
無回答	32	15.2%
合計	447	



(16) 今後も一関市に住みたいと思われませんか。(1つに○印)

「住みたい」が最も多く 43.3%を占めており、次いで「一関市が住みやすい環境になれば住みたい」が 38.1%となっています。

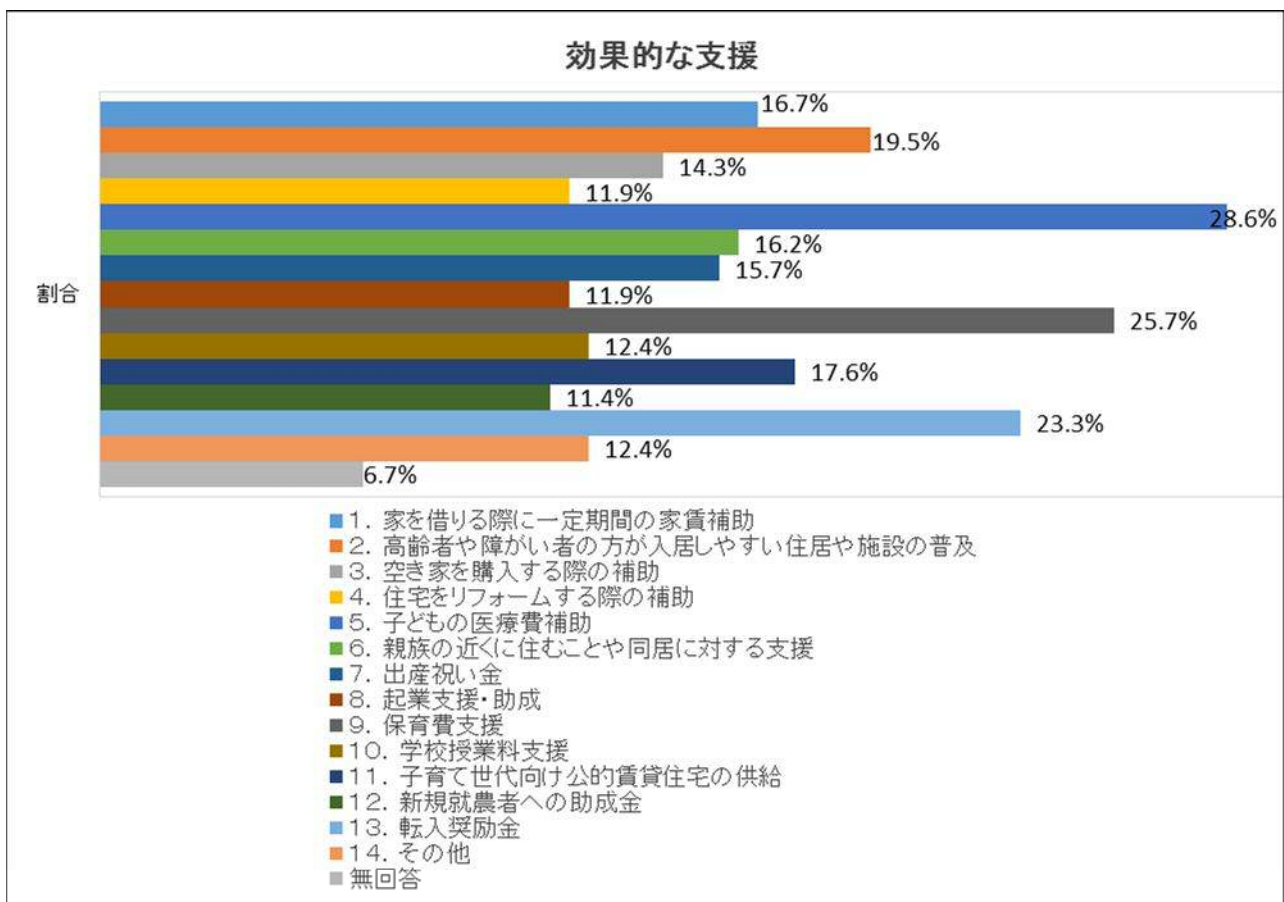
	人数	割合
1. 住みたい	91	43.3%
2. 住みたくない	29	13.8%
3. 一関市が住みやすい環境になれば住みたい	80	38.1%
無回答	10	4.8%
合計	210	100.0%



(17) 一関市への転入を増やすために、市が実施した方が良い効果的な支援はどれだと思いますか。(あてはまるもの3つまで)

「子どもの医療費補助」が多く28.6%となっており、次いで「保育費支援」が25.7%となっています。

	人数	割合
1. 家を借りる際に一定期間の家賃補助	35	16.7%
2. 高齢者や障がい者の方が入居しやすい住居や施設の普及	41	19.5%
3. 空き家を購入する際の補助	30	14.3%
4. 住宅をリフォームする際の補助	25	11.9%
5. 子どもの医療費補助	60	28.6%
6. 親族の近くに住むことや同居に対する支援	34	16.2%
7. 出産祝い金	33	15.7%
8. 起業支援・助成	25	11.9%
9. 保育費支援	54	25.7%
10. 学校授業料支援	26	12.4%
11. 子育て世代向け公的賃貸住宅の供給	37	17.6%
12. 新規就農者への助成金	24	11.4%
13. 転入奨励金	49	23.3%
14. その他	26	12.4%
無回答	14	6.7%
合計	513	



一関市人口ビジョンの策定に係る
「転出に関するアンケート調査」
結果報告書

1. 調査の目的

一関市からの転出者に対してアンケート調査を実施し、転出理由や経緯などについて把握し、今後の施策等の検討に活用する。

2. 調査概要

(1) 調査対象

平成 27 年 1 月 1 日以降の転出者から 16 歳以上の元市民 300 名を無作為抽出した。

(2) 調査内容

(1) ~ (7)	代表者（世帯主）について
(8) ~ (14)	一関市から転出された経緯

(3) 調査方法

調査票を郵送により配布、回収する。

(4) 調査実施期間

平成 27 年 7 月 17 日（金）～平成 27 年 7 月 31 日（金）

3. 回収結果

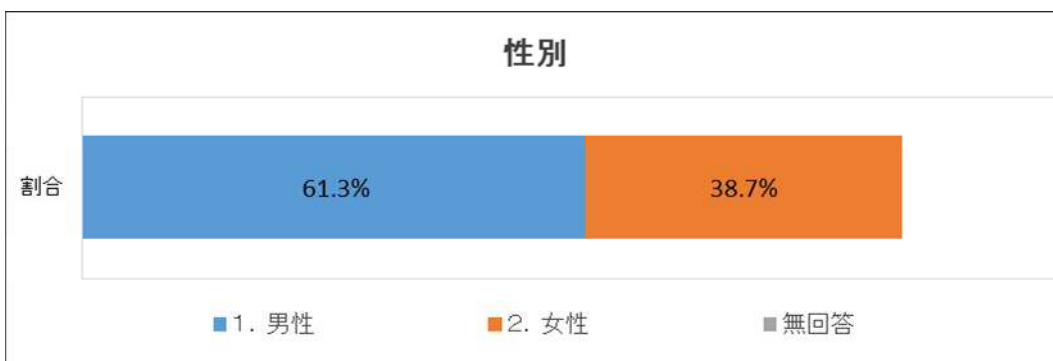
	計
配布数	264 票
回収数	75 票
回収率	28.4%

4 調査結果

(1) 転出された方のうち代表者（世帯主）の性別

「男性」が61.3%、「女性」が38.7%となっています。

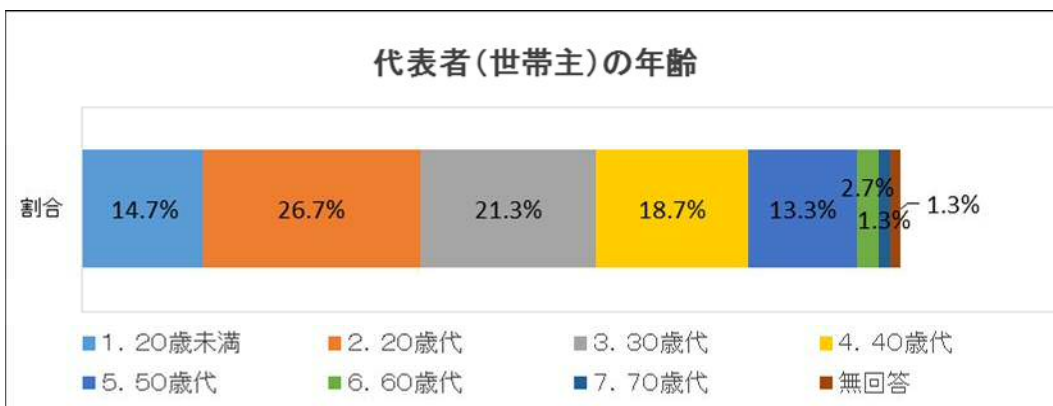
	人数	割合
1. 男性	46	61.3%
2. 女性	29	38.7%
無回答	0	0.0%
合計	75	100.0%



(2) 転出された方のうち代表者（世帯主）の年齢

「20歳代」が26.7%、次いで「30歳代」が21.3%となっています。

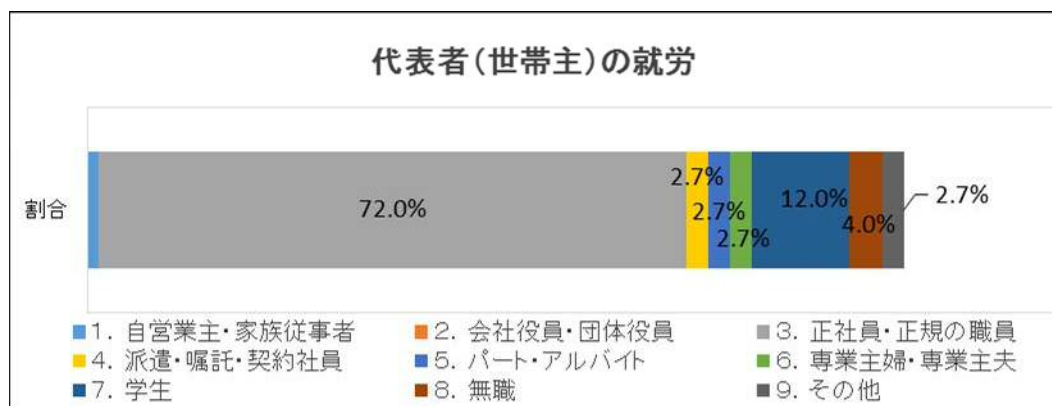
	人数	割合
1. 20歳未満	11	14.7%
2. 20歳代	20	26.7%
3. 30歳代	16	21.3%
4. 40歳代	14	18.7%
5. 50歳代	10	13.3%
6. 60歳代	2	2.7%
7. 70歳代	1	1.3%
無回答	1	1.3%
合計	75	100.0%



(3) 転出された方のうち代表者(世帯主)の就労の状況(1つに○印)

「正社員・正規の職員」が72.0%と最も多く、次いで「学生」が12.0%となっています。

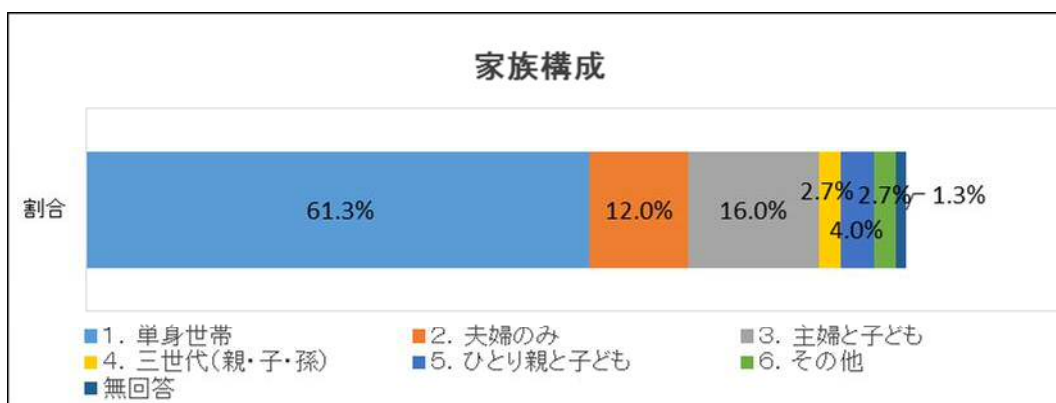
	人数	割合
1. 自営業主・家族従事者	1	1.3%
2. 会社役員・団体役員	0	0.0%
3. 正社員・正規の職員	54	72.0%
4. 派遣・嘱託・契約社員	2	2.7%
5. パート・アルバイト	2	2.7%
6. 専業主婦・専業主夫	2	2.7%
7. 学生	9	12.0%
8. 無職	3	4.0%
9. その他	2	2.7%
無回答	0	0.0%
合計	75	100.0%



(4) 転出された家族の構成

「単身世帯」が61.3%と半数以上を占めており、次いで「主婦と子ども」が16.0%となっています。

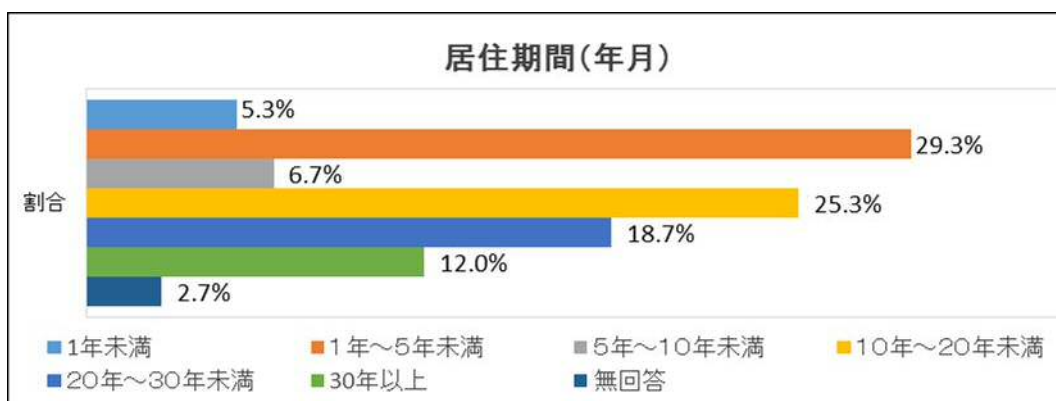
	人数	割合
1. 単身世帯	46	61.3%
2. 夫婦のみ	9	12.0%
3. 主婦と子ども	12	16.0%
4. 三世代(親・子・孫)	2	2.7%
5. ひとり親と子ども	3	4.0%
6. その他	2	2.7%
無回答	1	1.3%
合計	75	100.0%



(5) 一関市におおむね何年、お住まいになりましたか。

「1年～5年未満」が29.3%と全体の3割ほどを占めており、次いで「10年～20年未満」が25.3%となっています。

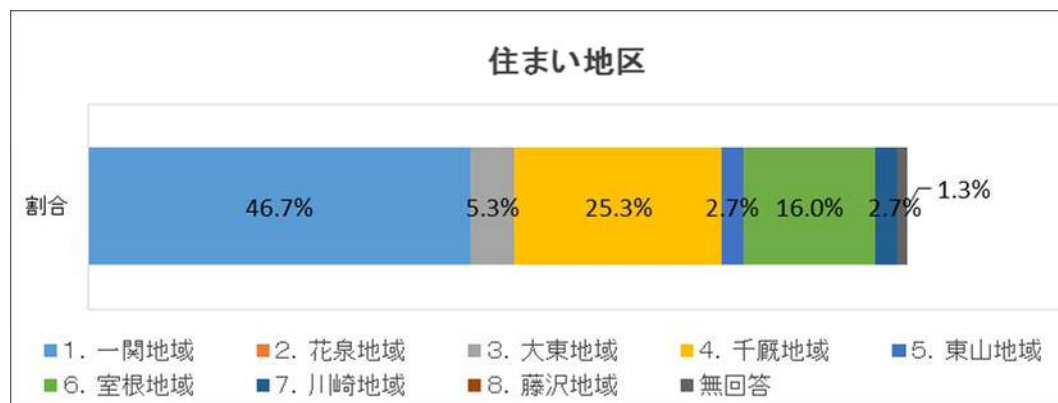
	人数	割合
1年未満	4	5.3%
1年～5年未満	22	29.3%
5年～10年未満	5	6.7%
10年～20年未満	19	25.3%
20年～30年未満	14	18.7%
30年以上	9	12.0%
無回答	2	2.7%
合計	75	94.7%



(6) 一関市で住まれていた「地域」についてお答えください。

「一関地域」が最も多く 46.7%となっており、次いで「千厩地域」が 25.3%となっています。

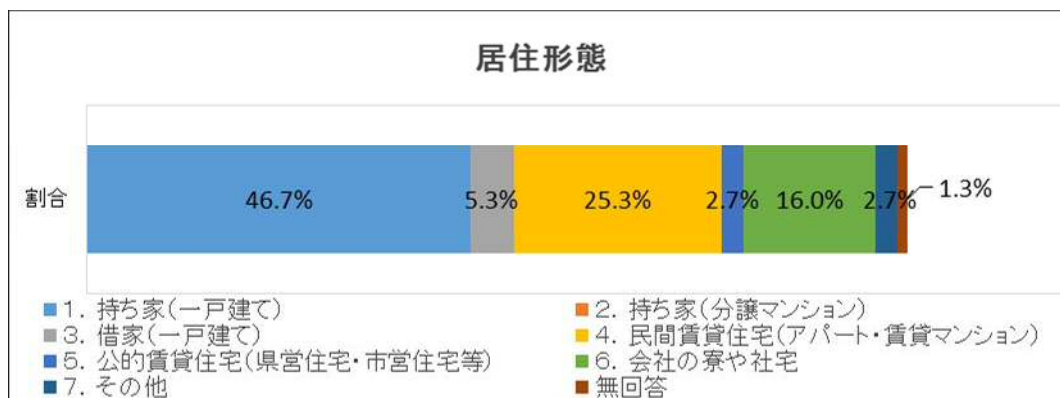
	人数	割合
1. 一関地域	35	46.7%
2. 花泉地域	0	0.0%
3. 大東地域	4	5.3%
4. 千厩地域	19	25.3%
5. 東山地域	2	2.7%
6. 室根地域	12	16.0%
7. 川崎地域	2	2.7%
8. 藤沢地域	0	0.0%
無回答	1	1.3%
合計	75	100.0%



(6) 2 一関市で住まれていた「居住形態」についてお答えください。

「持ち家（一戸建て）」が46.7%となっており、次いで「民間賃貸住宅（アパート・賃貸マンション）」が25.3%となっています。

	人数	割合
1. 持ち家（一戸建て）	35	46.7%
2. 持ち家（分譲マンション）	0	0.0%
3. 借家（一戸建て）	4	5.3%
4. 民間賃貸住宅（アパート・賃貸マンション）	19	25.3%
5. 公的賃貸住宅（県営住宅・市営住宅等）	2	2.7%
6. 会社の寮や社宅	12	16.0%
7. その他	2	2.7%
無回答	1	1.3%
合計	75	100.0%



(7) 転出先の都道府県/市町村をお書きください

転居先としては「県外」が最も多く98.0%を占めています。

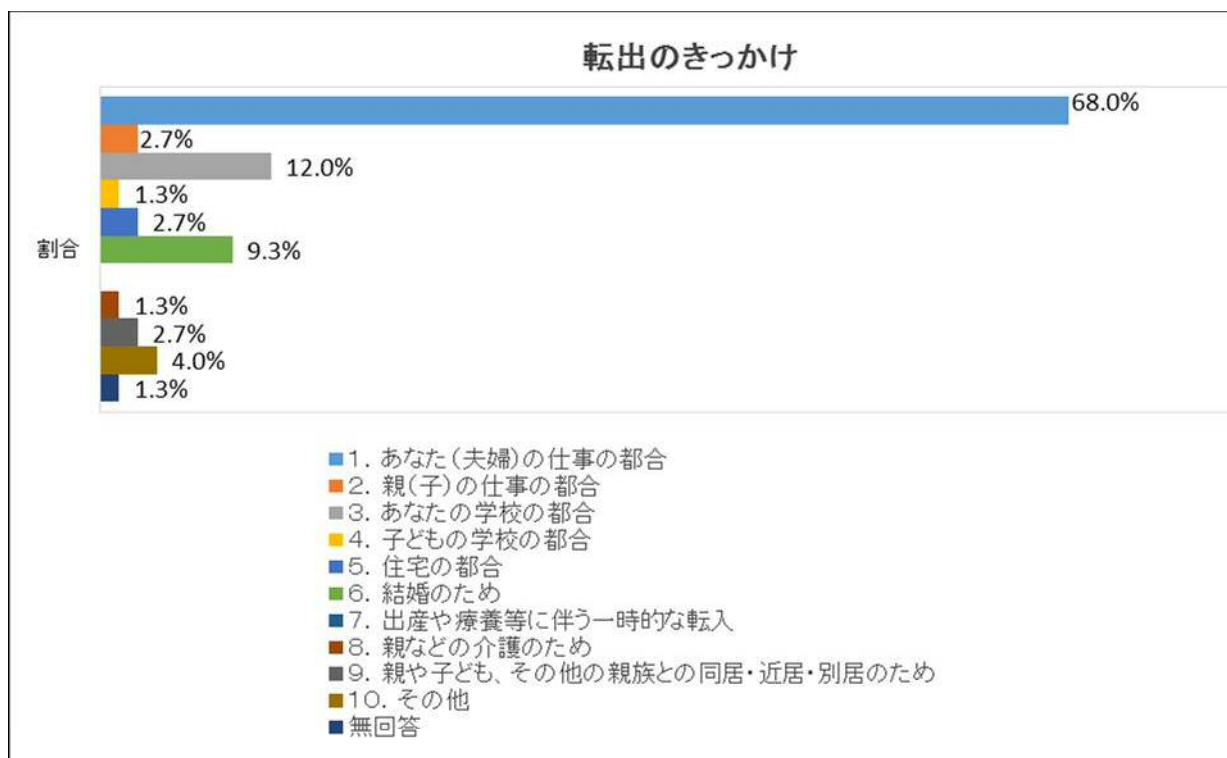
	人数	割合
1. 県内	1	1.3%
2. 県外	74	98.7%
3. 国外	0	0.0%
無回答	0	0.0%
合計	75	100.0%



(8) 一関市から転出されたきっかけは何ですか。(あてはまるもの3つまで)

「あなた(夫婦)の仕事の都合」が最も多く68.0%を占めており、次いで「あなたの学校の都合」が12.0%となっています。

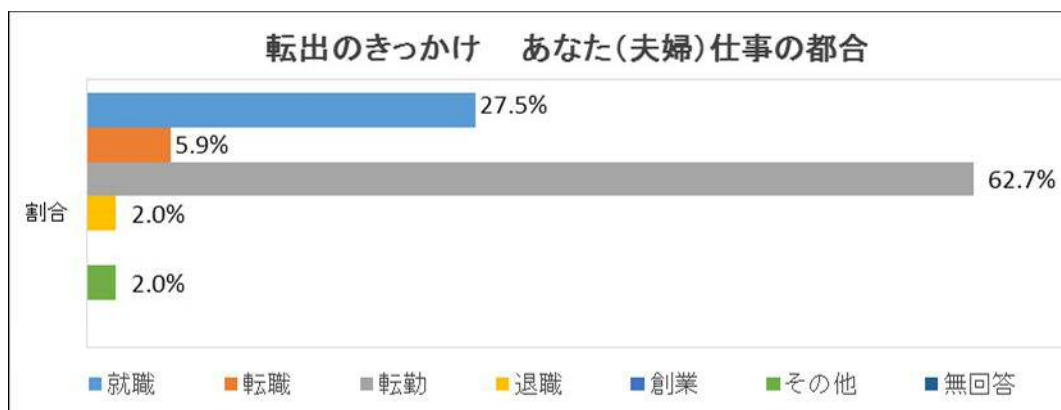
	人数	割合
1. あなた(夫婦)の仕事の都合	51	68.0%
2. 親(子)の仕事の都合	2	2.7%
3. あなたの学校の都合	9	12.0%
4. 子どもの学校の都合	1	1.3%
5. 住宅の都合	2	2.7%
6. 結婚のため	7	9.3%
7. 出産や療養等に伴う一時的な転入	0	0.0%
8. 親などの介護のため	1	1.3%
9. 親や子ども、その他の親族との同居・近居・別居のため	2	2.7%
10. その他	3	4.0%
無回答	1	1.3%
合計	79	



(8) 2 【「1. あなた(夫婦)の仕事の都合」を回答した方】

転出のきっかけは、「転勤」が最も多く62.7%を占めており、次いで「就職」が27.5%となっています。

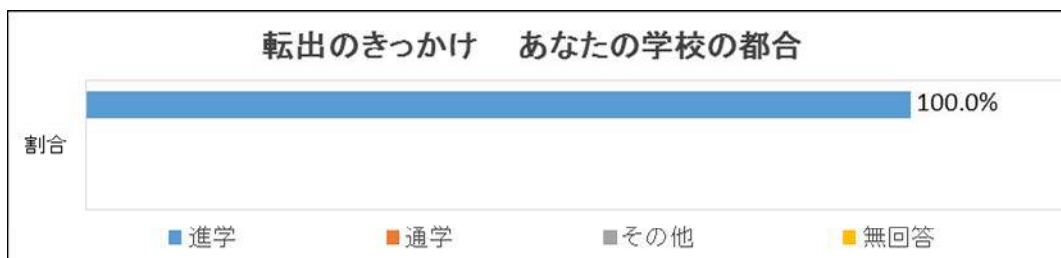
	人数	割合
就職	14	27.5%
転職	3	5.9%
転勤	32	62.7%
退職	1	2.0%
創業	0	0.0%
その他	1	2.0%
無回答	0	0.0%
合計	51	100.0%



(8) 4 【「3. あなたの学校の都合」を回答した方】

「進学」を選んでいます。

	人数	割合
進学	9	100.0%
通学	0	0.0%
その他	0	0.0%
無回答	0	0.0%
合計	9	100.0%



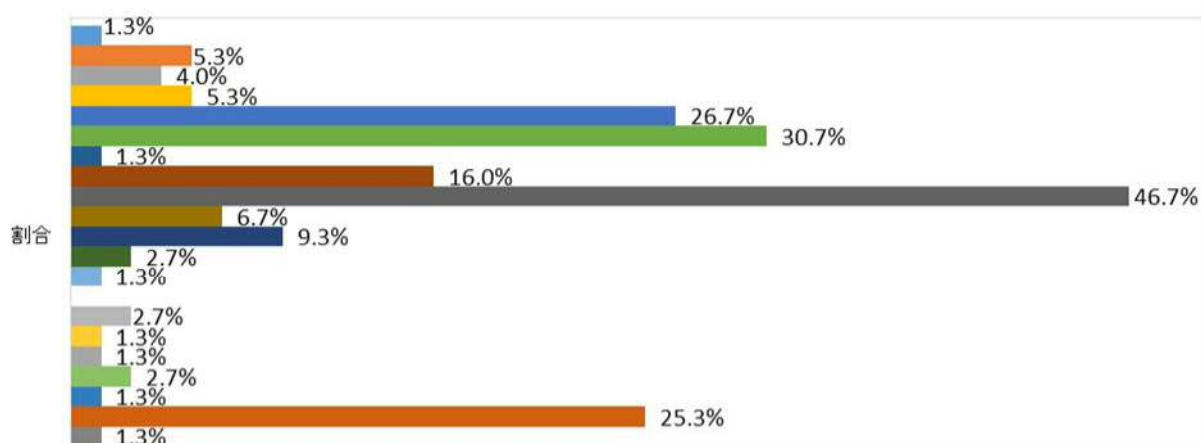
(9) 現在のお住まいを決めた際に重視した点は何ですか。

「職場が近い」が最も多く 46.7%と半数近くを占めており、次いで「買い物が便利」が 30.7%となっています。

その他としては、「交通の便が良い」が 26.7%、「その他」が 25.3%、「住宅価格や家賃が手頃」が 16.0%の順に多くなっています。

	人数	割合
1. 子育て支援が充実	1	1.3%
2. 教育や文化的な環境がよい	4	5.3%
3. 医療や福祉が充実	3	4.0%
4. 自然環境や景色がよい	4	5.3%
5. 交通の便がよい	20	26.7%
6. 買い物が便利	23	30.7%
7. 治安がよい	1	1.3%
8. 住宅価格や家賃が手頃	12	16.0%
9. 職場が近い	35	46.7%
10. 保育園や学校が近い	5	6.7%
11. 親・子ども・知人が近くにいる	7	9.3%
12. 金融機関が近い	2	2.7%
13. 娯楽施設が近くにある	1	1.3%
14. 飲食店が近くにある	0	0.0%
15. 生まれ育ったまちだから	2	2.7%
16. 物価が安い	1	1.3%
17. 病院等が近くにある	1	1.3%
18. 公園が近くにある	2	2.7%
19. 近所の助け合いがある	1	1.3%
20. その他	19	25.3%
無回答	1	1.3%
合計	145	

現在の場所に決めた理由

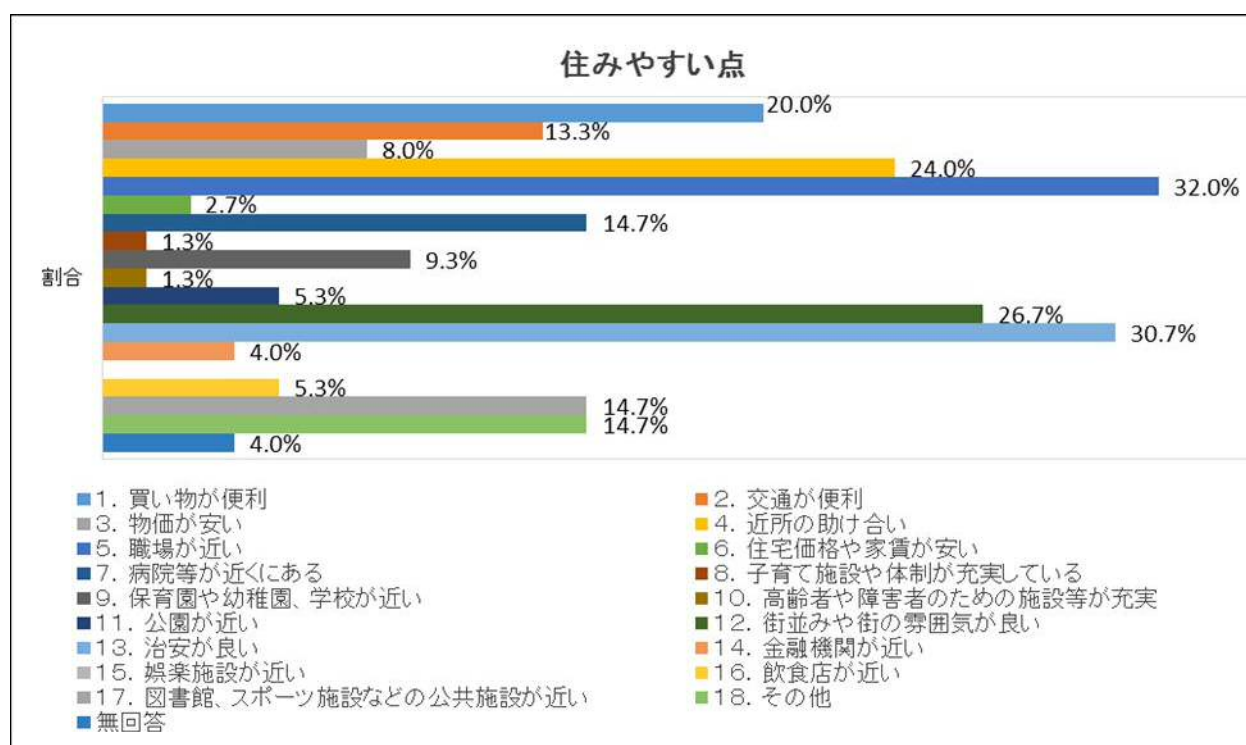


- 1. 子育て支援が充実
- 2. 教育や文化的な環境がよい
- 3. 医療や福祉が充実
- 4. 自然環境や景色がよい
- 5. 交通の便がよい
- 6. 買い物が便利
- 7. 治安がよい
- 8. 住宅価格や家賃が手頃
- 9. 職場が近い
- 10. 保育園や学校が近い
- 11. 親・子ども・知人が近くにいる
- 12. 金融機関が近い
- 13. 娯楽施設が近くにある
- 14. 飲食店が近くにある
- 15. 生まれ育ったまちだから
- 16. 物価が安い
- 17. 病院等が近くにある
- 18. 公園が近くにある
- 19. 近所の助け合いがある
- 20. その他
- 無回答

(10) 一関市に住んでいた時に、住みやすいと思った点はどれですか。(あてはまるもの3つまで)

住みやすい点としては、「職場が近い」が最も多く 32.0%となっており、次いで「治安が良い」が 30.7%となっています。

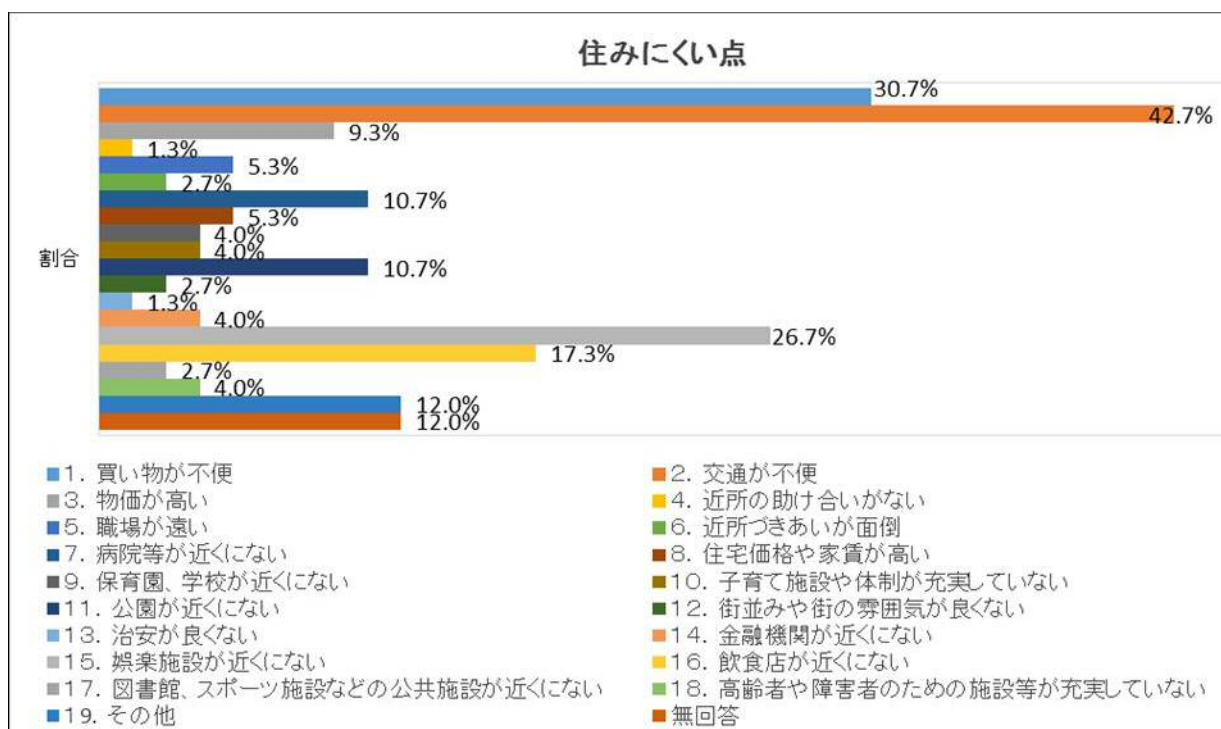
	人数	割合
1. 買い物が便利	15	20.0%
2. 交通が便利	10	13.3%
3. 物価が安い	6	8.0%
4. 近所の助け合い	18	24.0%
5. 職場が近い	24	32.0%
6. 住宅価格や家賃が安い	2	2.7%
7. 病院等が近くにある	11	14.7%
8. 子育て施設や体制が充実している	1	1.3%
9. 保育園や幼稚園、学校が近い	7	9.3%
10. 高齢者や障害者のための施設等が充実	1	1.3%
11. 公園が近い	4	5.3%
12. 街並みや街の雰囲気が良い	20	26.7%
13. 治安が良い	23	30.7%
14. 金融機関が近い	3	4.0%
15. 娯楽施設が近い	0	0.0%
16. 飲食店が近い	4	5.3%
17. 図書館、スポーツ施設などの公共施設が近い	11	14.7%
18. その他	11	14.7%
無回答	3	4.0%
合計	174	



(11) 一関市に住んでいた時に、住みにくいと思った点はどれですか。(あてはまるもの3つまで)

住みにくい点としては、「交通が不便」が最も多く 42.7%となっており、次いで「買い物が不便」が 30.7%となっています。

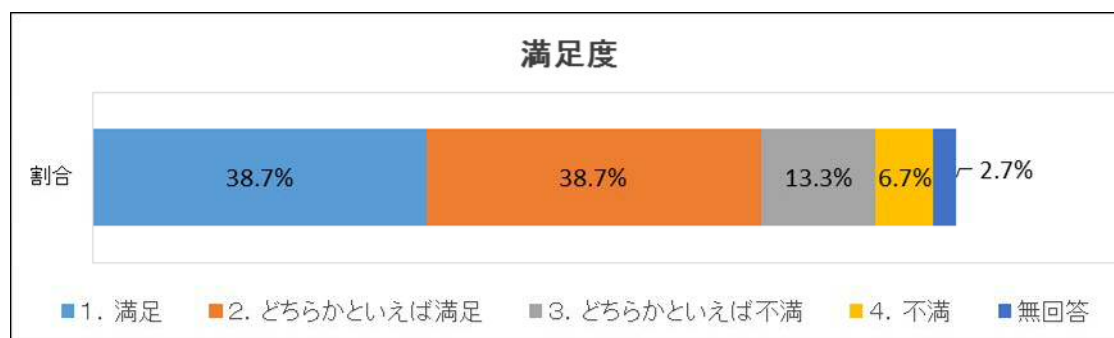
	人数	割合
1. 買い物が不便	23	30.7%
2. 交通が不便	32	42.7%
3. 物価が高い	7	9.3%
4. 近所の助け合いがない	1	1.3%
5. 職場が遠い	4	5.3%
6. 近所づきあいが面倒	2	2.7%
7. 病院等が近くにない	8	10.7%
8. 住宅価格や家賃が高い	4	5.3%
9. 保育園、学校が近くにない	3	4.0%
10. 子育て施設や体制が充実していない	3	4.0%
11. 公園が近くにない	8	10.7%
12. 街並みや街の雰囲気が良くない	2	2.7%
13. 治安が良くない	1	1.3%
14. 金融機関が近くにない	3	4.0%
15. 娯楽施設が近くにない	20	26.7%
16. 飲食店が近くにない	13	17.3%
17. 図書館、スポーツ施設などの公共施設が近くにない	2	2.7%
18. 高齢者や障害者のための施設等が充実していない	3	4.0%
19. その他	9	12.0%
無回答	9	12.0%
合計	157	



(12) 一関市にお住まいになって、満足されましたか。

満足度は「満足」と「どちらかといえば満足」がそれぞれ 38.7%を占めており、次いで「どちらかといえば不満」が 13.3%となっています。

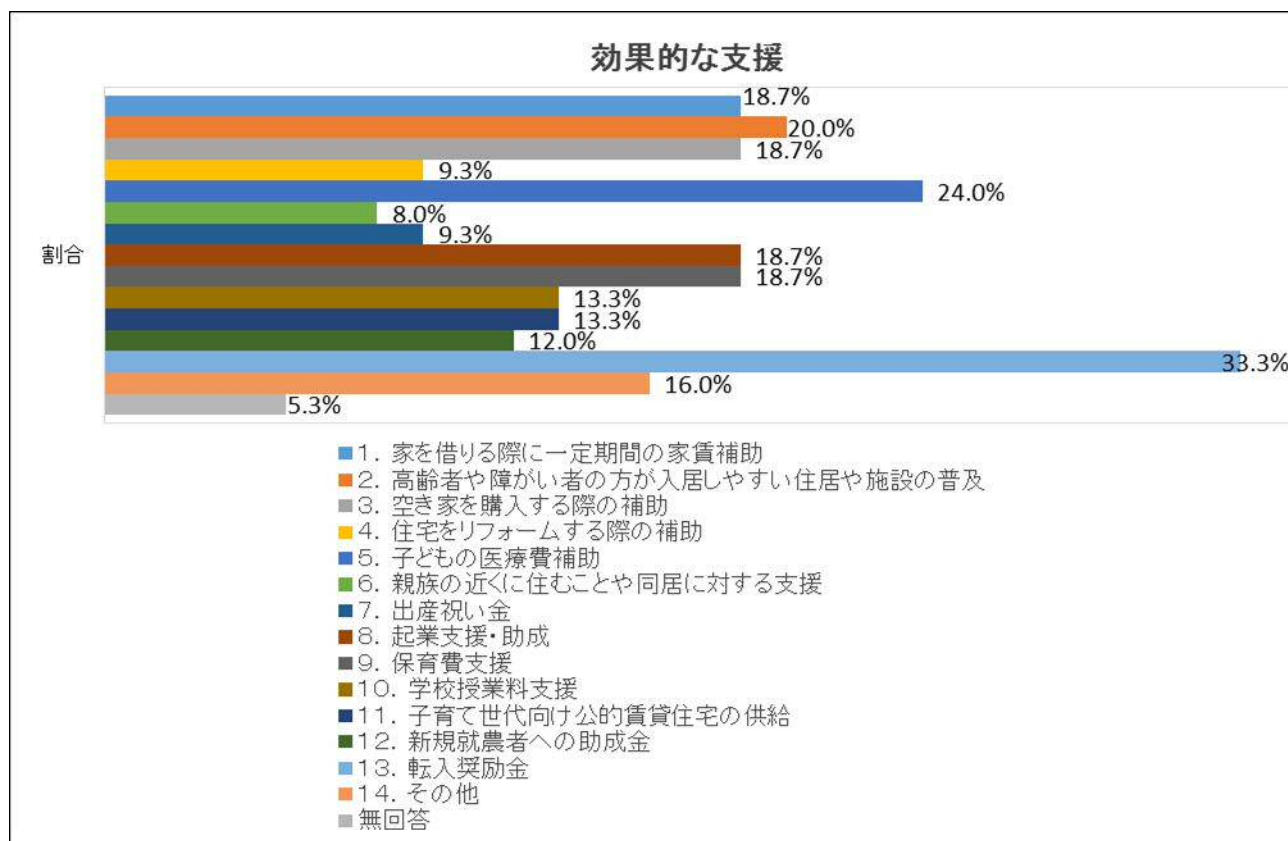
	人数	割合
1. 満足	29	38.7%
2. どちらかといえば満足	29	38.7%
3. どちらかといえば不満	10	13.3%
4. 不満	5	6.7%
無回答	2	2.7%
合計	75	100.0%



(13) 一関市への転入を増やすために、市が実施した方が良い効果的な支援はどれだと思いますか。(あてはまるもの3つまで)

効果的な支援としては、「転入奨励金」が 33.3%を占めており、次いで「子どもの医療費補助」が 24.0%となっています。

	人数	割合
1. 家を借りる際に一定期間の家賃補助	14	18.7%
2. 高齢者や障がい者の方が入居しやすい住居や施設の普及	15	20.0%
3. 空き家を購入する際の補助	14	18.7%
4. 住宅をリフォームする際の補助	7	9.3%
5. 子どもの医療費補助	18	24.0%
6. 親族の近くに住むことや同居に対する支援	6	8.0%
7. 出産祝い金	7	9.3%
8. 起業支援・助成	14	18.7%
9. 保育費支援	14	18.7%
10. 学校授業料支援	10	13.3%
11. 子育て世代向け公的賃貸住宅の供給	10	13.3%
12. 新規就農者への助成金	9	12.0%
13. 転入奨励金	25	33.3%
14. その他	12	16.0%
無回答	4	5.3%
合計	179	



(14) 機会があれば、一関市にもう一度、住みたいと思われませんか。

「住みたい」が78.7%を占めており、「住みたくない」が16.0%となっています。

	人数	割合
1. 住みたい	59	78.7%
2. 住みたくない	12	16.0%
無回答	4	5.3%
合計	75	100.0%

